

「市民1000人調査、200人討論」
調査報告書

慶應義塾大学DP研究会

目次

はじめに—討論型世論調査とは何か.....	1
I 調査の実施概要.....	5
II 調査対象者の基本属性.....	9
III 調査結果の概要.....	11
IV 「藤沢のいま」、「藤沢のこれから」に関する意見を 問う質問.....	17
V 藤沢市に関する知識を問う質問.....	40
VI 「藤沢のこれから、1日討論」に関する質問.....	47
おわりに.....	63

はじめに

—討論型世論調査とは何か

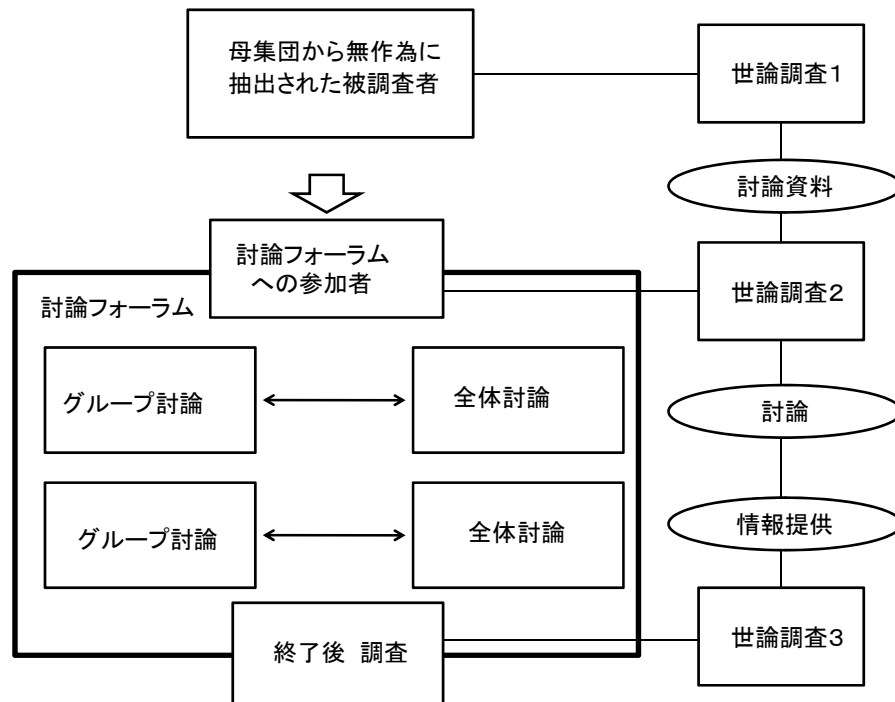
Deliberative Poll（討論型世論調査）とは

Deliberative Poll（討論型世論調査、以下「DP」といいます）は、十分な情報を提供し、他者との討論（コミュニケーション）を経た状態での、市民の意見を聴取する世論調査の新しい手法です。調査の過程において市民が他の市民と意見を交換する「討論」の過程を入れることで、市民が調査テーマについて「学び（learn）、考え（think）、話す（talk）」機会をもつことができます。つまりDPでは、討論の過程を経て、より考えられた市民の意見や態度を調査することが可能であるという点で、従来の世論調査よりも一段深いレベルの世論調査だと呼ぶことができます。慶應義塾大学DP研究会では、この調査が討論プロセスと世論調査という二つの性格を合わせ持っていることから、「討論型世論調査」という訳語を使用しています。

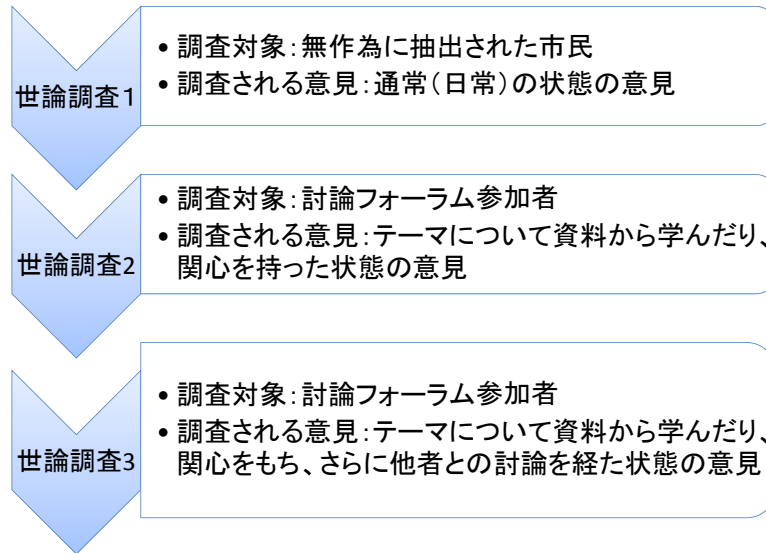
DPでは、まず通常の世界調査と同様に、母集団から調査対象を無作為抽出して、世論調査を行います（図1・世論調査1）。次に、調査対象者から討論フォーラムへの参加を募ります。無作為抽出を経てフォーラム参加者が選ばれることで、討論の場が母集団の縮図（microcosm）となり、調査結果が統計上の有意性をもつように留意します。そしてフォーラムの本番では、フォーラムの開始前、終了後に、それぞれ調査を行います（図1・世論調査2、3）。世論調査2の前には、フォーラム参加者に対して、十分な情報量をもち、かつ公平な討論資料が提供されます。また、世論調査2と世論調査3の間には、グループによる討論と、参加者全員による全体討論が、複数回繰り返して行われます。

つまりDPにおいては、①情報が与えられておらず、他者との討論も行っていない状態の世論（世論調査1）、②討論資料からの情報を得ているが、討論は行っていない状態の世論（世論調査2）、③討論資料からの情報に加えて、他者との討論や専門家からの情報提供を受けた状態の世論（世論調査3）、という3つの段階の世論が調査することができます（図2参照）。

【図1. 討論型世論調査の全体像】



【図2. DPの3段階の世論調査】



DPにおいて最も重要なのは、討論フォーラムにおけるグループ討論と全体討論です。グループ討論では、15人～20人のグループに分かれ、討論を行います。この場では、参加者間の合意形成は行わず、参加者にそれぞれの意見や経験を分かち合ってもらうことを重視します。司会役は市民の討論になるべく言葉を挟まず、討論が自然な会話のように展開するようにします。また、グループ討論の最後で、参加者が全体討論用の質問をまとめる際のサポートも行います。

全体討論は、参加者がグループ討論で生まれた疑問点などを専門家や政策立案者に質問し、意見を聞いたり、情報提供を受けるための場です。また、討論フォーラムの参加者全員が1つの会場に集まることで、参加者は他のグループがどのような討論を行い、どんな質問を出すのかを把握することもできます。通常、全体討論では司会役が1名、専門家が3～4人参加します。専門家は、討論のテーマに沿って、各分野からバランスをとって選ばれます。

【図3. グループ討論・全体討論の特徴】

グループ討論	全体討論
<ul style="list-style-type: none"> • 参加者を15人から20人のグループに分けて討論を行う • 司会はファシリテーターが担当 • ファシリテーターは討論の場が独占されないように配慮する • 参加者間の合意は求めない • 討論の最後に全体討論用の質問をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> • 参加者全員を1つの場所に集める • 討論テーマに詳しい専門家や政策担当者が、参加者に対して情報提供を行う • グループでまとめた質問をグループの代表者が発表し、それに対して専門家が自分の意見を述べたり、情報提供をする

I 調査の実施概要

1. 調査の目的

藤沢市では新総合計画の策定に当たり、幅広く藤沢市民の「声」を計画に反映させることを目標に掲げています。藤沢市の地域活動などに積極的に関わってきた市民の方々はもちろん、藤沢市の未来や地域活動に興味を持っていても、なかなか意見を表明したり、活動に参加したりする機会がなかった市民の方々の声も抽出する必要があると考えました。

これまで藤沢市では、市民の方々の意見や提案をインターネットなどで受け付けたり、政策・計画をつくる際には、パブリックコメントなどを実施したりしていますが、一般の市民の方々の意見はなかなか政治や行政には伝わりにくいものです。また、日頃忙しくて、藤沢市が主催する集会や、地域の活動に参加することが難しい方が多いのも事実です。

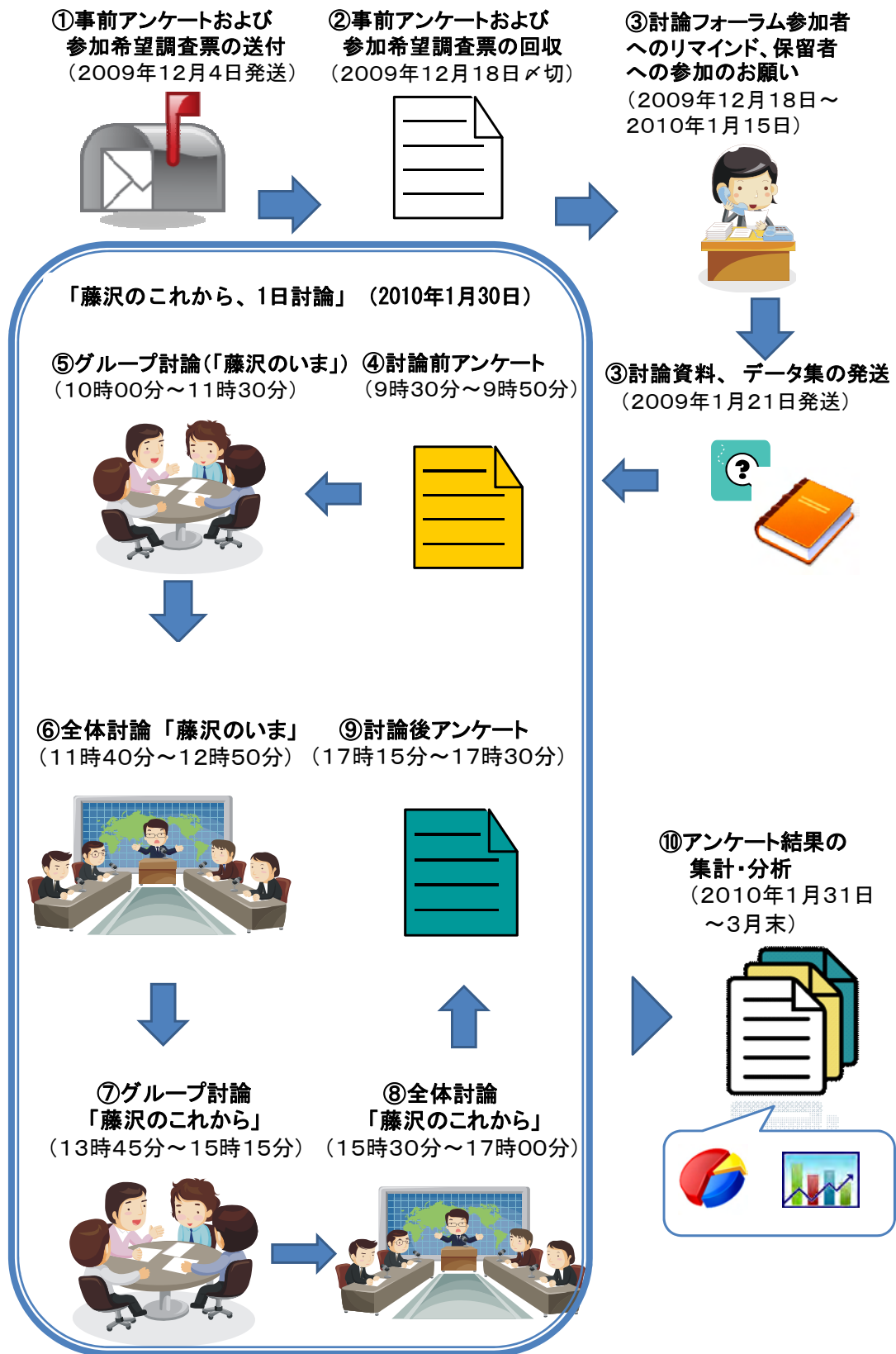
その意味で、今回の総合計画の策定過程において、D Pという新たな世論調査の手法を用いて、無作為抽出を経て選ばれた市民の方々が、1日をかけて「藤沢のいま」と「藤沢のこれから」についてじっくりと考え、意見や情報の交換をした上で、どのような方向性を望むのかを調べることはとても重要であると考えました。

2. 調査の項目

今回の調査では、「藤沢のいま」と「藤沢のこれから」という大きなテーマを設定しました。そのため、藤沢市はどのような事業を採用すべきか、藤沢市は何をすべきか、という具体的な事柄に関する市民の意見は問いませんでした。「藤沢のいま」というテーマでは、市民の方々が藤沢の現状をどのように感じているのか、また、それに対して、どのような方向に進むべきと考えているかという世論を調査しました。「藤沢のこれから」というテーマでは、複数の政策の争点に関して市民に難しい選択を迫り、そこでの市民の方々の選択を参考にして、今後藤沢市が進むべき道筋を調査しました。

3. 調査の流れ

今回の調査の流れは以下のとおりです。



4. 調査の方法

①「藤沢のこれから、1日討論」に関するアンケート（事前アンケート）

- ・調査地域 藤沢市全域
- ・調査対象 満20歳以上の市民
- ・対象者数 3,000人
- ・抽出方法 2009年10月1日現在、住民基本台帳（住基）に登録されている市民を層化二段階方式で抽出（一段階目・年代、二段階目・居住地区）
- ・調査方法 調査用紙を対象者に郵送、郵便で回収
- ・調査日程 ①調査用紙の発送 2009年12月4日

②「藤沢のこれから、1日討論」当日アンケート（当日アンケート）

- ・調査対象 「藤沢のこれから、1日討論」の参加者
- ・対象者数 258人
- ・抽出方法 事前アンケートの送付対象者3,000人に対して、「藤沢のこれから、1日討論」参加希望調査票を送付
- ・調査方法 「藤沢のこれから、1日討論」の討論イベント開始前と終了後に、調査用紙を対象者に配布、直接回収
- ・調査日程 討論前 2010年1月30日 9時30分～9時50分
討論後 2010年1月30日 17時30分～17時45分

5. 調査の設計・運営

調査の設計・運営は、藤沢市の委託を受け、慶應義塾大学DP研究会（代表 曾根泰教 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授）が行いました。

Ⅱ 調査結果の概要

1. 調査の回収結果

本調査の回収結果は以下のとおりです。

- ①「藤沢のこれから、1日討論」に関するアンケート（事前アンケート）
 - ・母集団 407,452人（2009年10月1日現在の住基データより）
 - ・調査対象者数 3,000人
 - ・必要回答数 384人（目標精度5%、信頼率95%、母集団比率0.5）
 - ・回答数 1,217人（回答率40.6%）
 - ・有効回答数 1,185人（有効回答率97.4%）

- ②「藤沢のこれから、1日討論」当日アンケート（当日アンケート）
 - ・調査対象者数 258人（討論前・討論後）
 - ・回答数 258人（討論前・討論後）（回答率100.0%）
 - ・有効回答数 258人（討論前・討論後）（有効回答率100.0%）

2. 調査結果

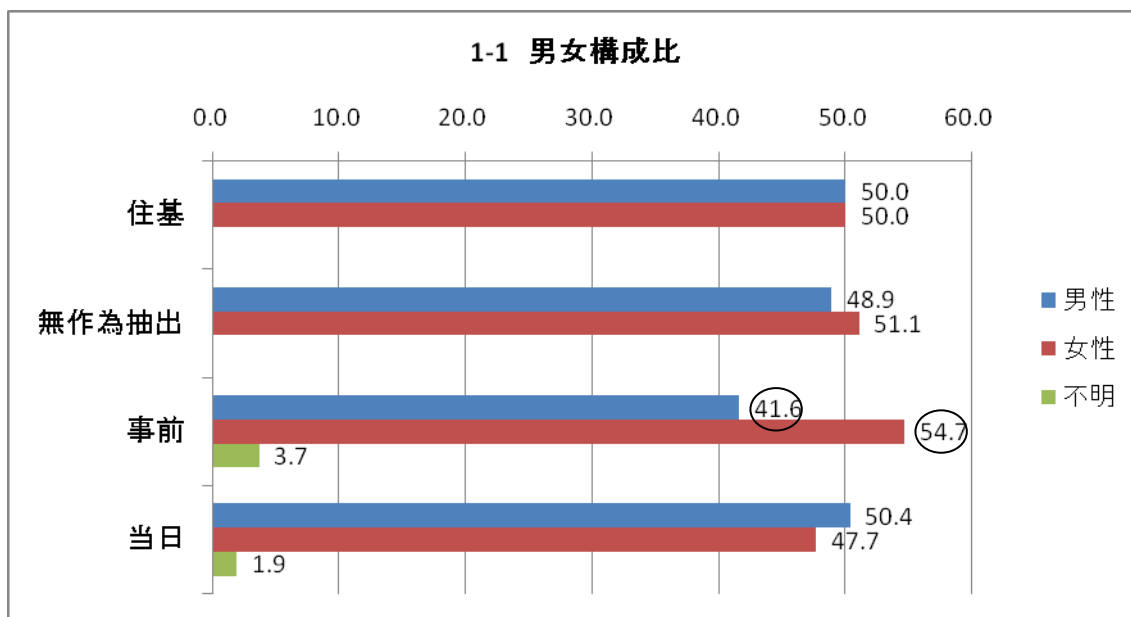
調査結果の概要については、次章以降に記します。

Ⅲ 調査対象者の基本属性

今回の調査結果は、小数点第2位を四捨五入し、構成比率（パーセンテージ）で少数第一位まで表示してあります。そのため、回答率の合計が100.0%にならない場合があります。

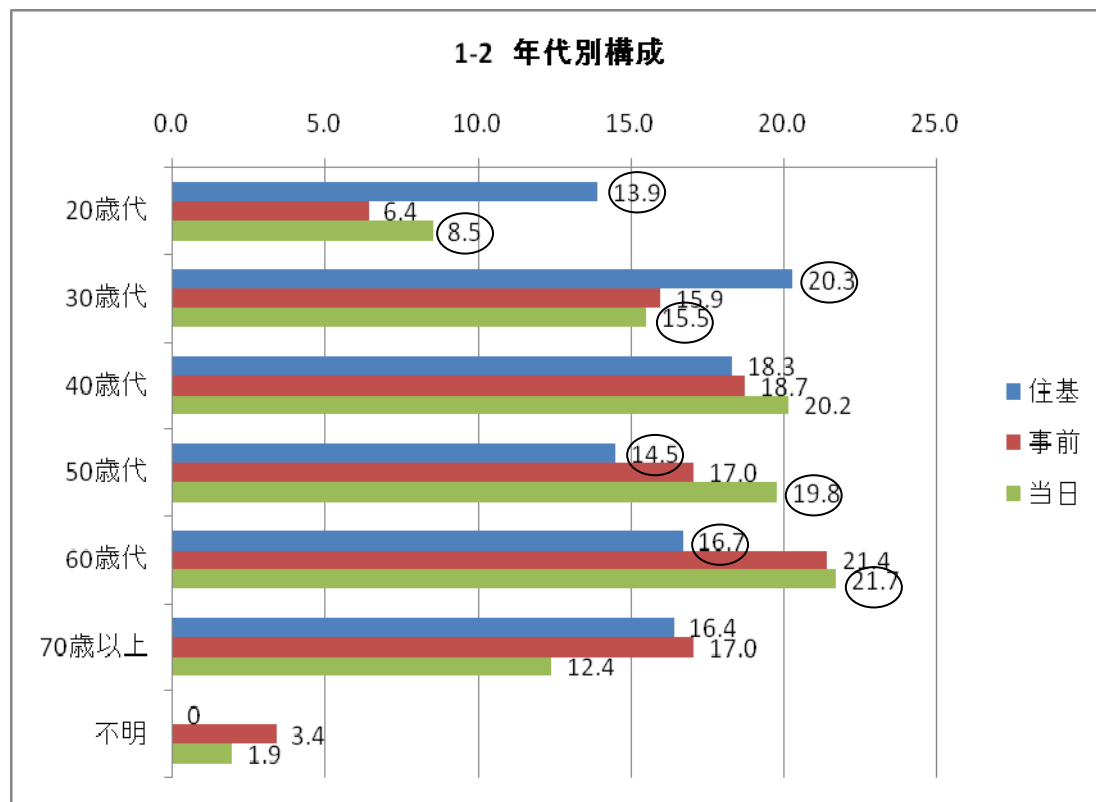
1-1 男女構成比

- 事前アンケートでは、男性41.6%、女性54.7%となり、女性が男性を13.1ポイント上回りました。
- 当日アンケートでは、男性50.4%、女性47.7%となり、男性が2.7ポイント上回りました。



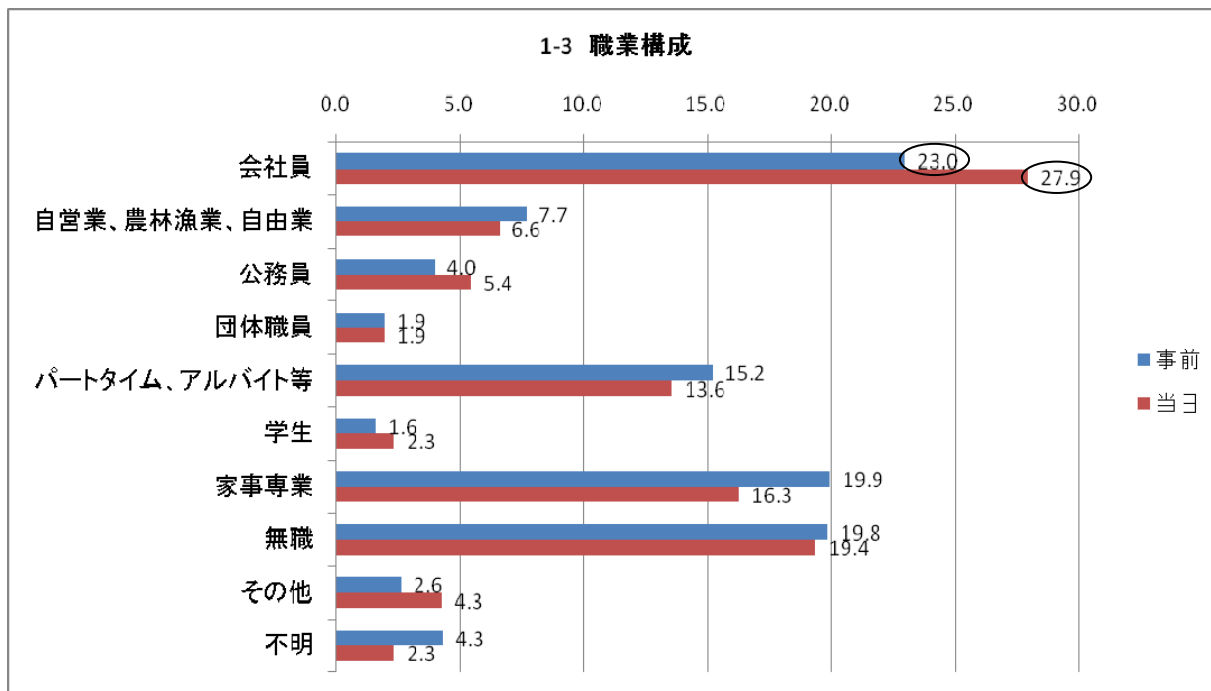
1-2 年代別構成

- 事前アンケート・当日アンケートともに、20代、30代は人口データを下回り、40代、50代、60代は上回りました。



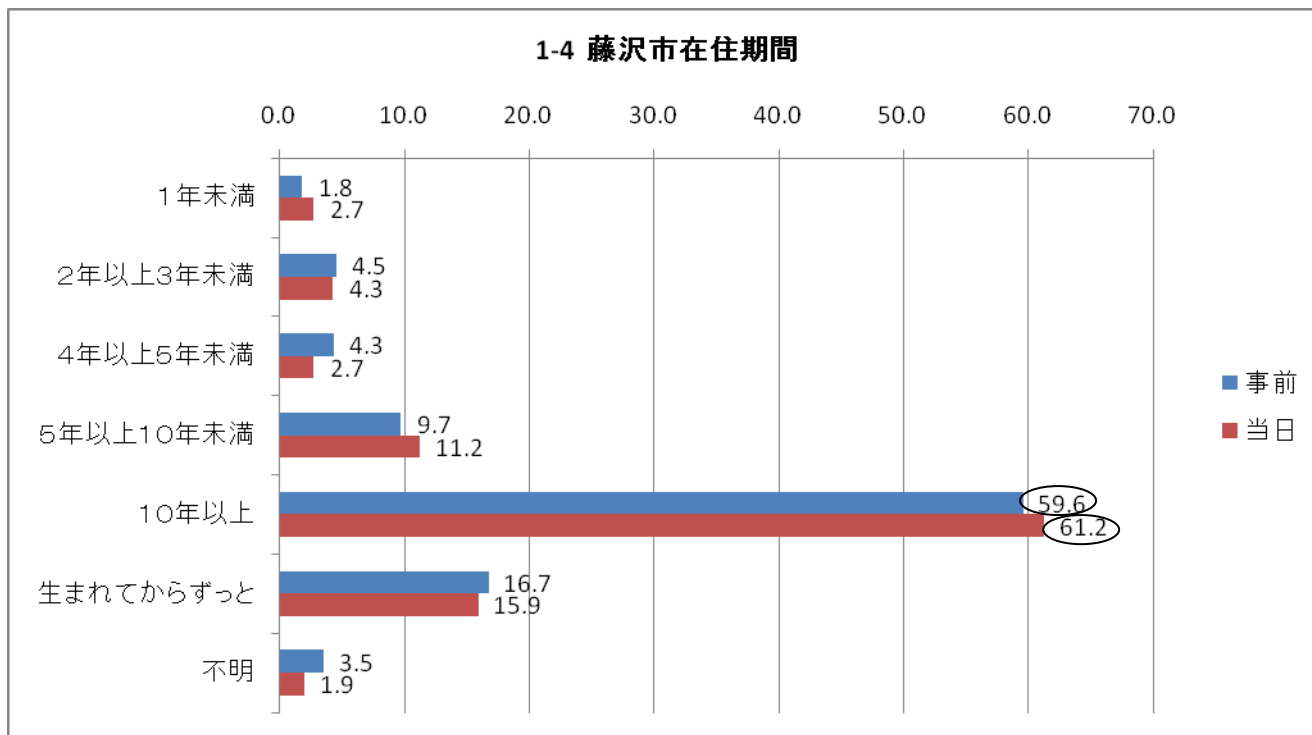
1-3 職業構成

- 事前アンケート、当日アンケートともに最も多かったのは会社員でした。
- 職業構成に関して事前アンケート、当日アンケートの間に極端な違いは見られませんでした。



1-4 藤沢市在住期間

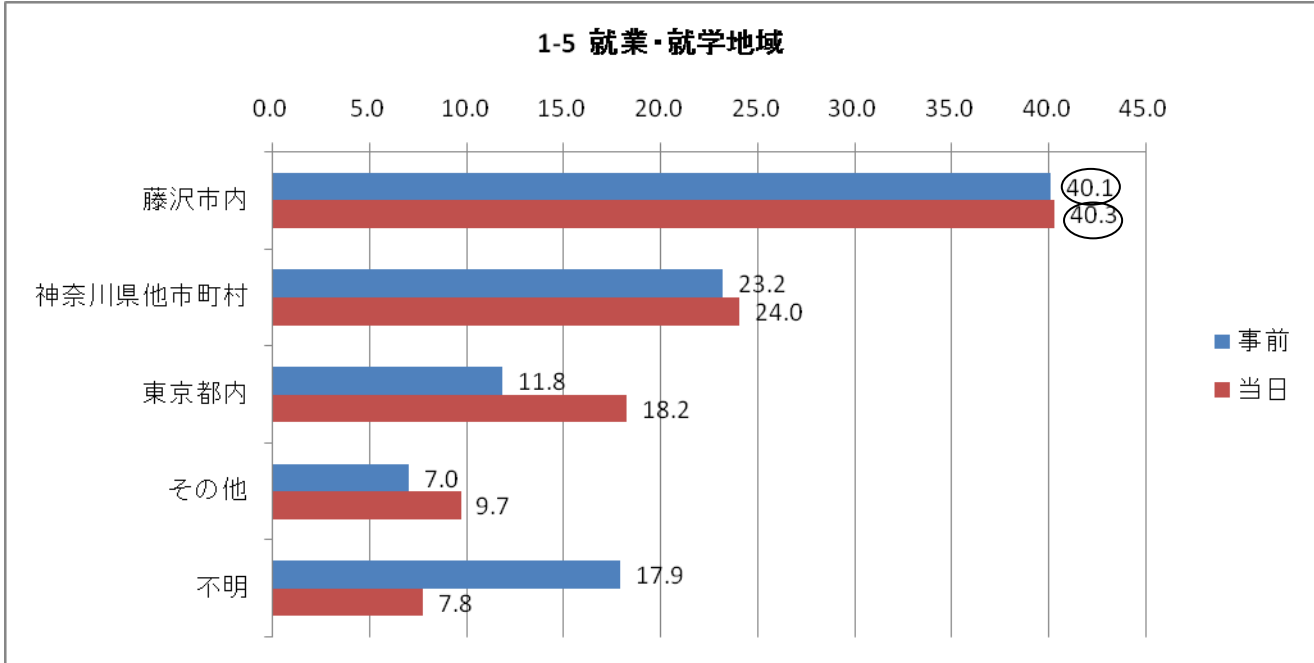
- 事前アンケート、当日アンケートともに藤沢市に10年以上在住されている方が過半数を超えました。
- 在住期間に関して事前アンケート、当日アンケートの間に大きな違いは見られませんでした。



1-5 就業・就学地域

●事前アンケート、当日アンケートともに最も多かったのは藤沢市内で就業・就学されている方でした。

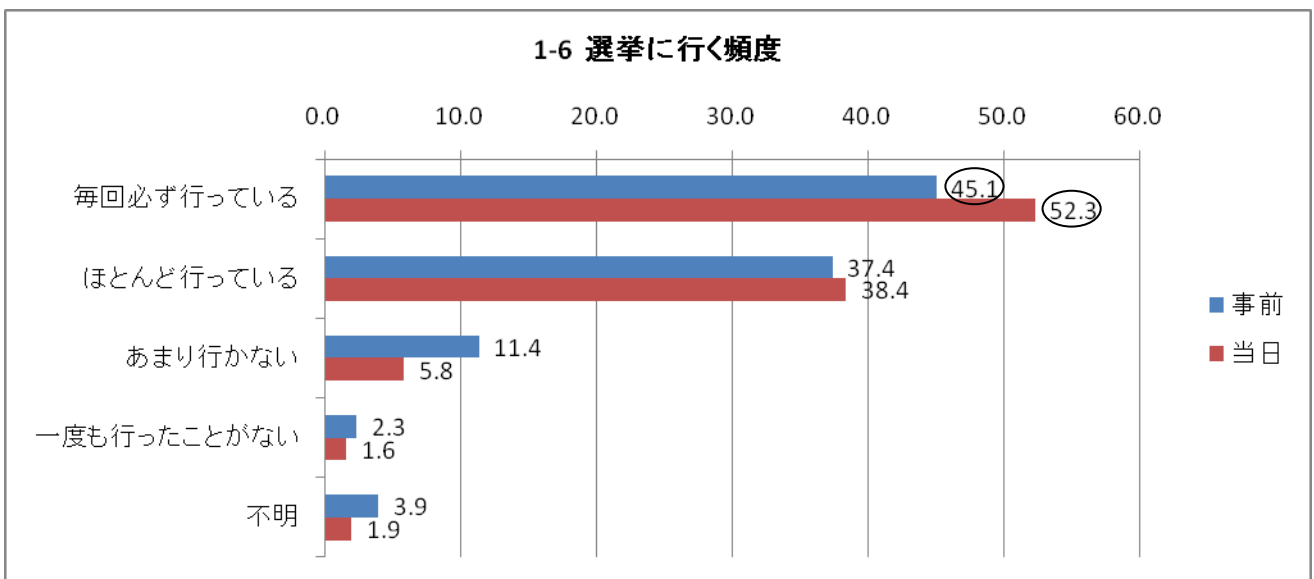
●就業・就学地域に関して事前アンケート、当日アンケートの間に大きな違いは見られませんでした。



1-6 選挙に行く頻度

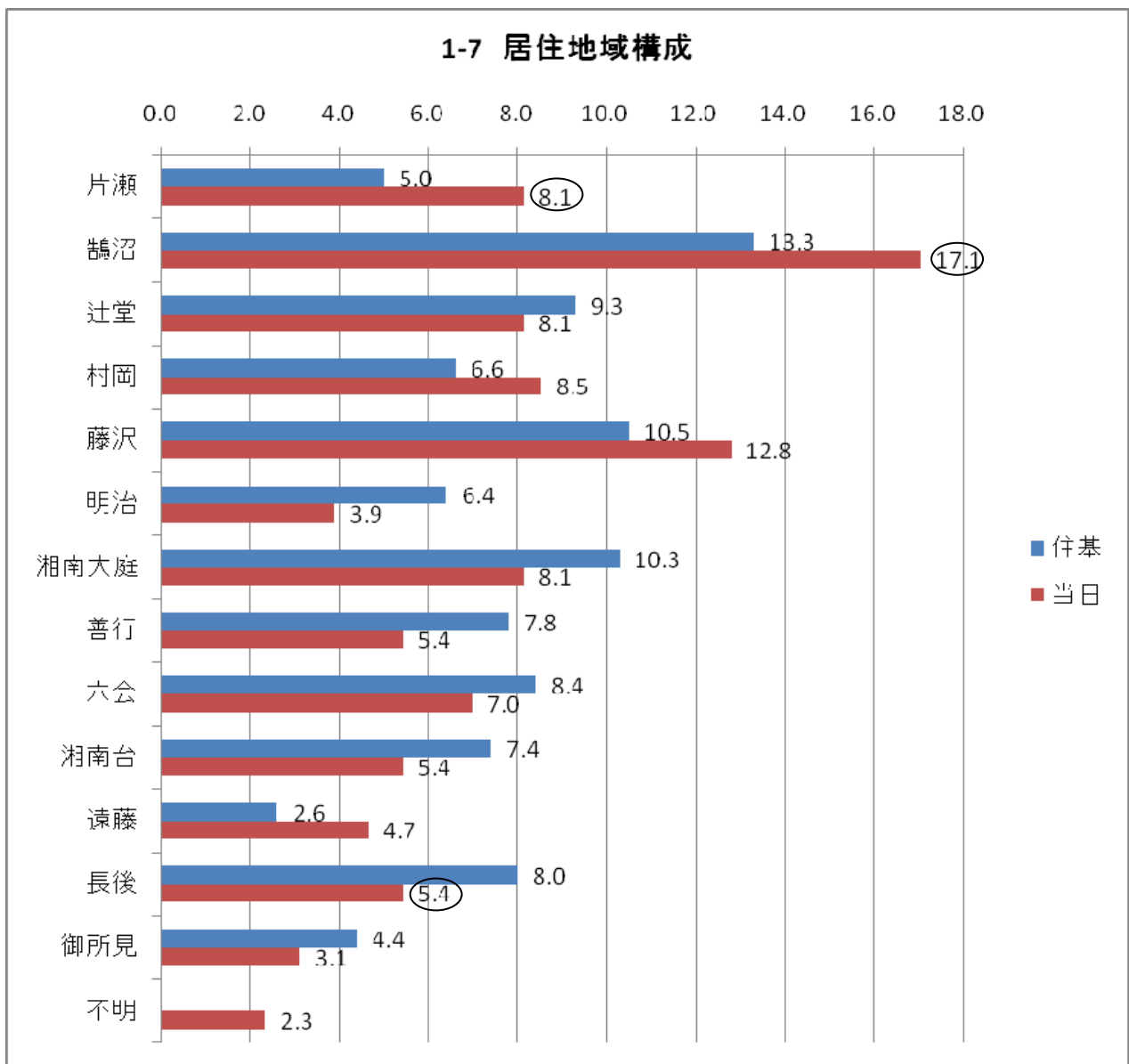
●事前アンケート、当日アンケートともに最も多かったのは「毎回必ず選挙に行く」という方でした。

●選挙に行く頻度に関して、当日参加者のほうが選挙に行く頻度が高くなる傾向が見られました。



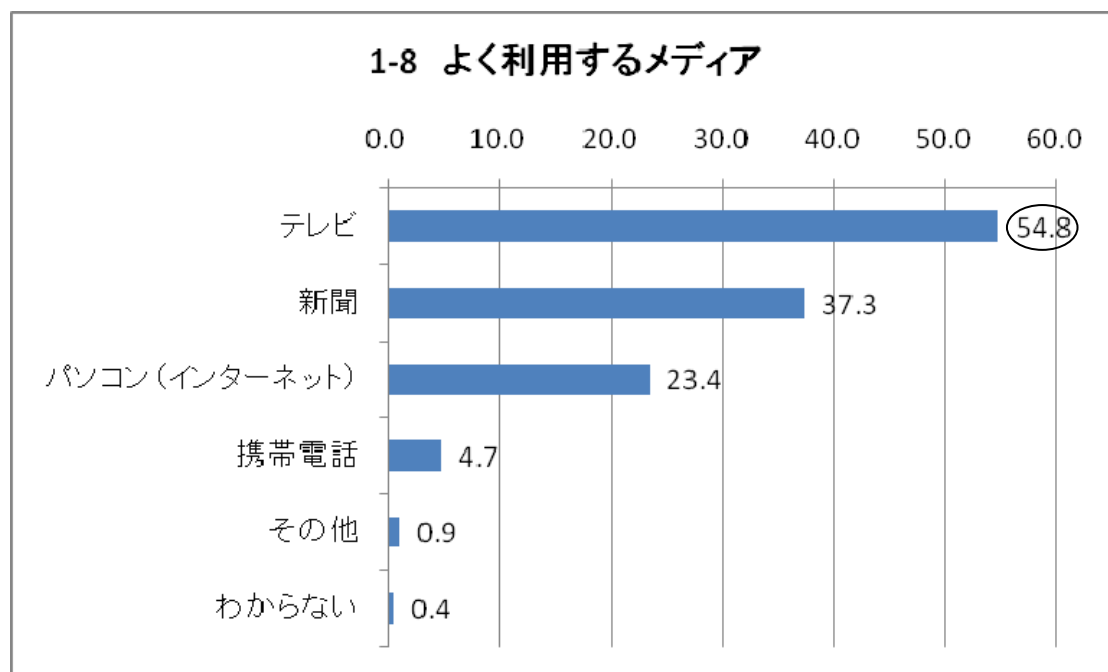
1-7 居住地区別構成

- 人口データより抽出された地区別の総人口比と、当日アンケートの結果はかなり近い水準にあります。
- 人口データと当日参加者との間で差が大きかった地域は以下のとおりです。
 - ・片瀬 プラス3.1ポイント
 - ・鵜沼 プラス3.8ポイント
 - ・長後 マイナス2.6ポイント



1-8 よく利用するメディア（複数回答・事前アンケートのみ）

●事前アンケートでよく利用するメディアについて聞いたところ、回答者の半数を超える54.8%が「テレビ」と回答しました。次に多かったのは「新聞」の37.3%、続いて「パソコン（インターネット）」の23.4%となりました。



IV 「藤沢のいま」、「藤沢のこれから」に関する意見を問う質問 (事前、討論前、討論後アンケート)

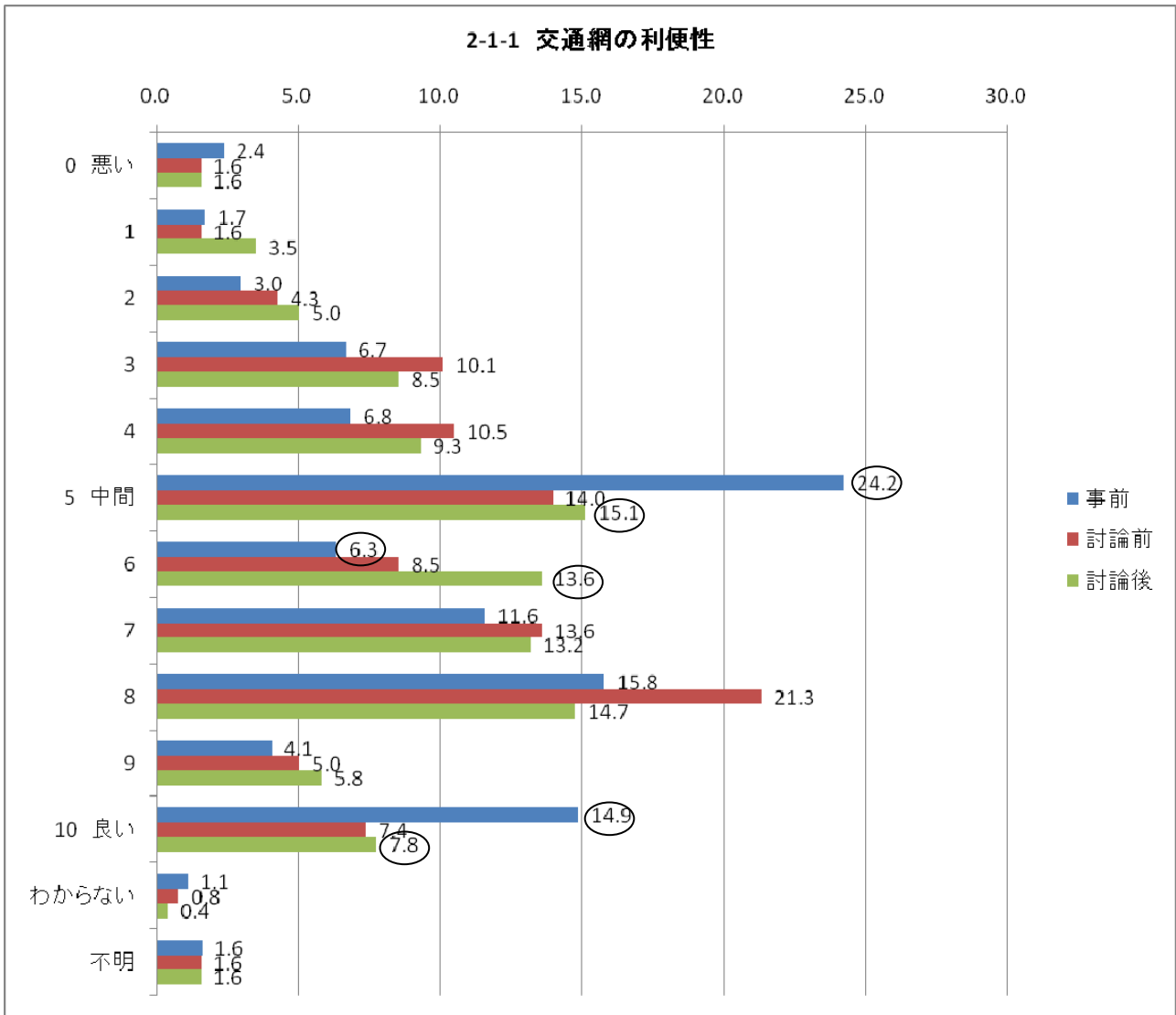
2-1 現在の藤沢の便利なこと、不便なこと

問 あなたが藤沢で暮らすなかで、便利だと思うこと、不便だと思うことは何ですか。以下の①から⑩の項目に関して、最も悪い場合を「0」、最も良い場合を「10」、ちょうど中間の意見を「5」とすると、あなたのご意見（評価）はどこに位置しますか。

①交通網の利便性

- 良い：52.7% ⇒ 55.1%（2.4ポイント↑）
- 中間：24.2% ⇒ 15.1%（9.1ポイント↓）
- 悪い：20.6% ⇒ 27.9%（7.3ポイント↑）

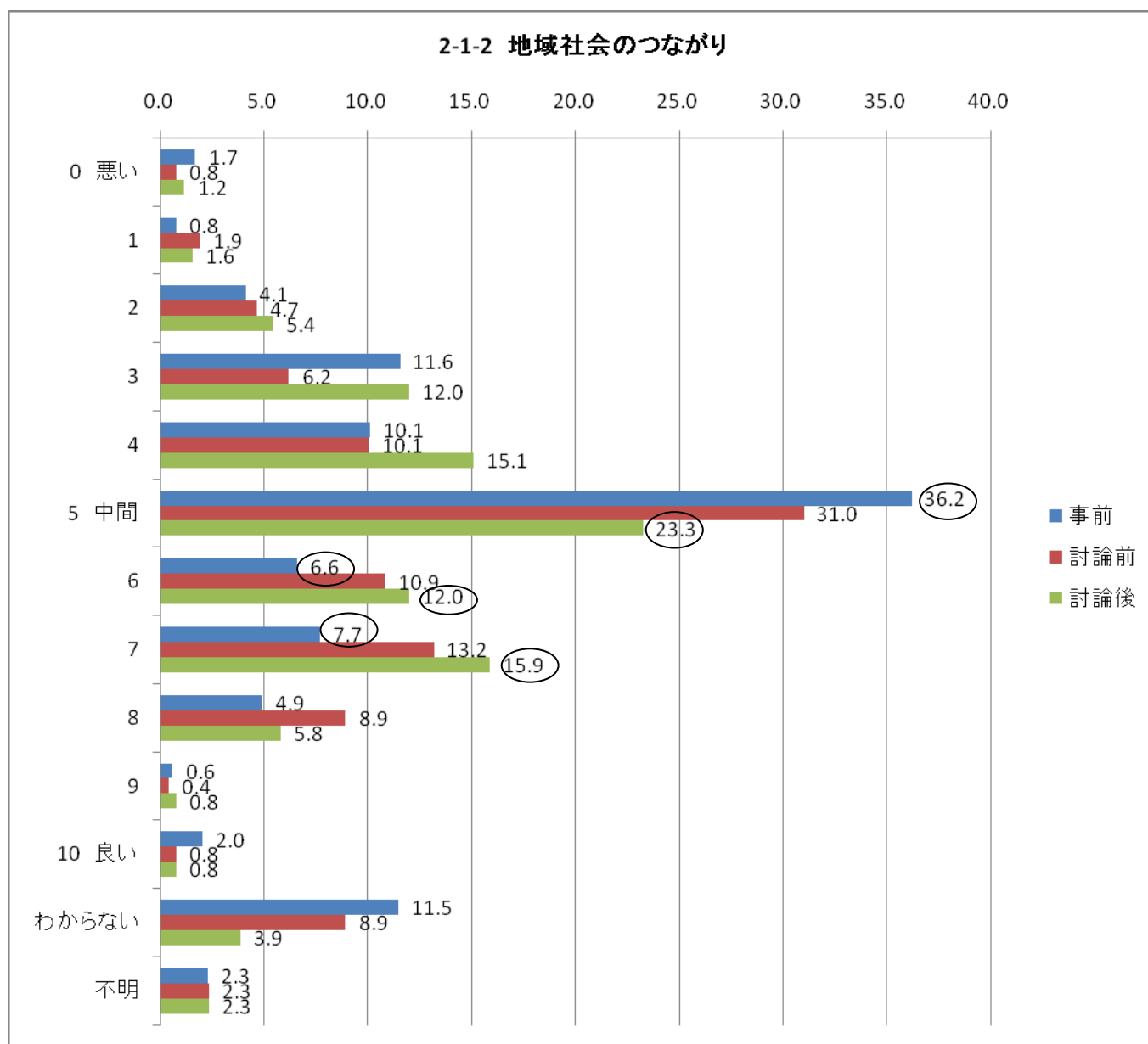
現在の藤沢市の交通網の利便性について聞きました。図2-1-1のとおり、「良い」という意見（6,7,8,9,10）が、「悪い」という意見（0,1,2,3,4）を大きく上回りました。ただ、事前アンケートと討論後アンケートで比較すると、「悪い」という意見が全体で7.3ポイント増加し、「良い」という意見のなかでも、最も高い評価である「10」が約半分に減少しています。



②地域社会のつながり

- 良い : 21.8% ⇒ 35.3% (13.5ポイント↑)
- 中間 : 36.2% ⇒ 23.3% (12.9ポイント↓)
- 悪い : 28.3% ⇒ 35.3% (7.0ポイント↓)

現在の藤沢市の各地域のつながりについて聞きました。図2-1-2のとおり、事前アンケートでは、「悪い」という意見(0,1,2,3,4)が「良い」という意見(6,7,8,9,10)を、6.5ポイント上回っていましたが、討論後アンケートでは、「良い」と「悪い」が同じ割合になりました。また「中間」(5)という意見は、事前アンケートの36.2%から、討論後アンケートでは23.3%まで減少しています。事前アンケートと討論後アンケートを比較して変化が大きかったのは、「4」(5ポイント↑)、「6」(5.4ポイント↑)、「7」(8.2ポイント↑)でした。

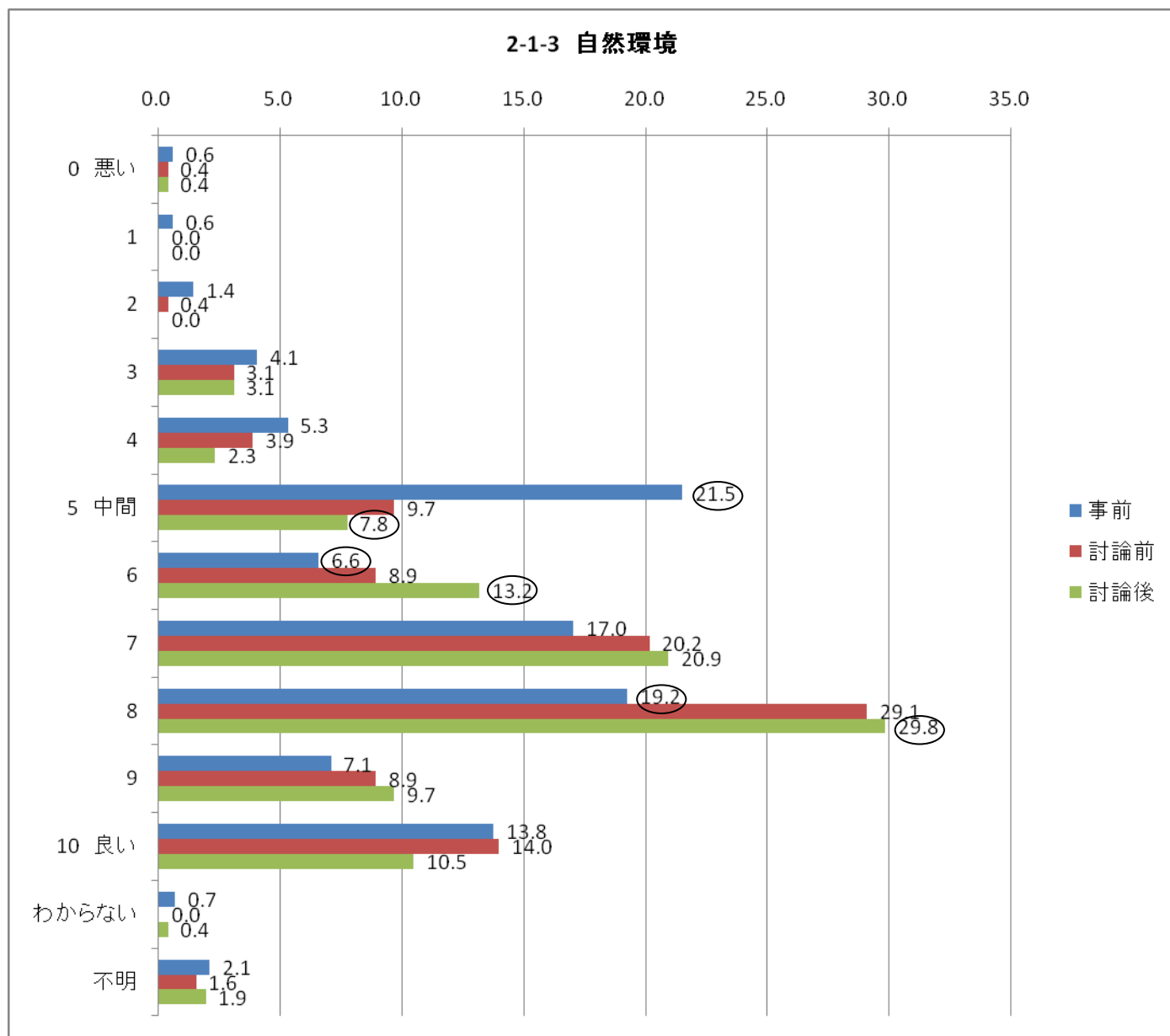


③自然環境の良さ

- 良い : 63.7% ⇒ 84.1% (20.4ポイント↑)
- 中間 : 21.5% ⇒ 7.8% (13.7ポイント↓)
- 悪い : 12.0% ⇒ 5.8% (6.2ポイント↓)

現在の藤沢市の自然環境について聞きました。図2-1-3のとおり、事前アンケート、討論後アンケートともに「良い」という意見(0,1,2,3,4)が「悪い」という意見(6,7,8,9,10)を上回りました。特に「良い」は、事前アンケートと討論後アンケートの間で20ポイント以上増加しています。

事前アンケートと討論後アンケートを比較して変化が大きかったのは、「5」(13.2ポイント↓)、「6」(6.6ポイント↑)、「8」(10.6ポイント↑)でした。

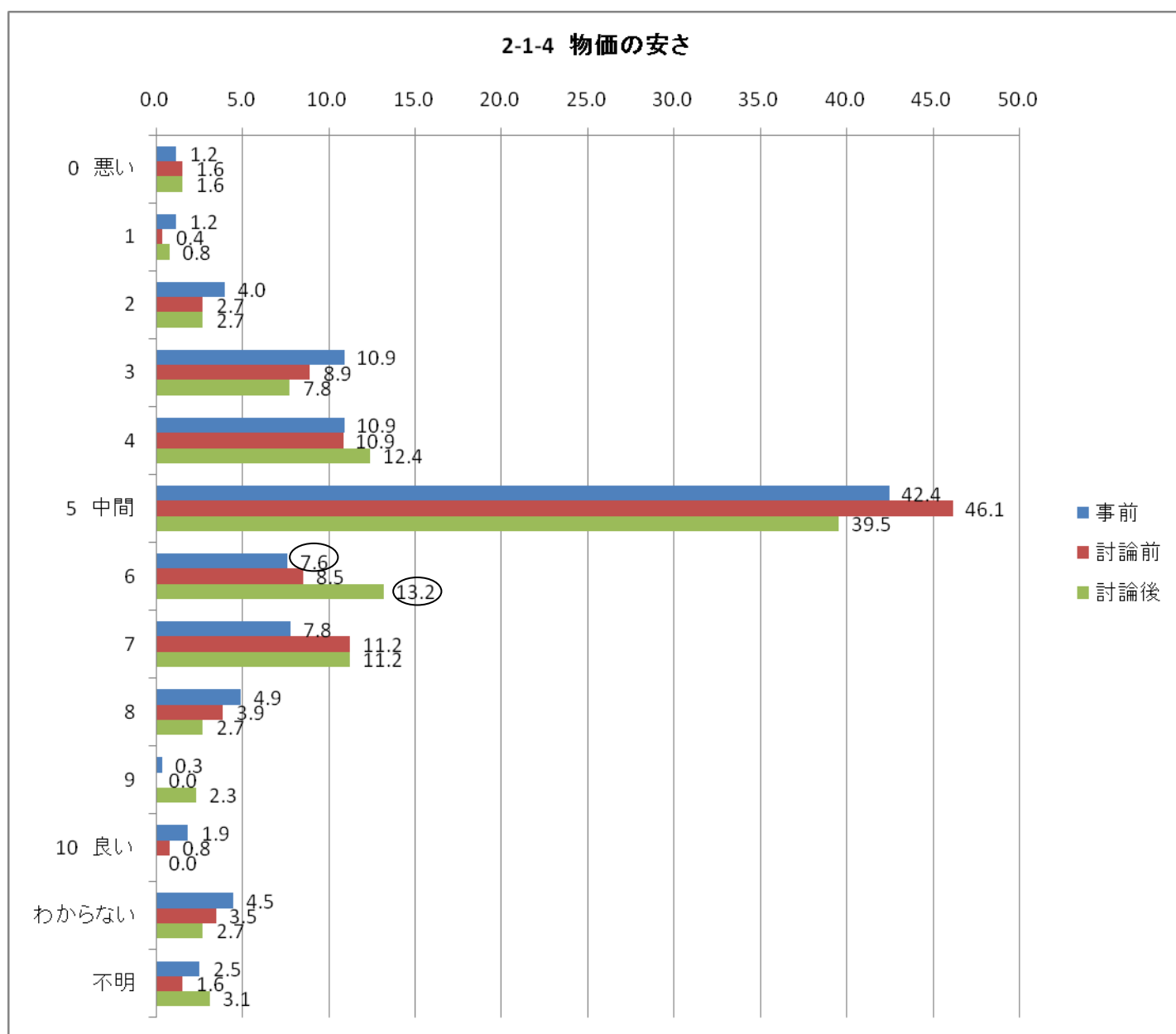


④ 物価の水準

- 良い : 22.5% ⇒ 29.4% (6.9ポイント↑)
- 中間 : 42.4% ⇒ 39.5% (2.9ポイント↓)
- 悪い : 28.2% ⇒ 25.3% (2.9ポイント↓)

現在の藤沢市の物価水準について聞きました。図2-1-4のとおり、事前アンケートでは「中間」が最も多く、その次に「悪い」という意見(0,1,2,3,4)と「良い」という意見(6,7,8,9,10)が僅差で続くというかたちになりました。討論後アンケートでも「中間」が最も多かったのは変わっていませんでしたが、「良い」が「悪い」を逆転し、4.1ポイント上回りました。

事前アンケートと討論後アンケートを比較し変化が大きかったのは、「6」(5.6ポイント↑)でした。

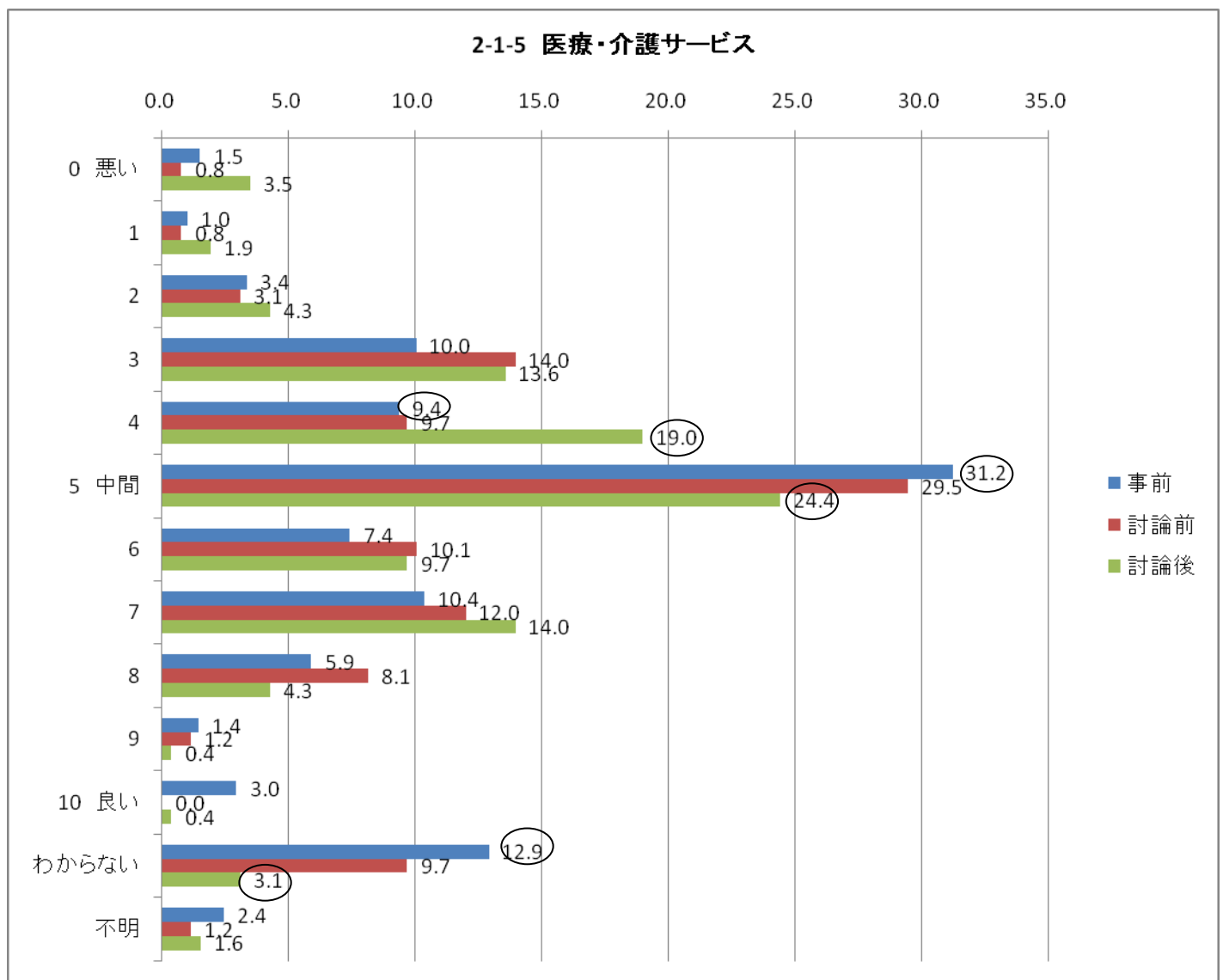


⑤ 医療・介護サービスの水準

- 良い : 28.1% ⇒ 28.8% (0.7%ポイント↑)
- 中間 : 31.2% ⇒ 24.4% (6.8ポイント↓)
- 悪い : 25.3% ⇒ 42.3% (17.0ポイント↑)

現在の藤沢市の医療・介護サービスの水準について聞きました。図2-1-5のとおり、事前アンケートでは「中間」の意見が31.2%と最も多く、「悪い」という意見(0,1,2,3,4)が25.3%、「良い」という意見(6,7,8,9,10)が28.1%で続くという結果でした。それに対して、討論後アンケートでは「悪い」が42.3ポイント(13.4ポイント↑)となり、続いて「良い」が28.8% (0.7ポイント↑)、「中間」が24.4% (6.8ポイント↓)と続き、順番が入れ替わりました。

事前アンケートと討論後アンケートを比較し変化が大きかったのは、「4」(9.6ポイント↑)、「5」(6.8ポイント↓)、「わからない」(9.8ポイント↓)でした。

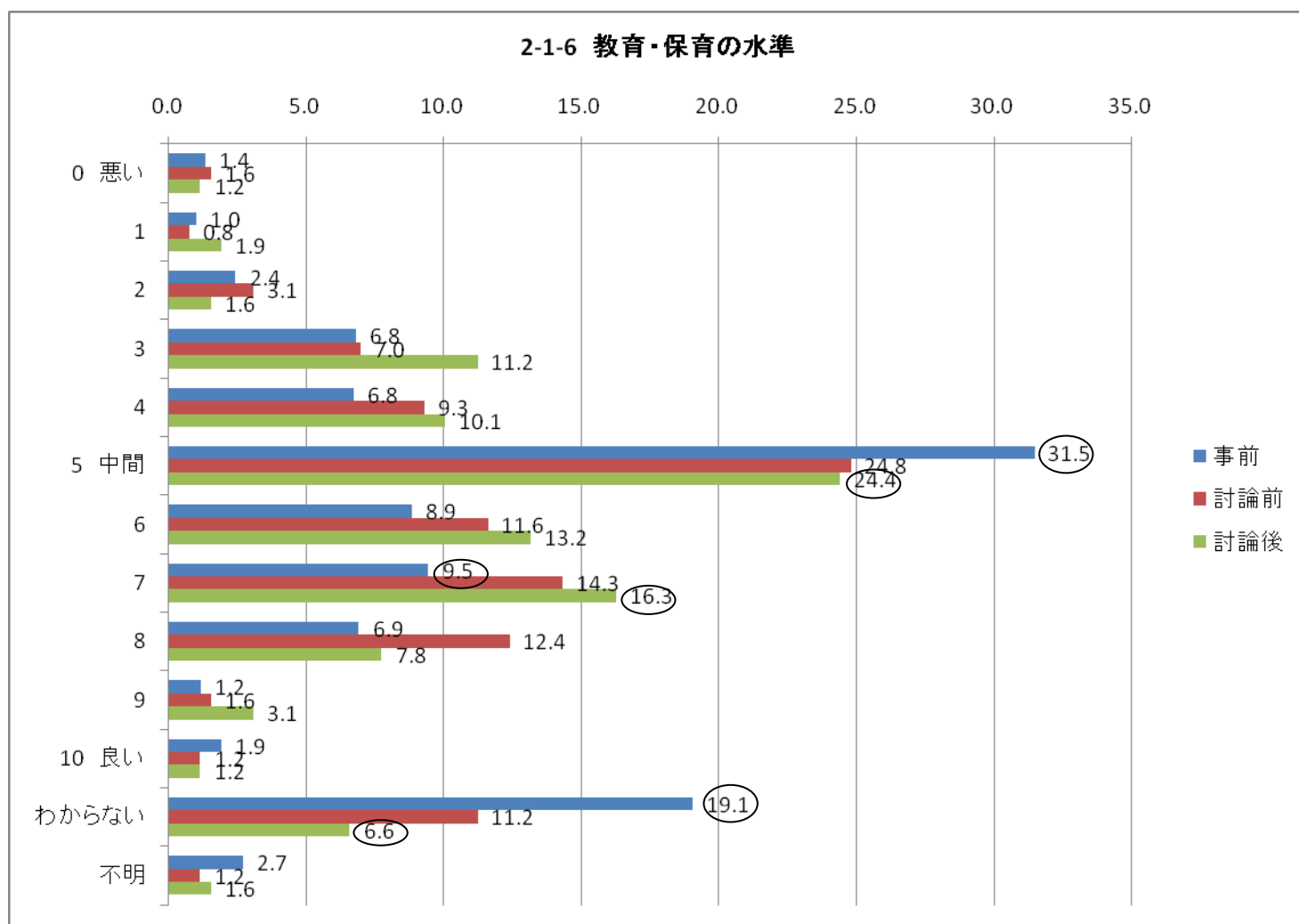


⑥教育・保育の水準

- 良い : 28.4% ⇒ 41.6% (13.2ポイント↑)
- 中間 : 31.5% ⇒ 24.4% (7.1ポイント↓)
- 悪い : 18.4% ⇒ 26.0% (7.6ポイント↑)

現在の藤沢市の教育・保育の水準について聞きました。図2-1-6のとおり、事前アンケートでは、「中間」という意見が31.5%と最も多く、それに「良い」という意見(6,7,8,9,10)が28.4%、「悪い」という意見(0,1,2,3,4)が18.4%と続きました。討論後アンケートでは「良い」が41.6%(13.2ポイント↑)となり、続いて「悪い」が26.0%(7.6ポイント↑)、「中間」が24.4%(7.1ポイント↓)となりました。

事前アンケートと討論後アンケートを比較して変化が大きかったのは、「5」(7.1ポイント↓)、「7」(6.8ポイント↑)、「わからない」(12.5ポイント↓)でした。

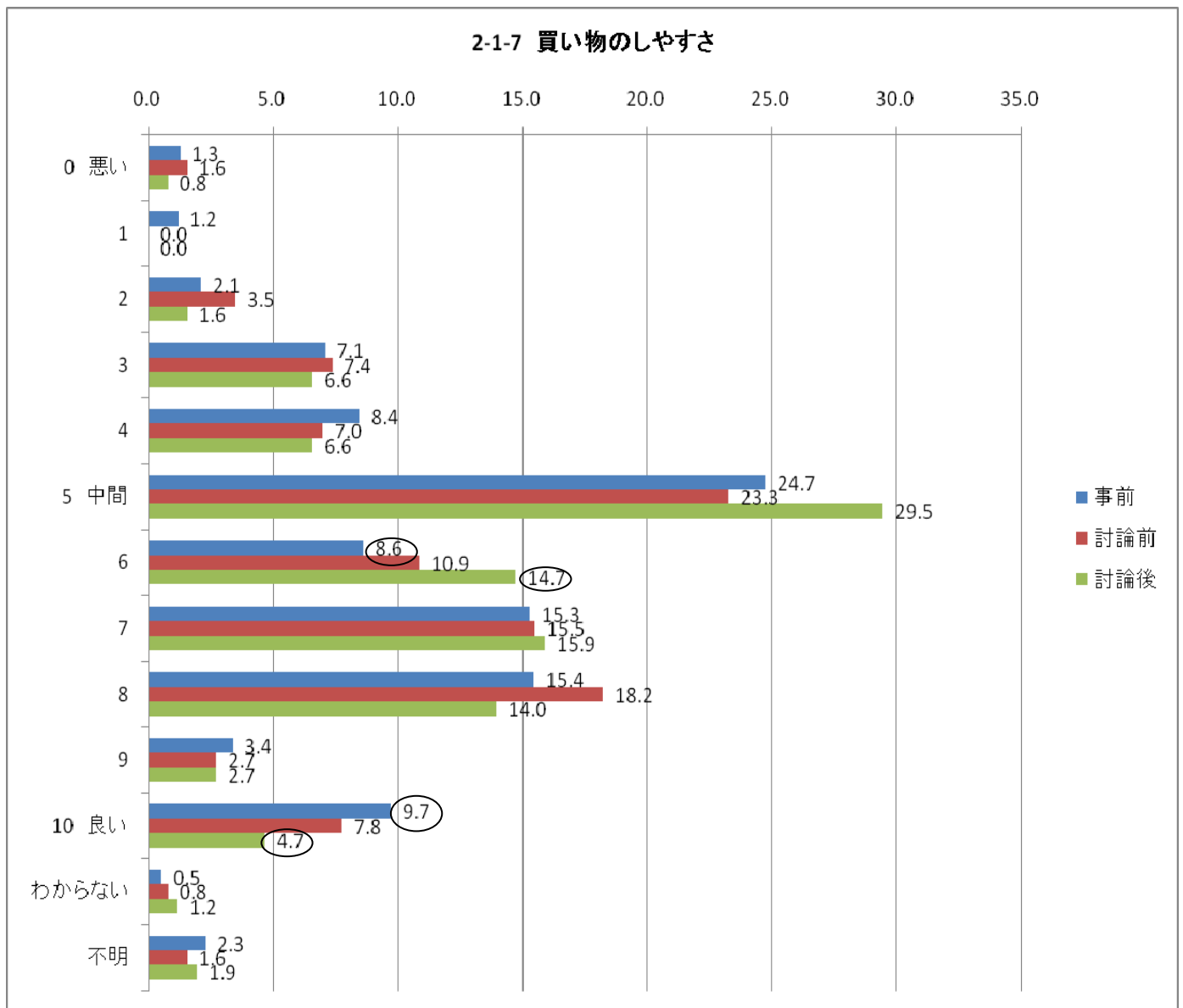


⑦買い物のしやすさ

- 良い : 52.4% ⇒ 52.0% (0.4ポイント↓)
- 中間 : 24.7% ⇒ 29.5% (4.8ポイント↑)
- 悪い : 20.1% ⇒ 15.6% (4.5ポイント↓)

現在の藤沢市の買い物のしやすさについて聞きました。図2-1-7のとおり、事前アンケートでは、「良い」という意見(6,7,8,9,10)が最も多く52.4%、「中間」が24.7%、「悪い」という意見(0,1,2,3,4)が20.1%でした。討論後アンケートでもこの順番は変わらず、割合もほぼ同じでした。

事前アンケートと討論後アンケートを比較して変化が大きかったのは、「6」(6.1ポイント↑)、「10」(5ポイント↓)でした。

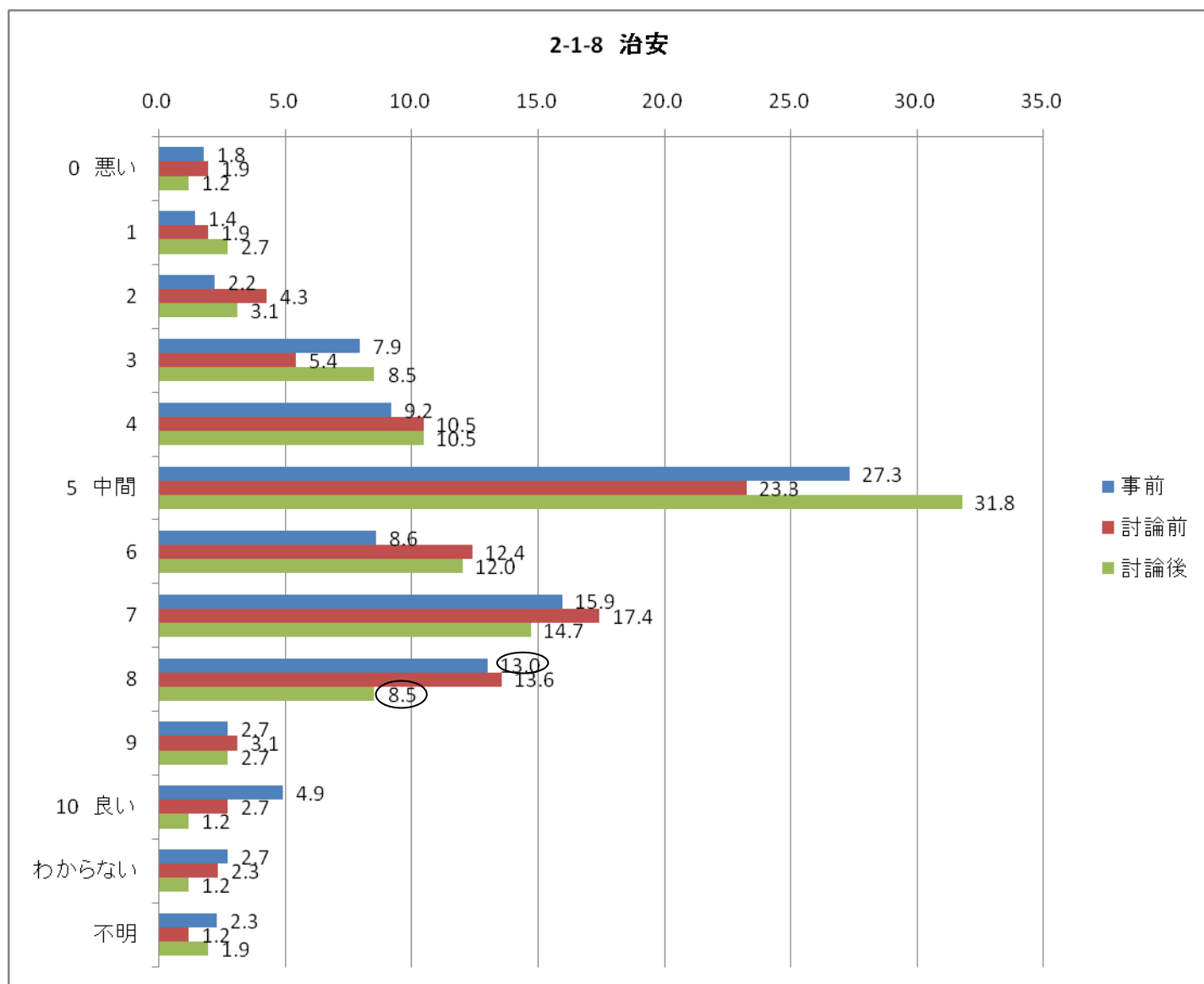


⑧治安

- 良い : 45.1% ⇒ 39.1% (6.0ポイント↓)
- 中間 : 27.3% ⇒ 31.8% (4.5ポイント↑)
- 悪い : 22.5% ⇒ 26.0% (3.5ポイント↑)

現在の藤沢市の治安について聞きました。図2-1-8のとおり、事前アンケートでは「良い」という意見(6,7,8,9,10)が最も多く45.1%、続いて「中間」が27.3%、「悪い」という意見(0,1,2,3,4)が22.5%となりました。討論後アンケートでもこの順番は変わりませんが、「良い」は6ポイント減少の39.1%となり、「中間」は4.5ポイント増加の31.8%、「悪い」も3.5ポイント増加の26%となりました。

事前アンケートと討論後アンケートを比較して変化が大きかったのは、「8」(4.5ポイント↓)でした。

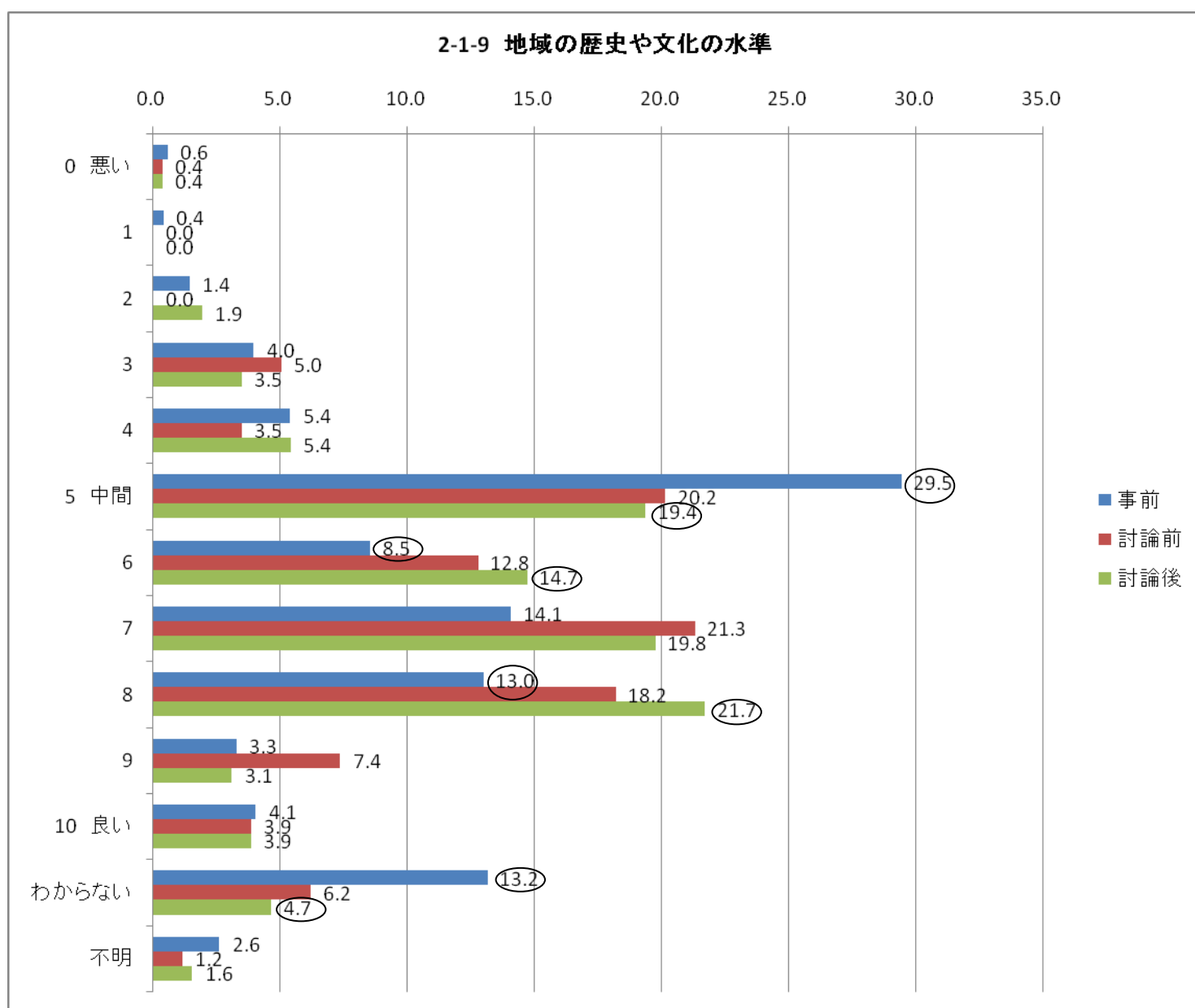


⑨地域の歴史や文化の水準

- 良い : 43.0% ⇒ 63.2% (20.2ポイント↑)
- 中間 : 29.5% ⇒ 19.4% (10.1ポイント↓)
- 悪い : 11.8% ⇒ 11.2% (0.6ポイント↓)

藤沢市の歴史や文化の水準について聞きました。図2-1-9のとおり、事前アンケートでは、「良い」という意見(6,7,8,9,10)が43%と最も多く、次に「中間」(5)が29.5%、「悪い」(0,1,2,3,4)が11.8%となりました。討論後アンケートでは、「良い」が20.2ポイント増加し63.2%となり、「中間」は10.1ポイント減少して19.4%、「悪い」は0.6ポイント減少して11.2%となりました。

事前アンケートと討論後アンケートを比較して変化が大きかったのは、「5」(10.1ポイント↓)、「6」(6.2ポイント↑)、「8」(8.7ポイント↑)、「わからない」(8.5ポイント↓)でした。

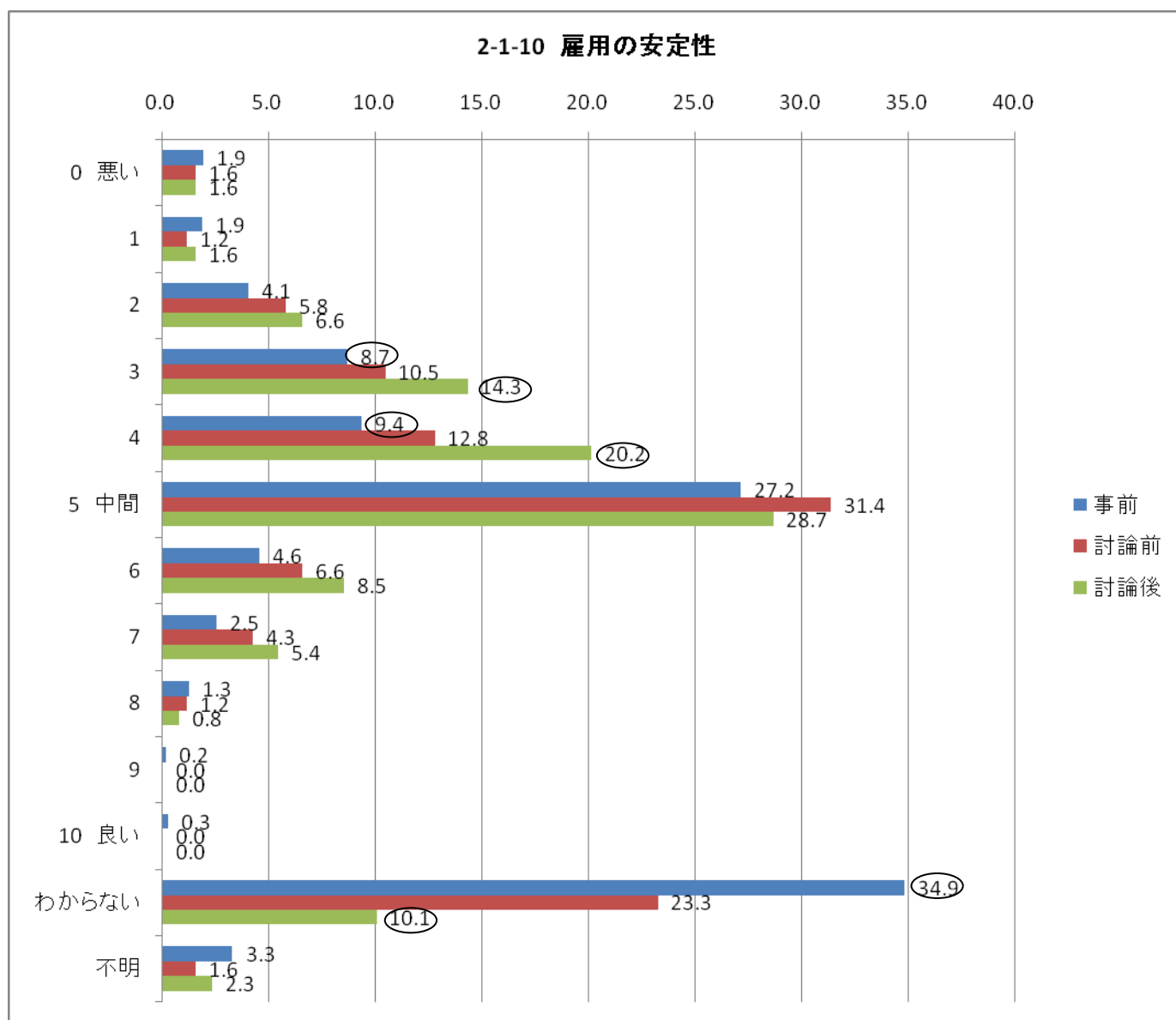


⑩雇用の安定性

- 良い : 8.9% ⇒ 14.7% (5.8ポイント↑)
- 中間 : 27.2% ⇒ 28.7% (1.5ポイント↑)
- 悪い : 26.0% ⇒ 44.3% (18.3ポイント↑)

現在の藤沢市の雇用の安定性について聞きました。図2-1-10のとおり、事前アンケートでは、「中間」(5)が最も多く27.2%で、「悪い」という意見(0,1,2,3,4)が僅差で続いて26%、やや離れて「良い」という意見が8.9%(6,7,8,9,10)でした。討論後アンケートでは、「悪い」が18.3ポイント増加の44.3%、「中間」はほぼ横ばいの28.7%、「良い」は5.8ポイント増加の14.7%となりました。

事前アンケートと討論後アンケートを比較して変化が大きかったのは、「3」(5.6ポイント↑)、「4」(10.8ポイント↑)、「わからない」(24.8↓)でした。



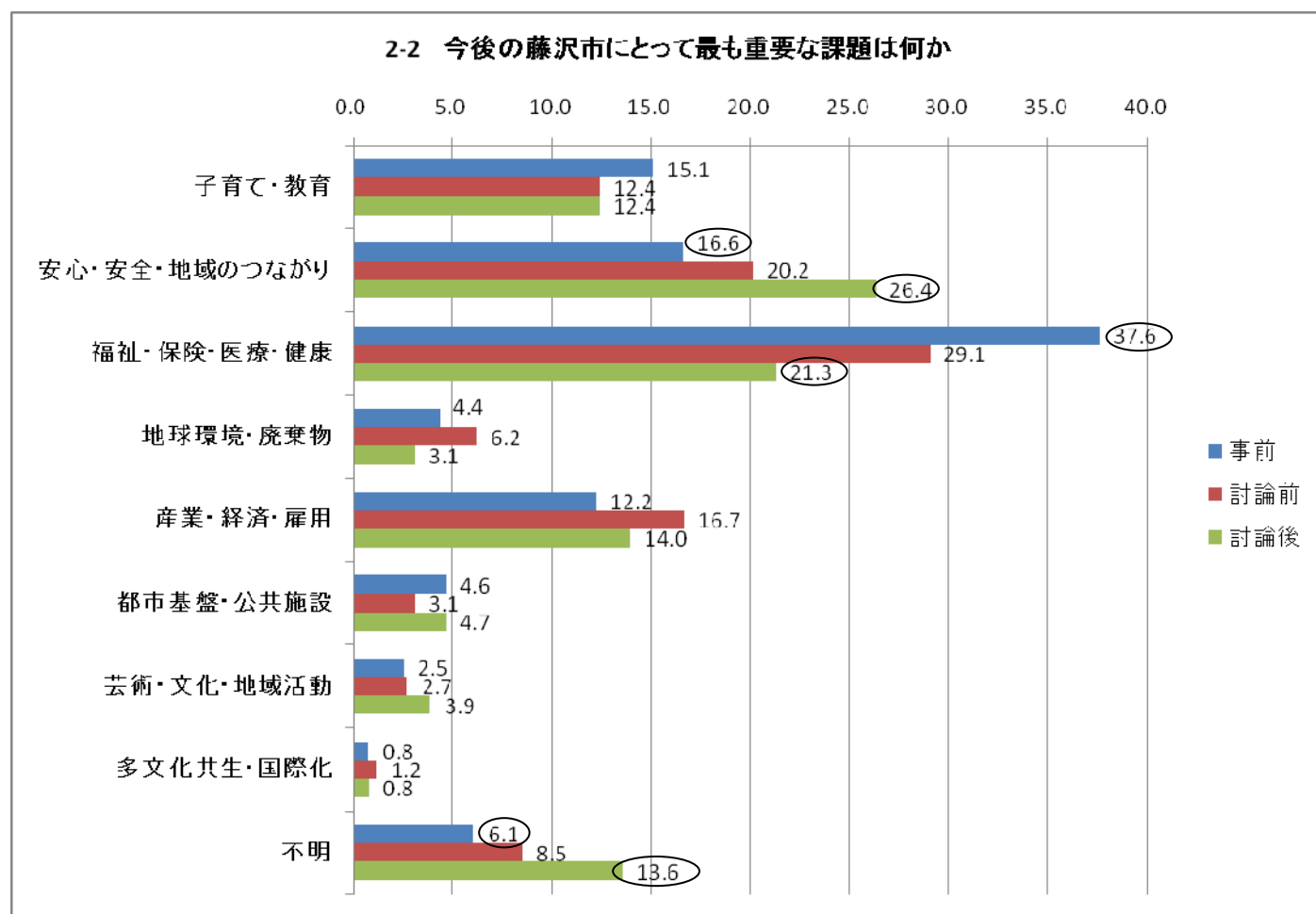
2-2 今後の藤沢市にとって最も重要な課題は何か

問 「藤沢のこれから」を考える上で、あなたがもっとも重要だと考える課題は何だと思えますか。

- 福祉・保険・医療・健康：37.6%⇒ 21.3%（16.3ポイント↓）
- 安心・安全・地域のつながり：16.6%⇒ 26.4%（9.8ポイント↑）
- 不明：6.1% ⇒ 13.6%（7.5ポイント↑）

今後の藤沢市にとって最も重要だと考える課題について、8つの選択肢のなかから1つを選択してもらいました。図2-2のとおり、事前アンケートでは、「福祉・保険・医療・健康」が最も多く37.6%でしたが、討論前アンケートは29.1%、討論後アンケートでは21.3%となり、16.3ポイント減少しました。その一方で、「安心・安全・地域のつながり」は、事前アンケートでは16.6%でしたが、討論前アンケートは20.2%、討論後アンケートでは26.4%となり、9.8ポイント増加しました。

また「不明」の回答も、事前アンケートでは6.1%だったのに対して、討論前アンケートは8.5%、討論後アンケートでは13.6%となり、7.5ポイント増加しました。



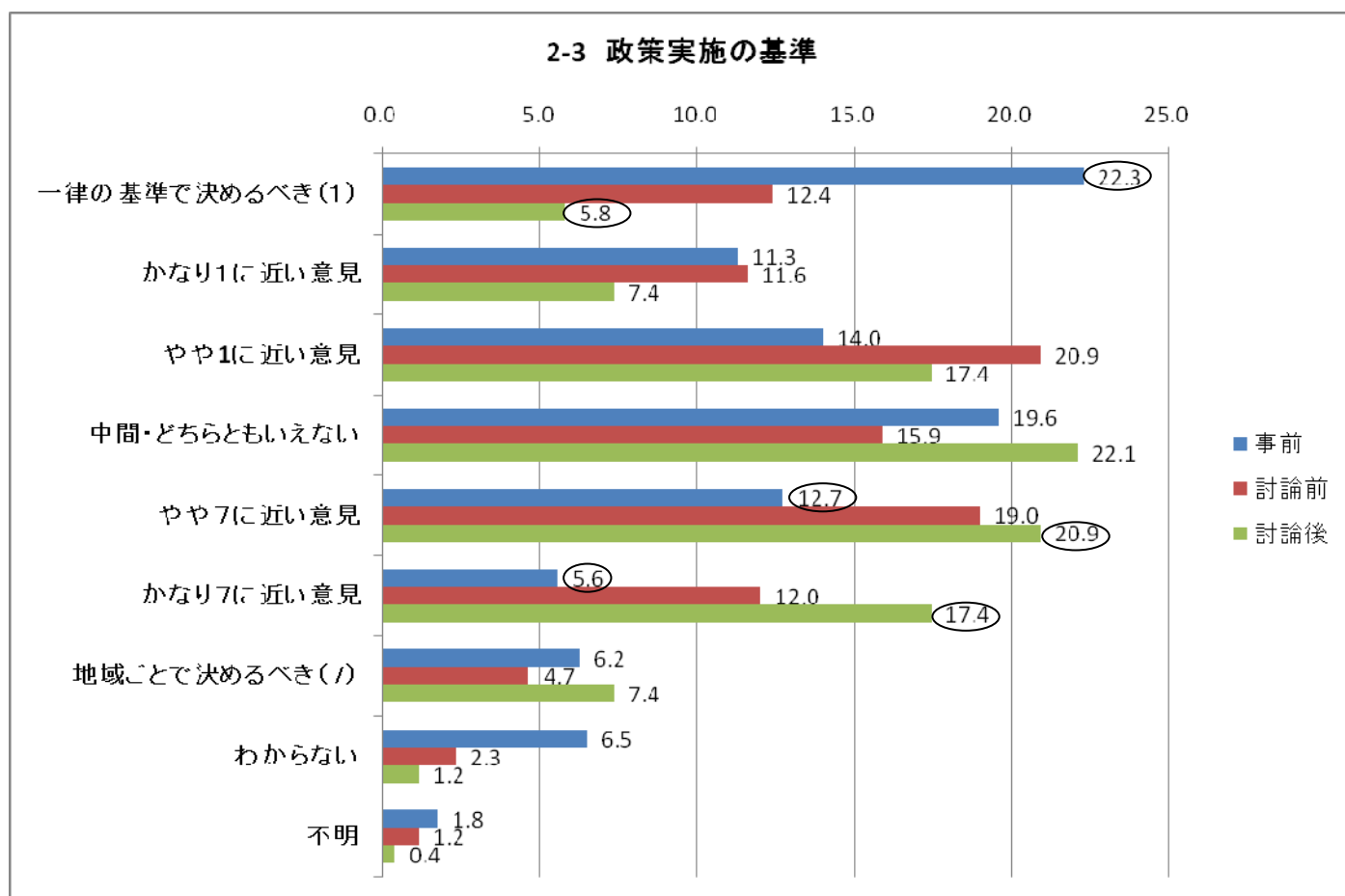
2-3 政策実施の基準は藤沢市一律にすべきか、地域ごとにすべきか

問 公共サービスは、これまでとおり藤沢市が一律の基準で実施すべきか、あるいは住民に近いそれぞれの地域が地域ごとの基準で実施すべきか、どちらが良いと思いますか。

- 一律の基準で決めるべき：47.6%⇒ 30.6%（17.0ポイント↓）
- 地域ごとの基準で決めるべき：24.5%⇒ 45.7%（21.2ポイント↑）

藤沢市の政策実施の基準について聞きました。図2-3のとおり、事前アンケートでは、「一律の基準で決めるべき」（やや近い、かなり近いも含む）という意見は47.6%でしたが、討論後アンケートでは30.6%となり、17.0ポイント減少しました。その一方で、「地域ごとの基準で決めるべき」（やや近い、かなり近いも含む）という意見は、事前アンケートでは24.5%でしたが、討論後アンケートでは45.7%となり、21.2ポイント増加しています。

討論イベントを経て、「地域ごとの基準で決めるべき」という意見が、「一律の基準」を逆転したことがわかります。

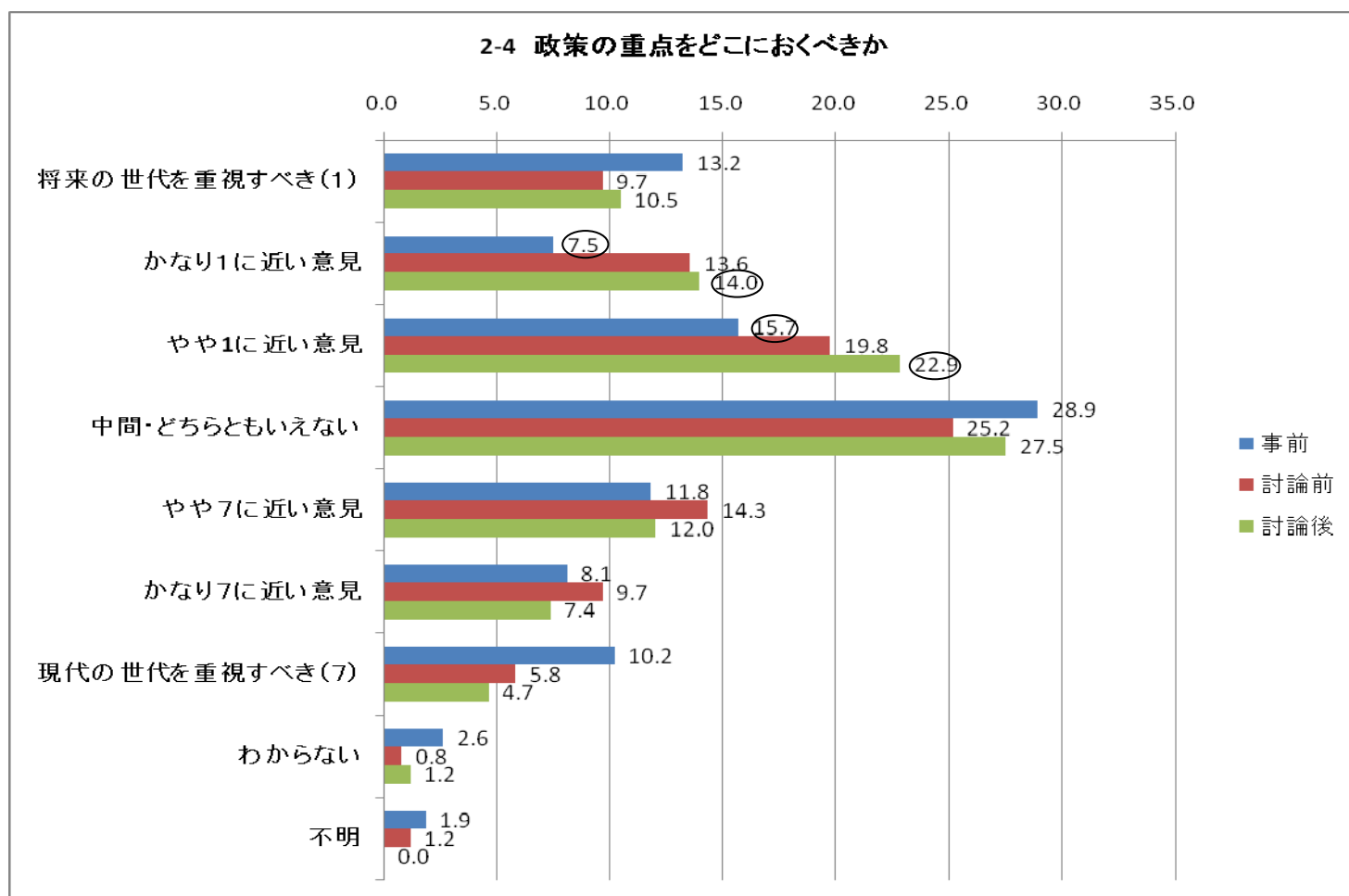


2-4 政策の重点は将来世代と現役世代のどちらにおくべきか

問 政策の重点は、これから生まれてくる将来の世代におくべきか、あるいは現代の世代におくべきか、どちらがよいと思いますか。

- 将来の世代を重視すべき : 36.4% ⇒ 47.4% (11.0ポイント↑)
- 現役世代を重視すべき : 30.1% ⇒ 24.1% (6.0ポイント↓)

政策の重点は将来世代と現役世代のどちらにおくべきかと思うかを聞きました。図2-4のとおり、事前アンケートでは、「将来の世代を重視すべき」（やや近い、かなり近いを含む）は36.4%でしたが、討論前アンケートでは43.1%、討論後アンケートでは47.4%となり、11.0ポイント増加しました。その一方で、「現役世代を重視すべき」（やや近い、かなり近いを含む）は、事前アンケートでは30.1%でしたが、討論前アンケートでは29.8%、討論後アンケートでは24.1%となり、6.0ポイント減少しました。



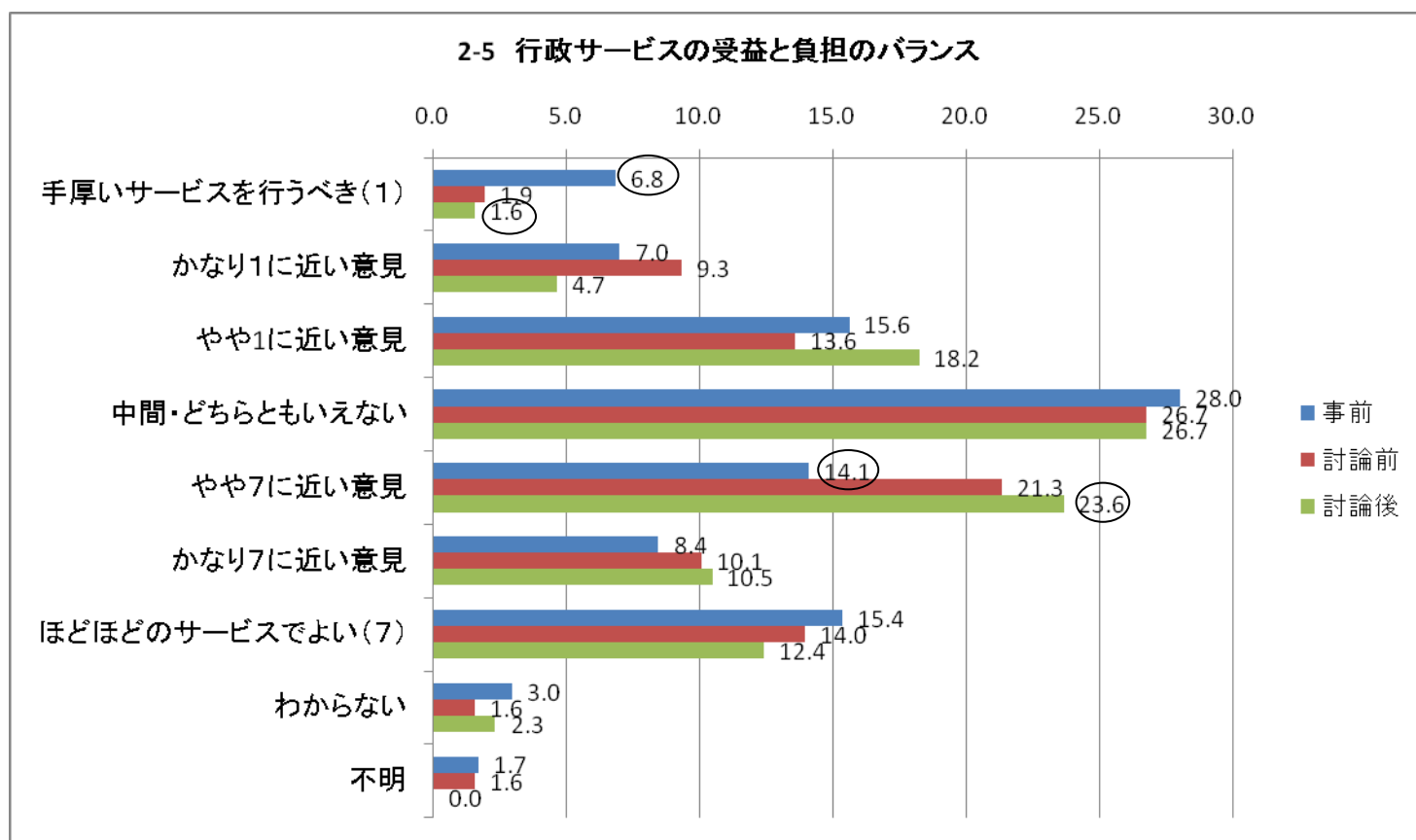
2-5 行政サービスの受益と負担はどうあるべきか

問 行政は、たくさんの税金を使って手厚いサービスを行うべきか、税金をあまり使わずにほどほどのサービスを行うべきかどちらがよいと思いますか。

- 「手厚いサービスを行うべき」：29.4% ⇒ 24.5%（4.9ポイント↓）
- 「ほどほどのサービスでよい」：37.9% ⇒ 46.5%（8.6ポイント↑）

行政サービスの受益と負担のバランスのあり方について聞きました。図2-5のとおり、事前アンケートでは、「手厚いサービスを行うべき」（やや近い、かなり近いを含む）という意見は29.4%でしたが、討論前アンケートでは24.8%、討論後アンケートでは24.5%となり、4.9ポイント減少しました。その一方で、「ほどほどのサービスでよい」（やや近い、かなり近いを含む）という意見は、事前アンケートでは37.9%でしたが、討論前アンケートでは45.4%、討論後アンケートでは46.5%となり、8.6ポイント増加しました。

また、「中間・どちらともいえない」という意見は、事前アンケートでは28.0%、討論前アンケート、討論後アンケートはともに26.7%と、高い水準で留まりました。

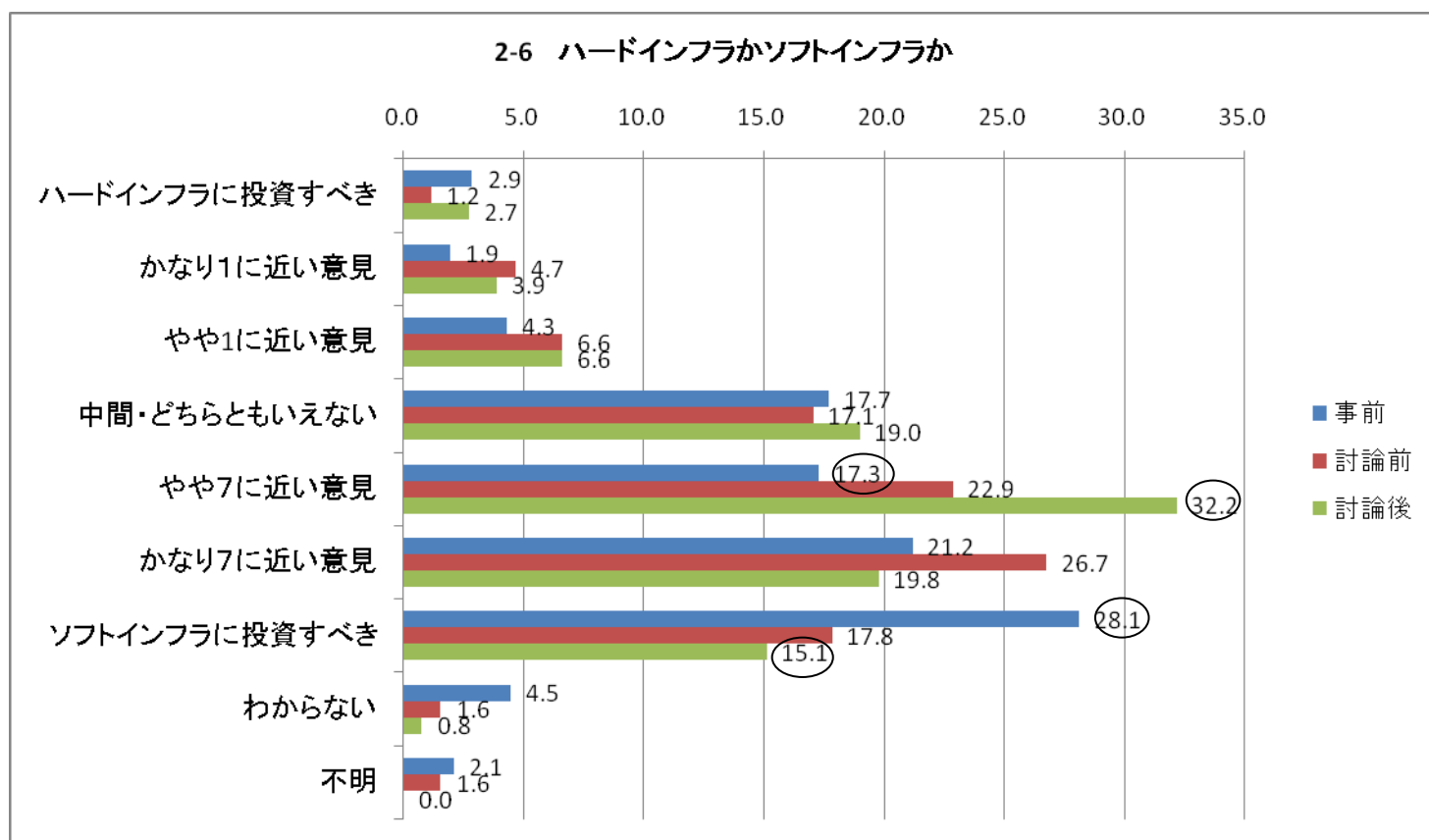


2-6 ハードインフラとソフトインフラのどちらに投資すべきか

問 今後、藤沢市が重点的に投資すべき公共インフラは、公共施設・道路などのハードインフラ（形があるもの）、教育・福祉などのソフトインフラ（形のないもの）のどちらだと思いますか。

- ハードインフラに投資すべき：9.1%⇒ 13.2%（4.1ポイント↑）
- ソフトインフラに投資すべき：66.6%⇒ 67.1%（0.5ポイント↑）

藤沢市の公共インフラへの投資のあり方について聞きました。図2-6のとおり、「ハードインフラに投資すべき」（やや近い、かなり近いを含む）という意見は9.1%でしたが、討論前アンケートでは12.5%、討論後アンケートでは13.2%となり、4.1ポイント増加しました。その一方で、「ソフトインフラに投資すべき」（やや近い、かなり近いを含む）という意見は、事前アンケートでは66.6%でしたが、討論前アンケートでは67.4%、討論後アンケートでは67.1%となり、高い水準で推移しました。

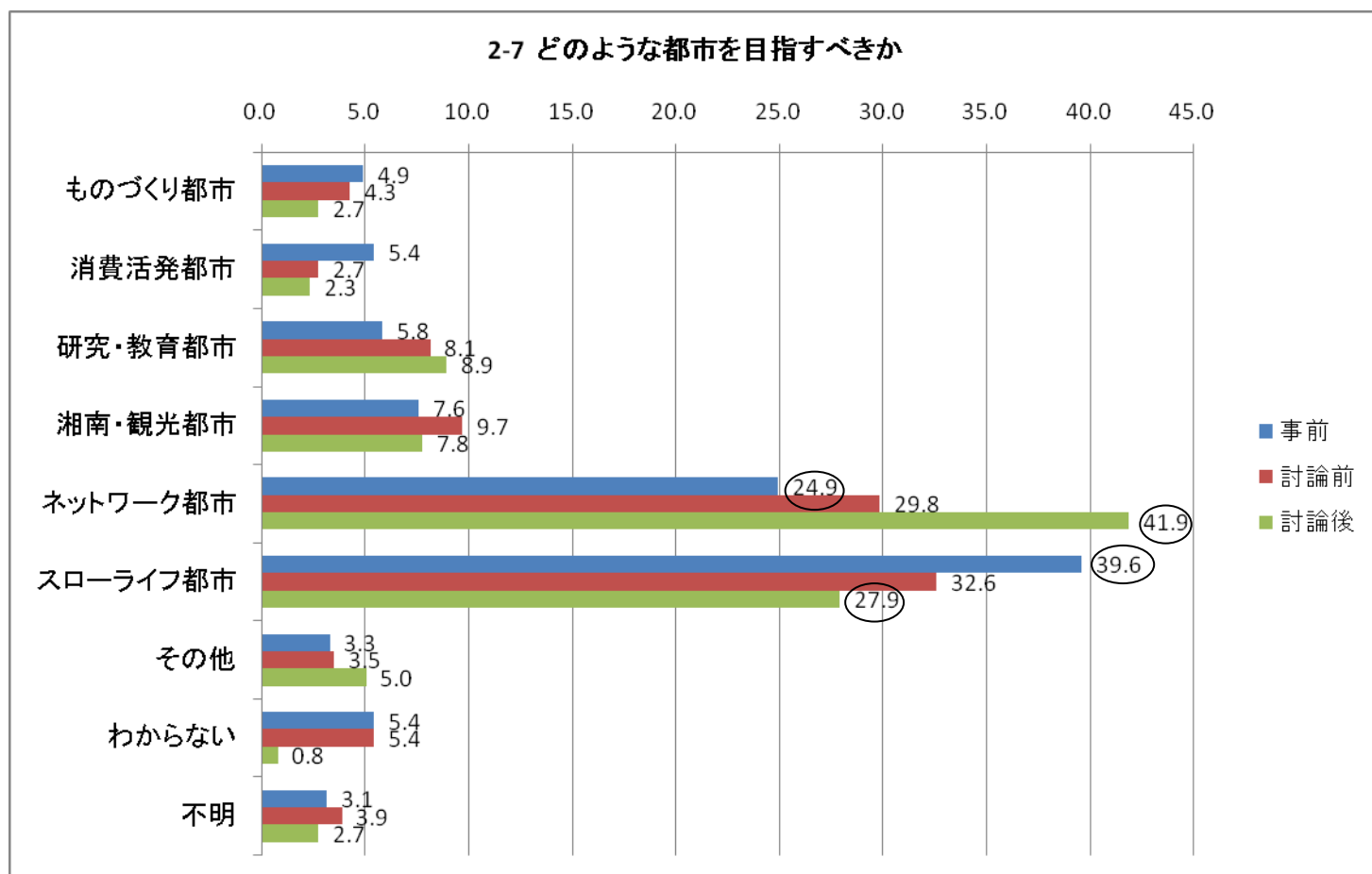


2-7 どのような都市を目指すべきか

問 今後、藤沢市は、どのような都市を目指すべきだと思いますか。

- ネットワーク都市：24.9%⇒41.9%（17ポイント↑）
- スローライフ都市：39.6%⇒27.9%（11.7ポイント↓）

藤沢市が今後目指すべき都市像について聞きました。図2-7のとおり、事前アンケートでは、「ネットワーク都市」は24.9%でしたが、討論前アンケートでは29.8%、討論後アンケートでは41.9%となり、17ポイント増加しました。その一方で、「スローライフ都市」は、事前アンケートでは39.6%でしたが、討論前アンケートでは32.6%、討論後アンケートでは27.9%となり、11.7ポイント減少しました。



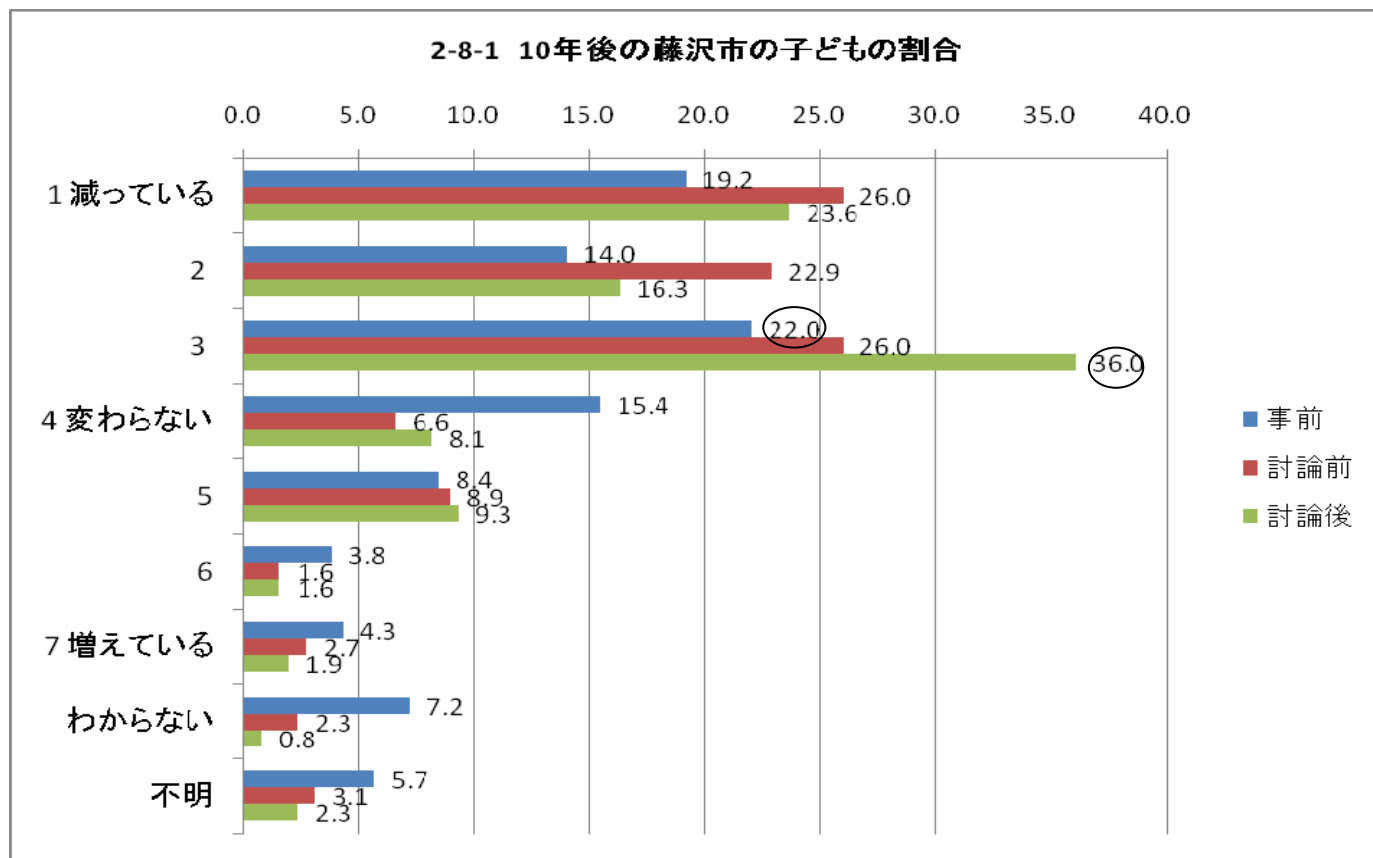
2-8 今後10年間の藤沢市の変化予測

問 下記項目の割合に関して、これからの10年間で、どのような変化があると思いますか。最も減っている場合を「1」、最も増えている場合を「7」、ちょうど中間を「4」とした場合、あなたのご意見はどこに位置しますか。

①10年後の藤沢市の子ども（0歳～14歳）の割合

- 増えている：16.5% ⇒ 12.8%（3.7ポイント↓）
- 変わらない：15.4% ⇒ 8.1%（7.3ポイント↓）
- 減っている：55.2% ⇒ 75.9%（20.7ポイント↑）

10年後の藤沢市の子どもの割合についてどうなっていると思うか聞きました。図2-8-1のとおり、事前アンケートでは、「減っている」という意見（1,2,3）が過半数を超える55.2%で、大きく離れて「増えている」という意見（5,6,7）が16.5%、「変わらない」という意見（4）が15.4%と続きました。討論後アンケートでは、「減っている」はさらに20.7ポイント増加して75.9%となり、「増えている」は3.7ポイント減少の12.8%、「変わらない」は7.3ポイント減少の8.1%となりました。

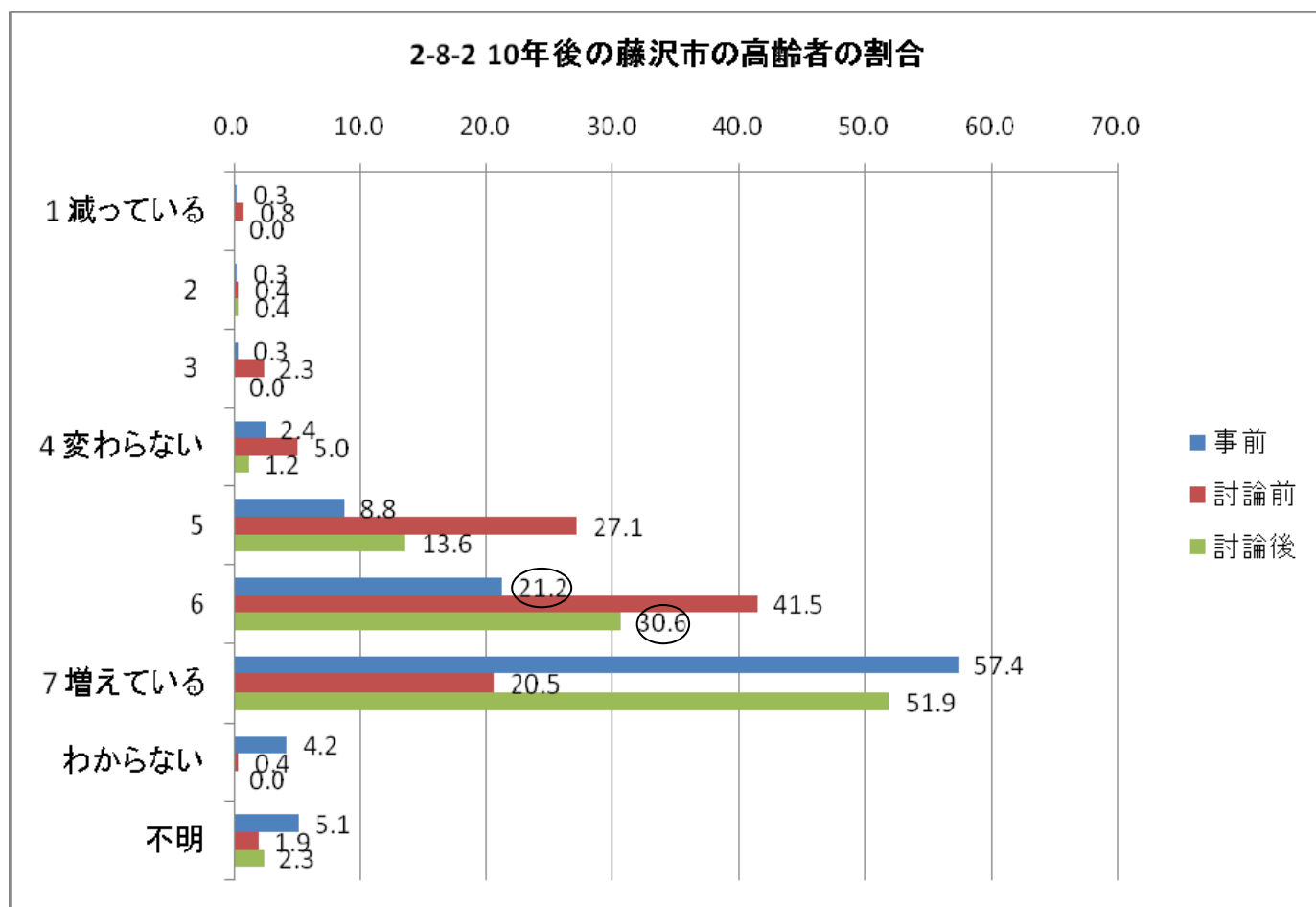


② 10年後の藤沢市の高齢者（65歳以上）の割合

- 増えている：87.4% ⇒ 96.1%（8.7ポイント↑）
- 変わらない：2.4% ⇒ 1.2%（1.2ポイント↓）
- 減っている：0.9% ⇒ 0.4%（0.5ポイント↓）

10年後の藤沢市の高齢者の割合についてどうなっていると思うか聞きました。図2-8-2のとおり、事前アンケートでは、「増えている」という意見（5,6,7）が87.4%、「変わらない」という意見（4）が2.4%、「減っている」という意見（1,2,3）が0.9%でした。討論後アンケートでは、「増えている」という意見は8.7ポイント増加して96.1%、「変わらない」という意見は1.2ポイント減少して1.2%、「減っている」という意見は0.5ポイント減少の0.4%でした。

事前アンケートと討論後アンケートを比較して変化が大きかったのは、「6」でした（9.4ポイント↑）。

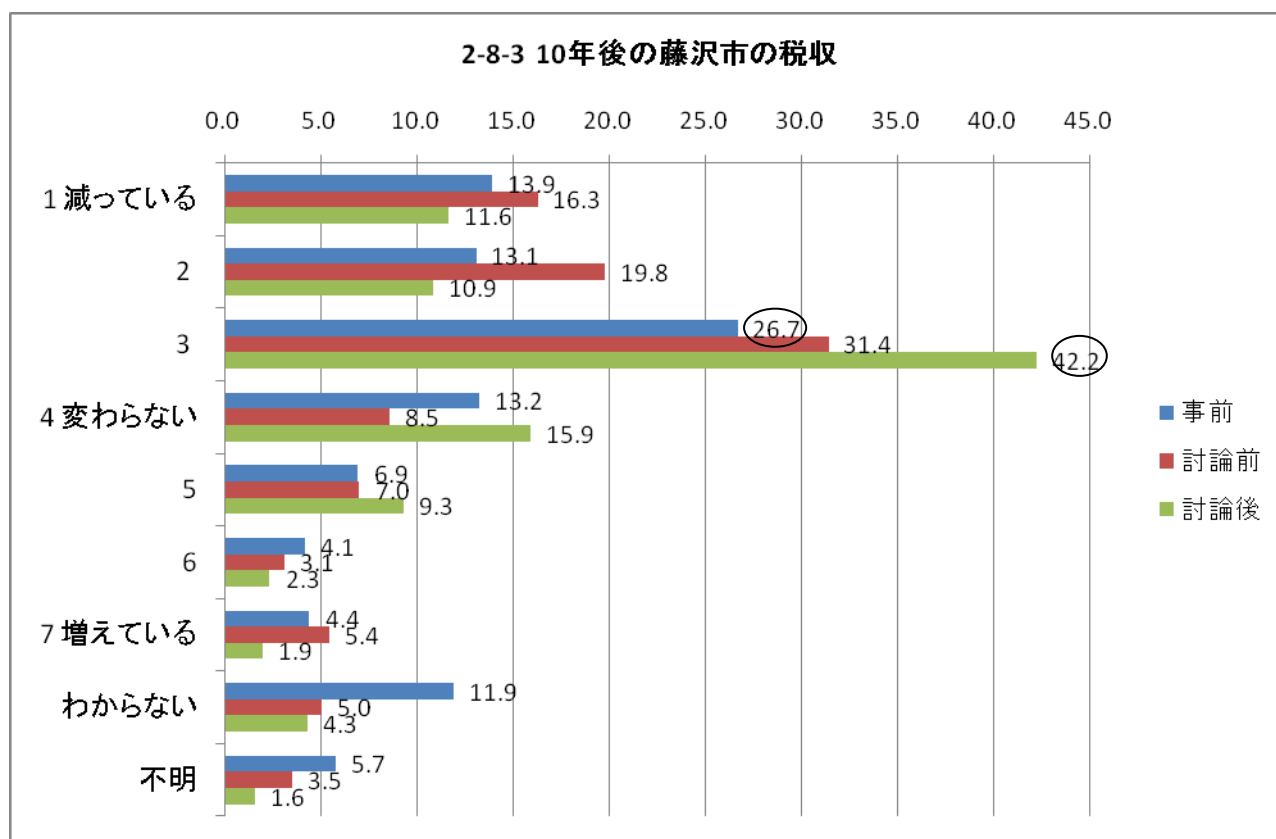


③ 10年後の藤沢市の税収

- 増えている : 15.4% ⇒ 13.5% (1.9ポイント↓)
- 変わらない : 13.2% ⇒ 15.9% (2.7ポイント↑)
- 減っている : 53.7% ⇒ 64.7% (11ポイント↑)

10年後の藤沢市の税収についてどうなっていると思うか聞きました。図2-8-3のとおり、事前アンケートでは、「減っている」(1,2,3)という意見が最も多く53.7%、「増えている」という意見(5,6,7)が15.4%、「変わらない」(4)という意見が13.2%でした。討論後アンケートでは、「減っている」が11ポイント増加して64.7%、「増えている」が1.9ポイント減少して13.5%、「変わらない」が2.7ポイント増加して15.9%でした。

事前アンケートと討論後アンケートを比較して変化が大きかったのは、「3」(15.5ポイント↓)でした。

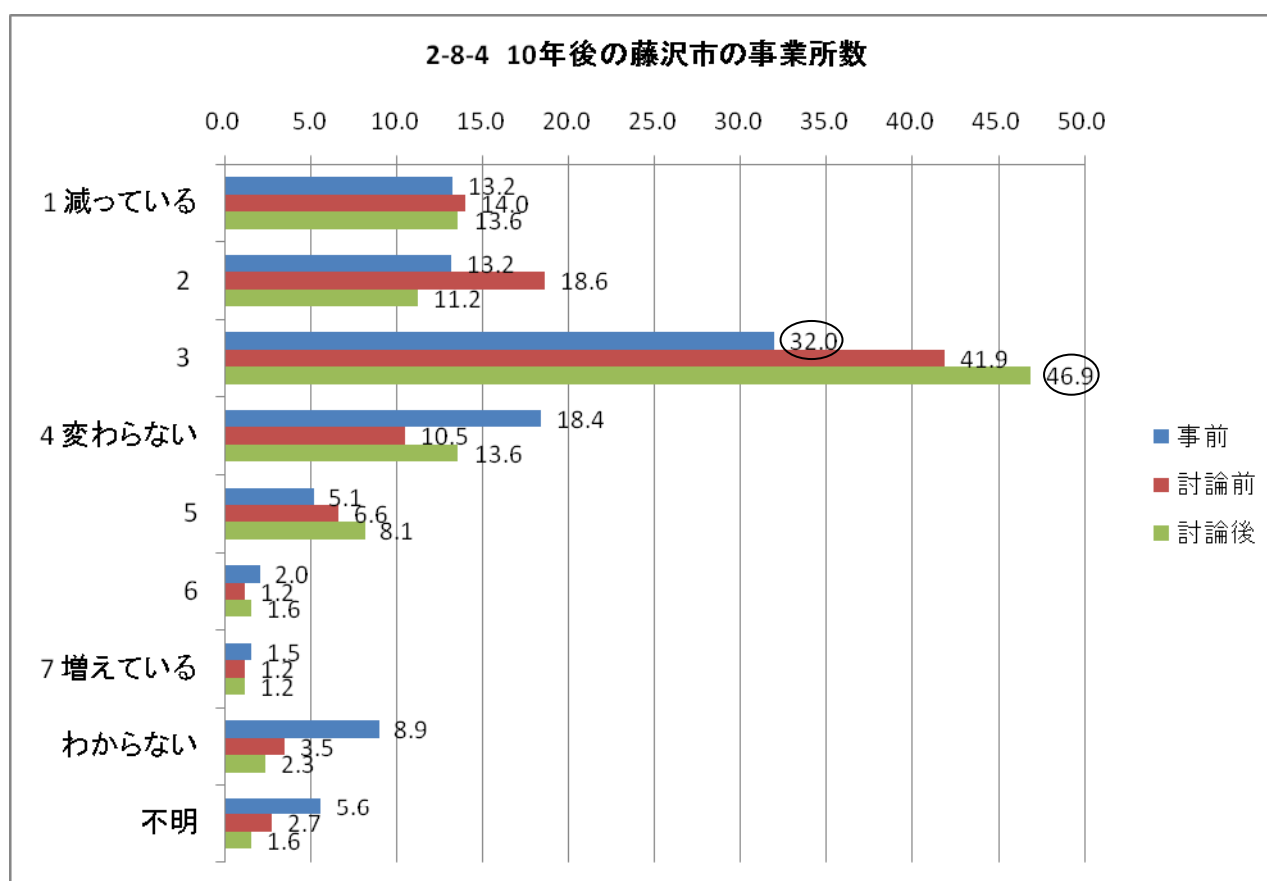


④ 10年後の藤沢市の事業所数

- 増えている : 8.6% ⇒ 10.9% (2.3ポイント↑)
- 変わらない : 18.4% ⇒ 13.6% (4.8ポイント↓)
- 減っている : 58.4% ⇒ 71.7% (13.3ポイント↑)

10年後の藤沢市の事業所数についてどうなっていると思うか聞きました。図2-8-4のとおり、事前アンケートでは、「減っている」という意見(1,2,3)が58.4%、「変わらない」という意見(4)が18.4%、「増えている」という意見(5,6,7)が8.6%でした。討論後アンケートでは、「減っている」が13.3ポイント増加して71.7%、「変わらない」が4.8ポイント減少して13.6%、「増えている」が2.3ポイント増加して10.9%となりました。

事前アンケートと討論後アンケートを比較して変化が大きかったのは、「3」(14.9ポイント↑)でした。

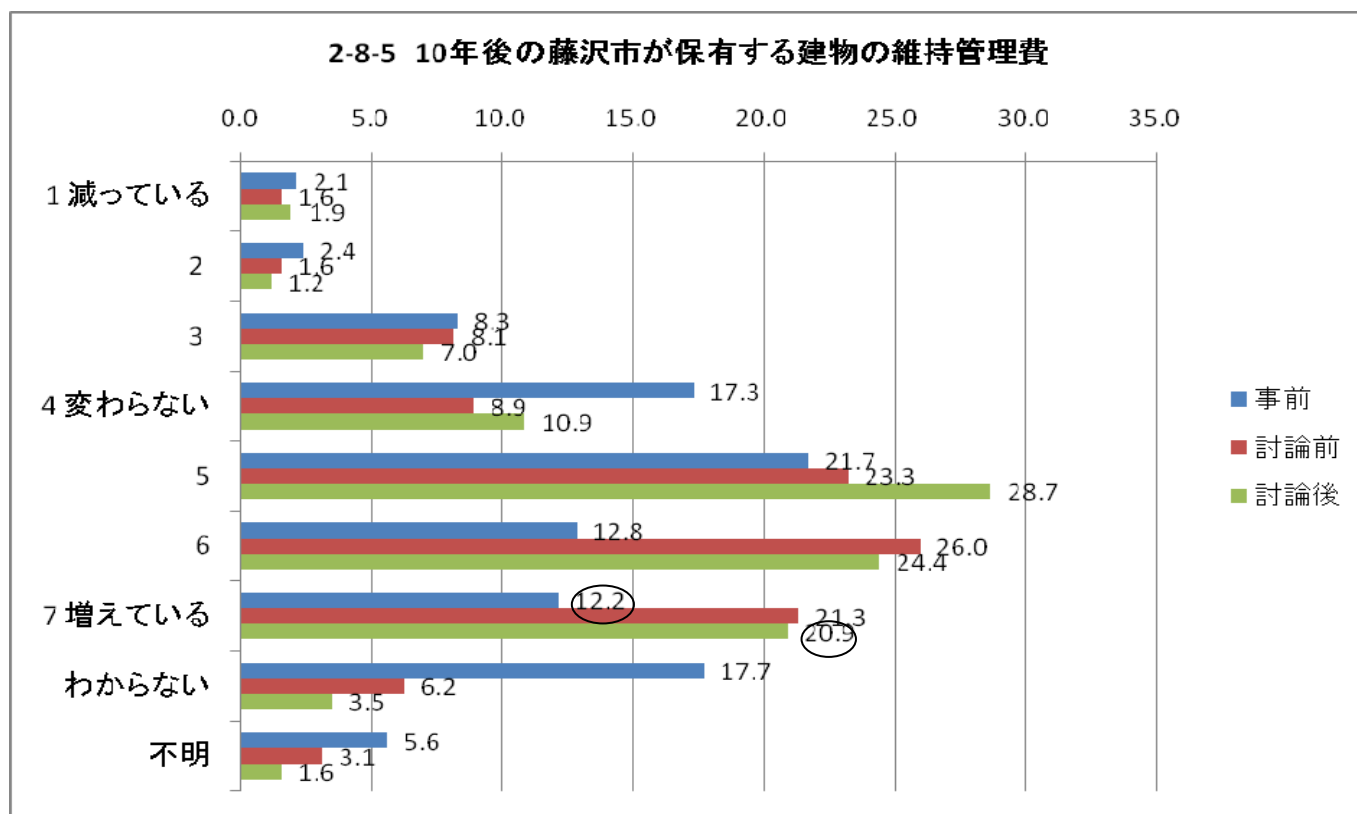


⑤ 10年後の藤沢市が保有する建物の維持管理費

- 増えている : 46.7% ⇒ 74.0% (27.3ポイント↑)
- 変わらない : 17.3% ⇒ 10.9% (6.4ポイント↓)
- 減っている : 12.8% ⇒ 10.1% (2.7ポイント↓)

10年後に藤沢市が保有する建物の維持管理費はどうか聞きました。図2-8-5のとおり、事前アンケートでは、「増えている」(5,6,7)という意見が46.7%、「変わらない」(4)という意見が17.3%、「減っている」(1,2,3)という意見が12.8%でした。討論後アンケートでは、「増えている」が27.3ポイント増加して74.0%、「変わらない」が6.4ポイント減少して10.9%、「減っている」が2.7ポイント減少して10.1%となりました。

事前アンケートと討論後アンケートを比較して変化が大きかったのは、「7」(8.7ポイント↑)でした。

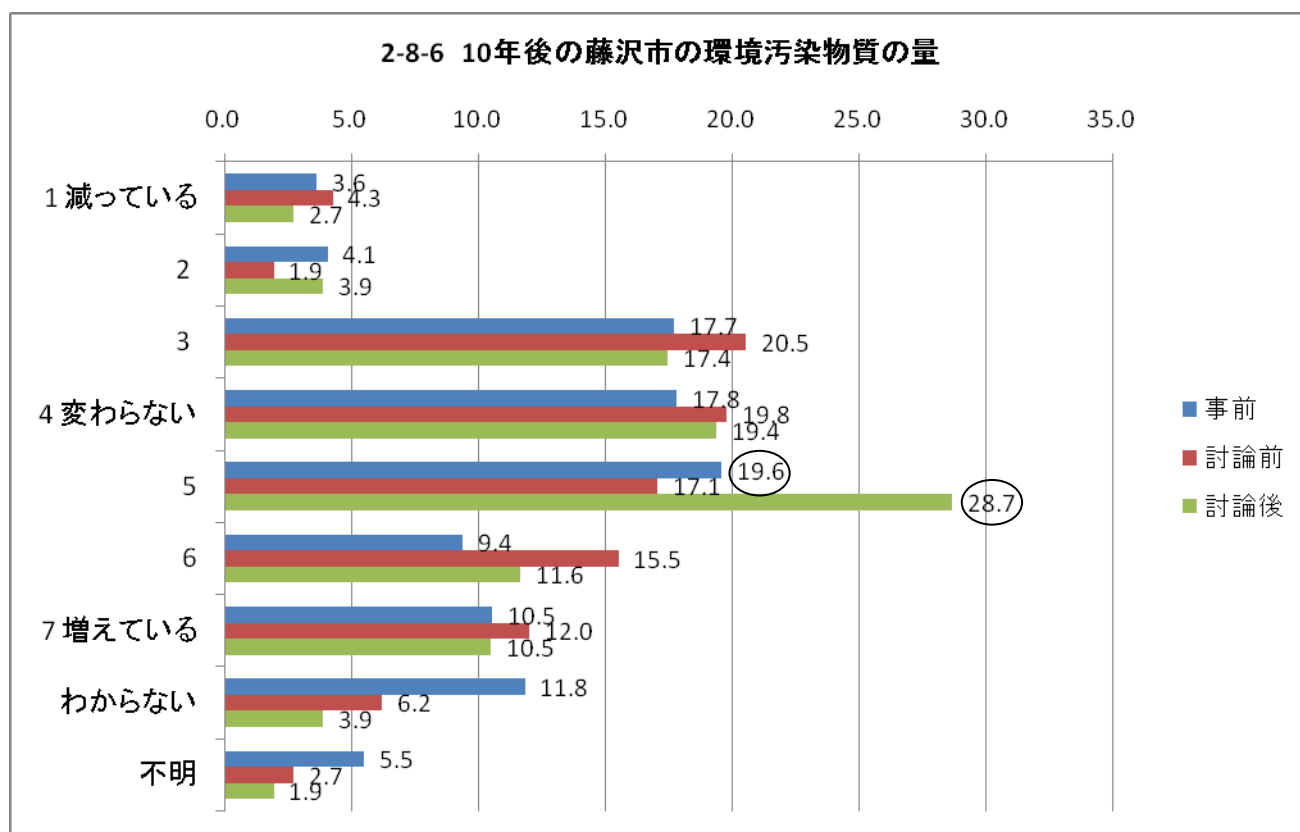


⑥ 10年後の藤沢市の環境汚染物質の量

- 増えている : 39.5% ⇒ 50.8% (11.3ポイント↑)
- 変わらない : 17.8% ⇒ 19.4% (1.6ポイント↑)
- 減っている : 25.4% ⇒ 24.0% (1.4ポイント↓)

10年後に藤沢市が保有する建物の維持管理費はどうなっていると思うか聞きました。図2-8-6のとおり、事前アンケートでは、「増えている」(5,6,7)という意見が39.5%、「変わらない」(4)という意見が17.8%、「減っている」(1,2,3)という意見が25.4%でした。討論後アンケートでは、「増えている」が11.3ポイント増加して50.8%、「変わらない」が1.6ポイント増加して19.4%、「減っている」が1.4ポイント減少して24.0%となりました。

事前アンケートと討論後アンケートを比較して変化が大きかったのは、「5」(9.1ポイント↑)でした。



V 藤沢市に関する知識を問う 質問

(討論前・討論後アンケート)

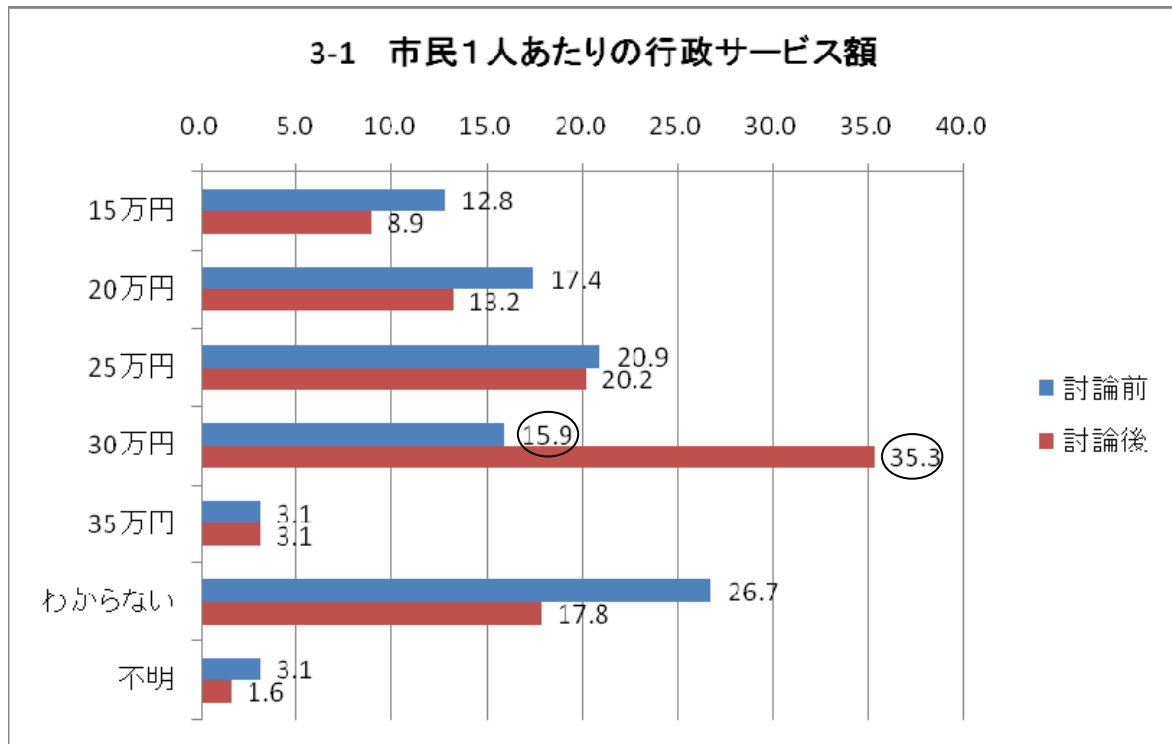
3-1 市民1人当たりの行政サービス額はいくらか

問 市税の負担額に対して市民が受けている市民一人当たりのサービス額（支出額）はどのくらいだと思いますか。市民一人当たりの市税負担額は約19万円です。

●（正解）30万円：15.9% ⇒ 35.3%（19.4ポイント↑）

現在の市民1人当たりの行政サービス額はいくらかを聞きました。正解は「30万円」です。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した「藤沢に関するデータ集」に掲載されています。

図3-1のとおり、討論前アンケートでは正解している人は15.9%でしたが、討論後アンケートでは35.3%まで増加しています。



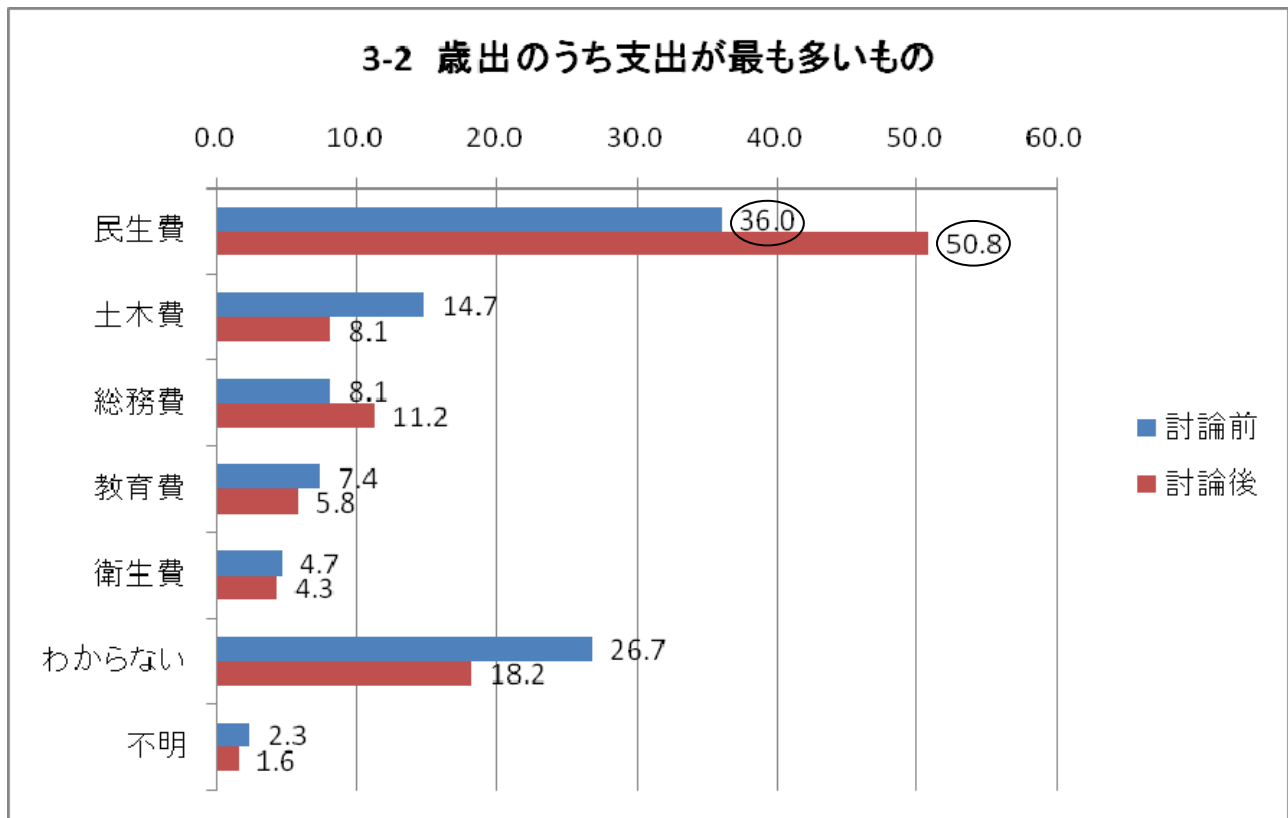
3-2 藤沢市の歳出のうち、支出が最も多いものは何か

問 藤沢市の歳出のうち、支出が最も多いのはどの項目だと思いますか。

● (正解) 民生費 : 36.0% ⇒ 50.8% (14.8ポイント↑)

現在の藤沢市の歳出のうち、支出が最も多いものは何かを聞きました。正解は「民生費」です。2008年度の藤沢市の歳出では、民生費は350億円で歳出全体の約30%を占めます。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した「藤沢に関するデータ集」に掲載されています。

図3-2のとおり、討論前アンケートでは正解している人は36.0%でしたが、討論後アンケートでは50.8%まで増加しています。



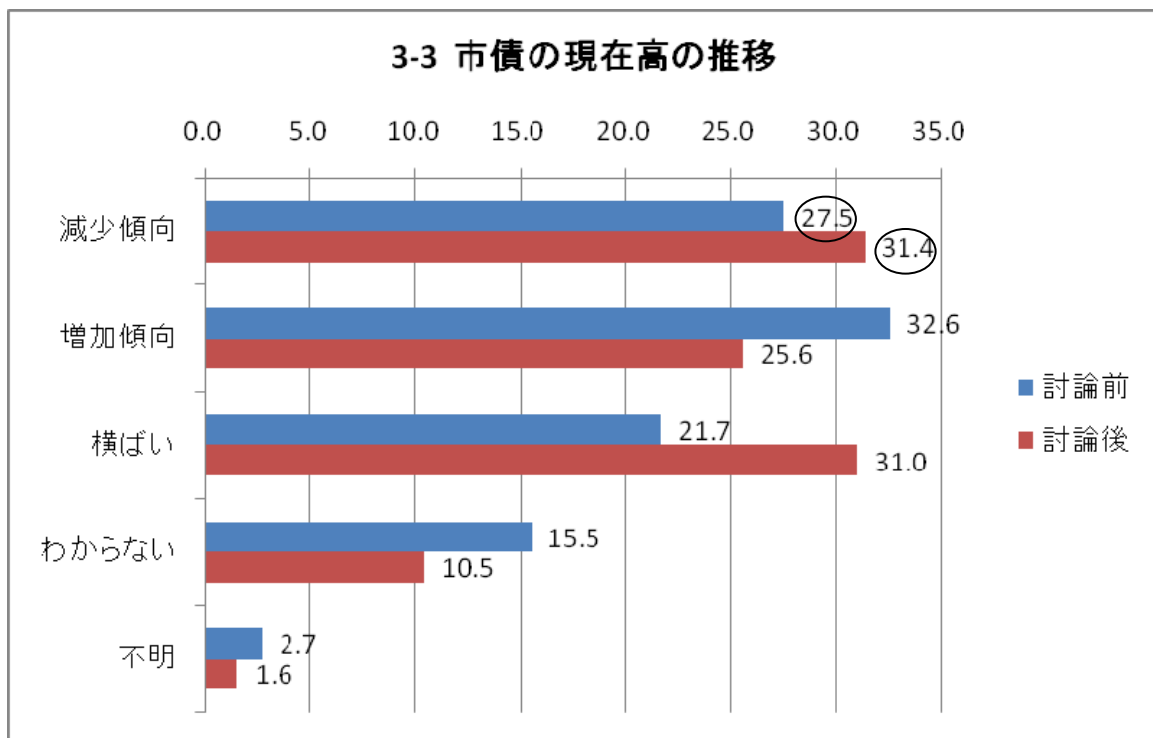
3-3 藤沢市の市債の現在高（借金の残高）の推移はどうなっているか

問 藤沢市の市債の現在高（借金の残高）の推移について、次のうちどれが適当だと思いますか

●（正解）減少傾向：27.5% ⇒ 31.4%（3.9ポイント↑）

現在の藤沢市の市債の推移状況について聞きました。正解は「減少傾向」です。藤沢市の市債の現在高は、平成18年度をピークに減少しています。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した「藤沢に関するデータ集」に掲載されています。

図3-3のとおり、討論前アンケートでは正解している人は27.5%でしたが、討論後アンケートでは31.4%となり、やや増加しています。



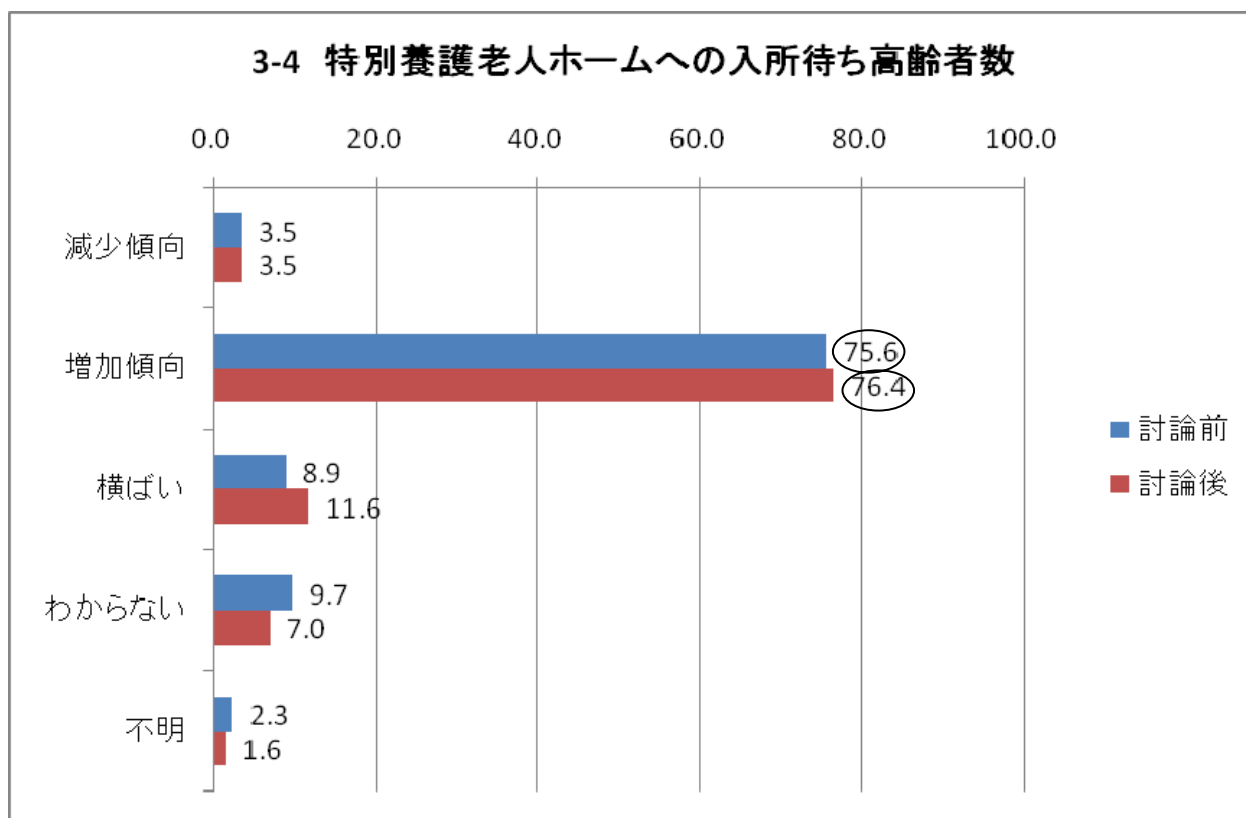
3-4 特別養護老人ホームへの入所待ち老人数

問 藤沢市における特別養護老人ホームへの入所待ち高齢者の数について、次のうちどれが適当だと思いますか。

●（正解）増加傾向：75.6% ⇒ 76.4%（0.8ポイント↑）

現在の藤沢市における特別養護老人ホームへの入所待ち高齢者数について聞きました。正解は「増加傾向」です。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した「藤沢に関するデータ集」に掲載されていませんが、関連するデータとして、「人口1万人当たり老人ホーム定員・介護老人保健施設定員（2006年）」、「老人ホーム定員数（2005年から2009年まで）」が掲載されています。

図3-4のとおり、討論前アンケートでは正解している人は75.6%でしたが、討論後アンケートでは微増して76.4%になりました。



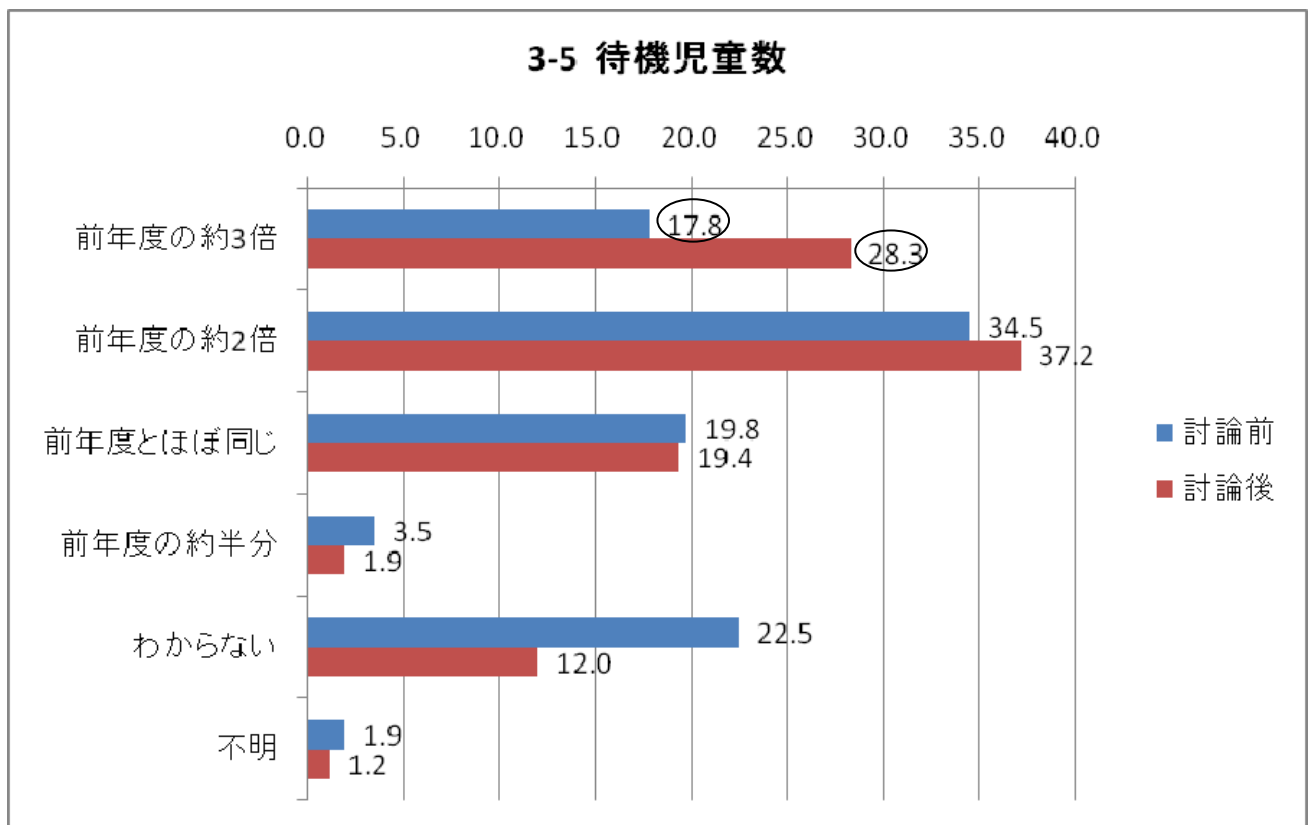
3-5 藤沢市内の待機児童数

問 藤沢市内の待機児童数について、次のうちどれが適当だと思いますか。

●（正解）前年度の約3倍：17.8% ⇒ 28.3%（10.5ポイント↑）

2009年度の藤沢市の待機児童数について聞きました。正解は「前年度の約3倍」です。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した「藤沢に関するデータ集」に掲載されています。2008年度の待機児童数は38人でしたが、2009年度は144人に急増しています。

図3-5のとおり、討論前アンケートでは正解している人は17.8%でしたが、討論後アンケートでは28.3%になりました。



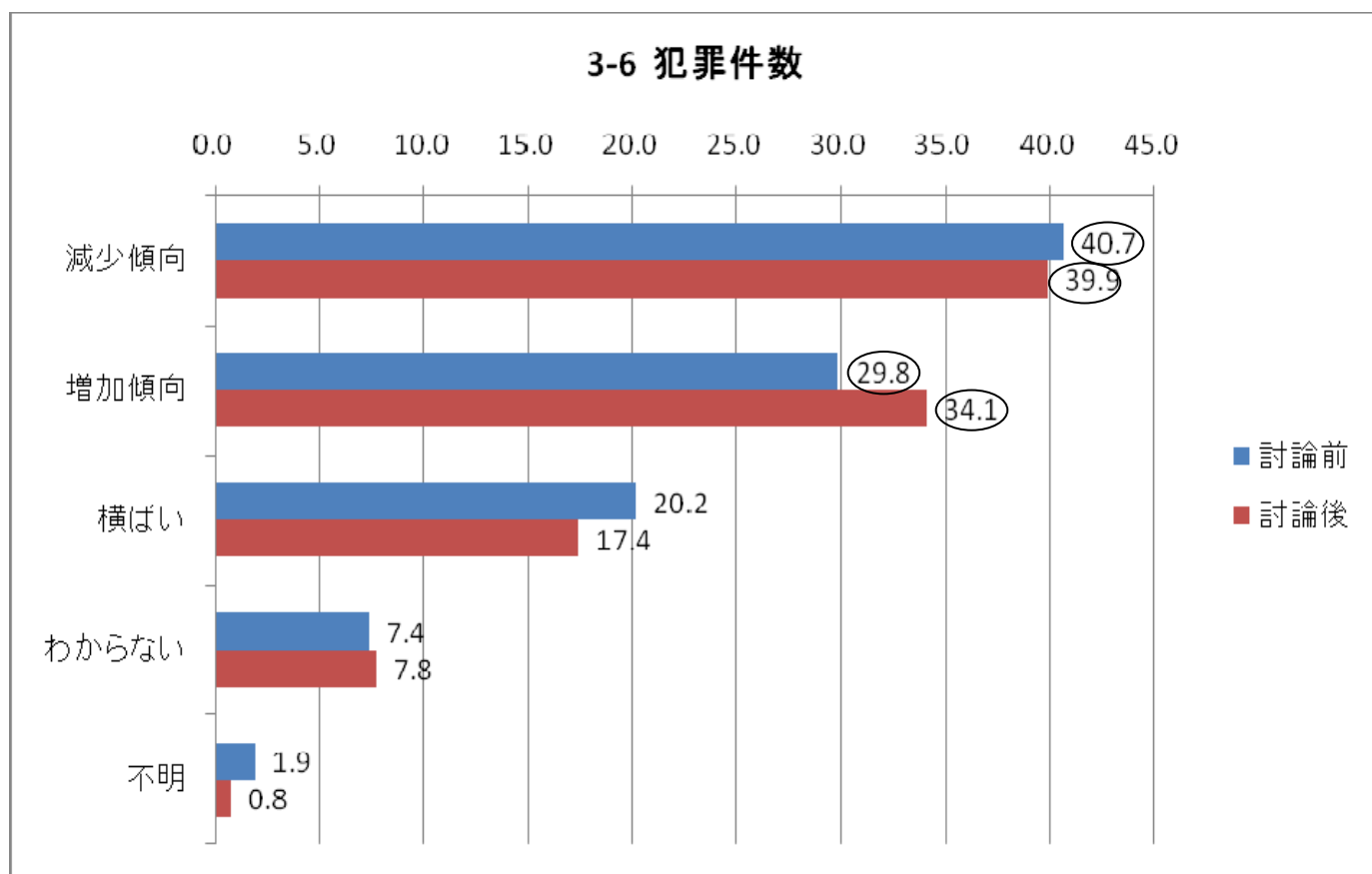
3-6 藤沢市内の犯罪件数

問 藤沢市内の犯罪件数について、次のうちどれが適当だと思いますか。

●（正解）減少傾向：40.7% ⇒ 39.9%（0.8ポイント↓）

現在の藤沢市内の犯罪件数について聞きました。正解は「減少傾向」です。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した「藤沢に関するデータ集」に掲載されています。藤沢市内の犯罪件数は、2004年頃から減少傾向にあります。

図3-6のとおり、討論前アンケートでは正解している人は40.7%でしたが、討論後アンケートでは39.9%に減少しています。その一方で、不正解である「増加傾向」は29.8%から34.1%に増加しています。



VI 「藤沢のこれから、1日討論」 に関する質問 (討論後アンケート)

4-1 今回の企画において役に立ったものは何か

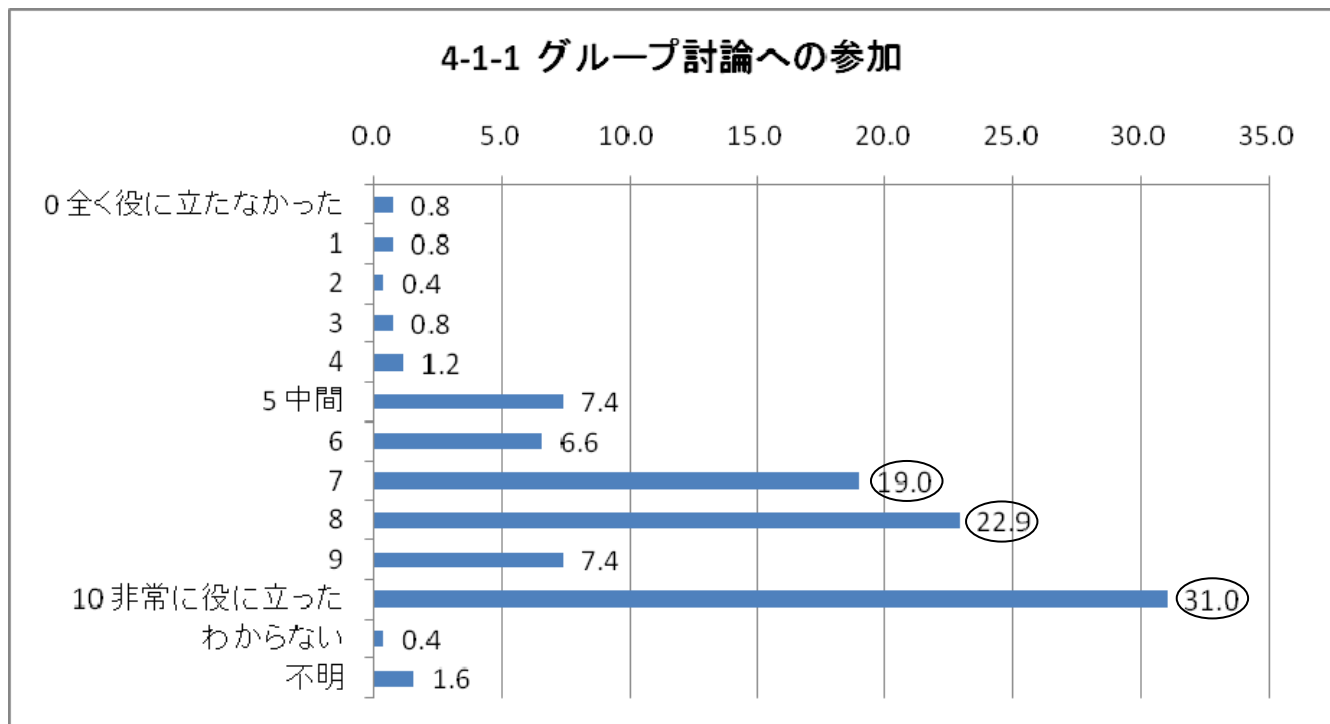
問 今回の企画（資料郵送から本アンケート記述まで）において、あなた自身の考えをまとめるにあたって、次の項目は役に立ちましたか。

①グループ討論への参加

- 役に立った：86.9%
- 中間：7.4%
- 役に立たなかった：4.0%

図4-1-1のとおり、86.9%の参加者が、自身の考えをまとめるにあたってグループ討論への参加が「役に立った」と回答しました。また、「役に立った」という回答の中でも、「非常に役に立った」という意見は全体の30%を超えました。

各選択肢別で見ると、最も回答が多かったのは「10」の31.0%、続いて「8」の22.9%、「7」の19.0%となっています。

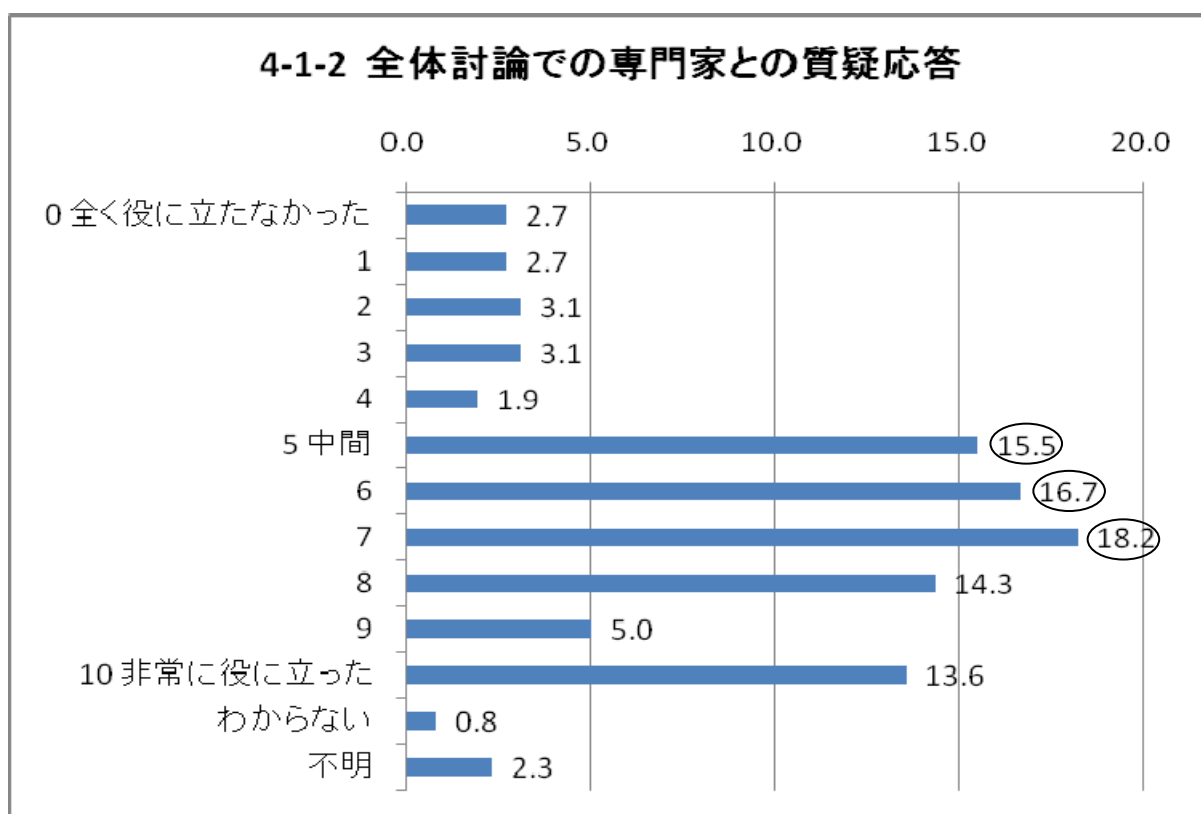


②全体討論での専門家との質疑応答

- 役に立った：67.8%
- 中間：15.5%
- 役に立たなかった：13.5%

図4-1-2のとおり、67.8%の参加者が、自身の考えをまとめるにあたって全体討論での専門家との質疑応答が「役に立った」と回答しました。「中間」は15.5%、「役に立たなかった」は13.5%でした。

各選択肢別に見ると、最も回答が多かったのは「7」の18.2%、続いて「6」の16.7%、「5」の15.5%となっています。



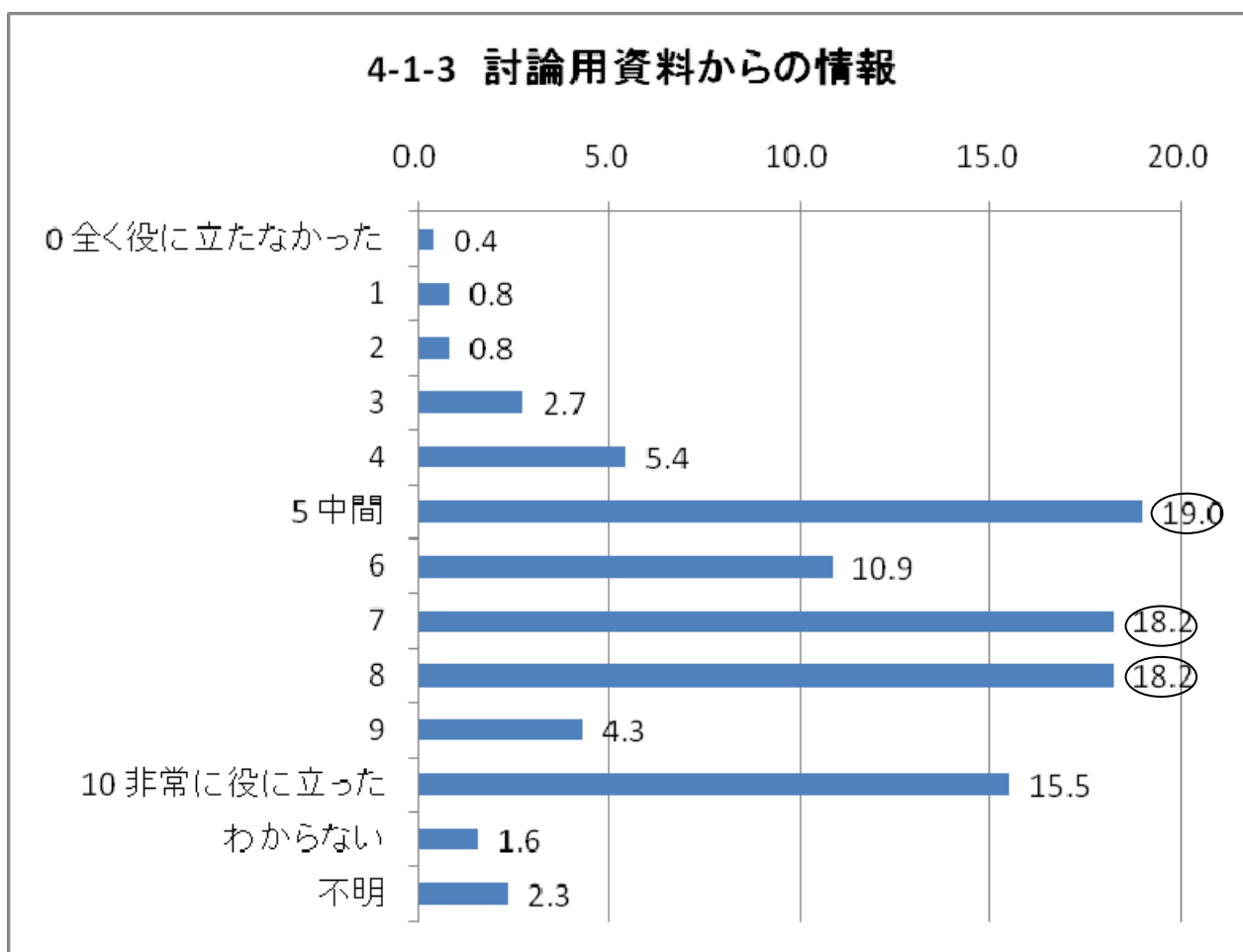
③ 討論資料からの情報

に立った：67.1%

● 中間：19.0%

● 役に立たなかった：10.1%

図4-1-3のとおり、67.1%の参加者が、自身の考えをまとめるにあたって討論資料からの情報が「役に立った」と回答しました。「中間」は19.0%、「役に立たなかった」は10.1%でした。各選択肢では、「5（中間）」の回答が最も多く19.0%、続いて「7」と「8」が18.2%となりました。

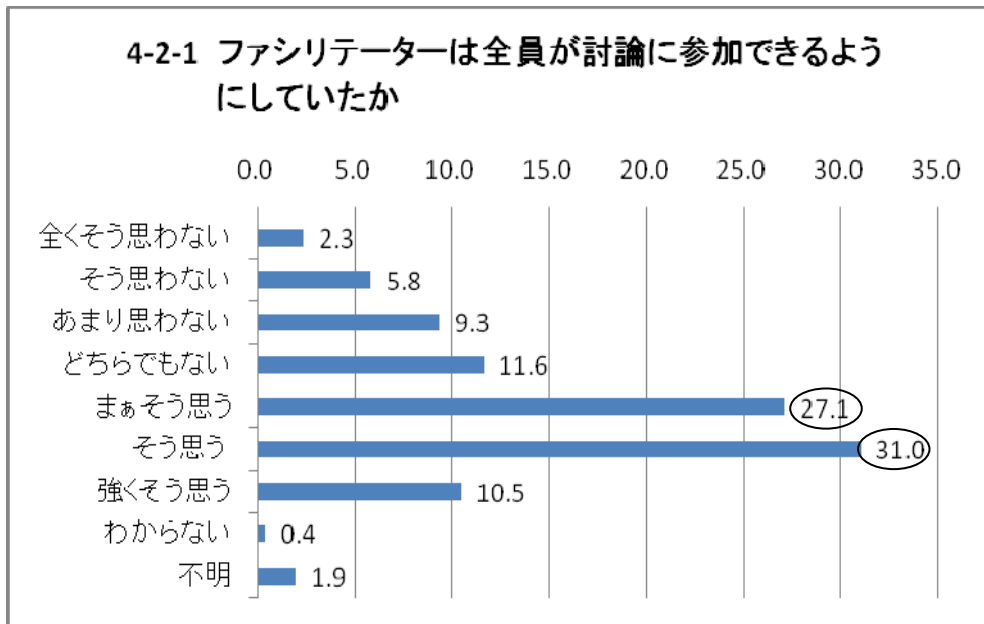


4-2 グループ討論について

問 グループ討論の内容や進行について、あなたはどのように感じましたか。

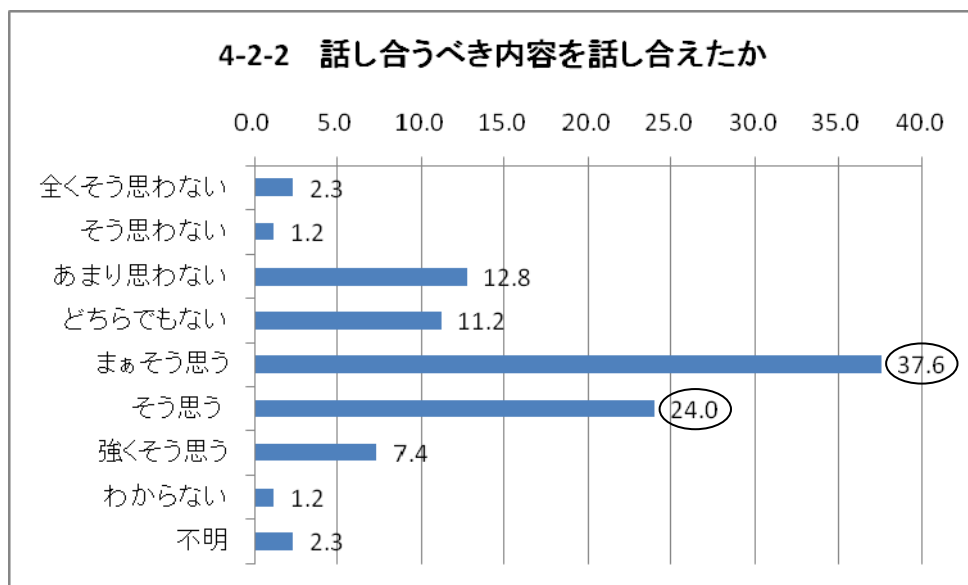
① グループ討論の進行役（ファシリテーター）は、全員が討論に参加できるような機会を適切に作っていたか

- そう思う : 68.6%
- どちらでもない : 11.6%
- そう思わない : 17.4%



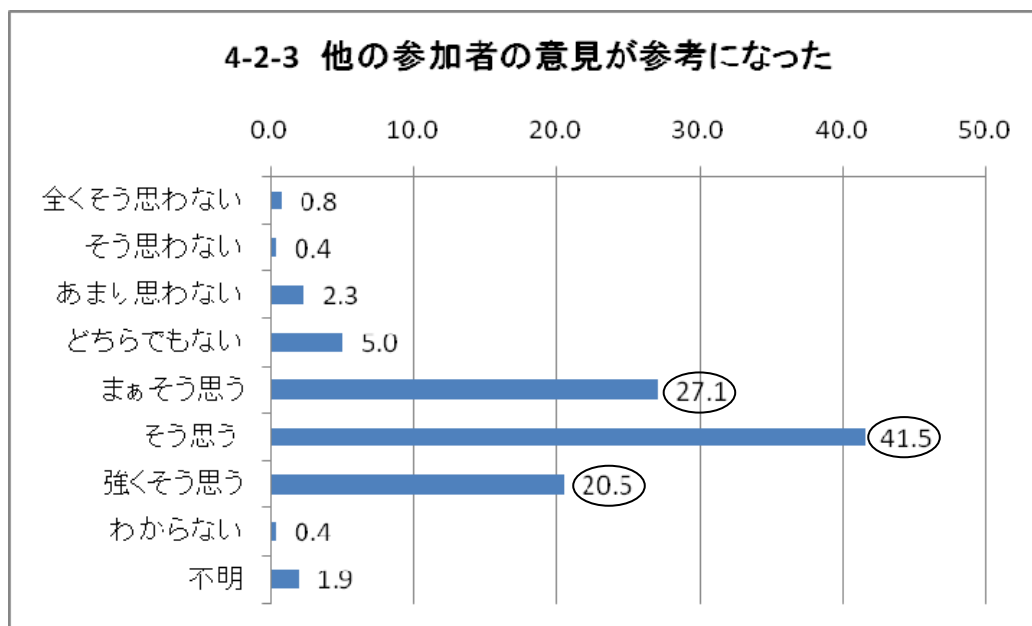
② 話し合うべき内容を話し合えたか

- そう思う : 69.0%
- どちらでもない : 11.2%
- そう思わない : 16.3%



③ 他の参加者の意見が参考になったか

- そう思う : 89.1%
- どちらでもない : 5.0%
- そう思わない : 3.5%



グループ討論の内容や進行について、6つの質問をしました。

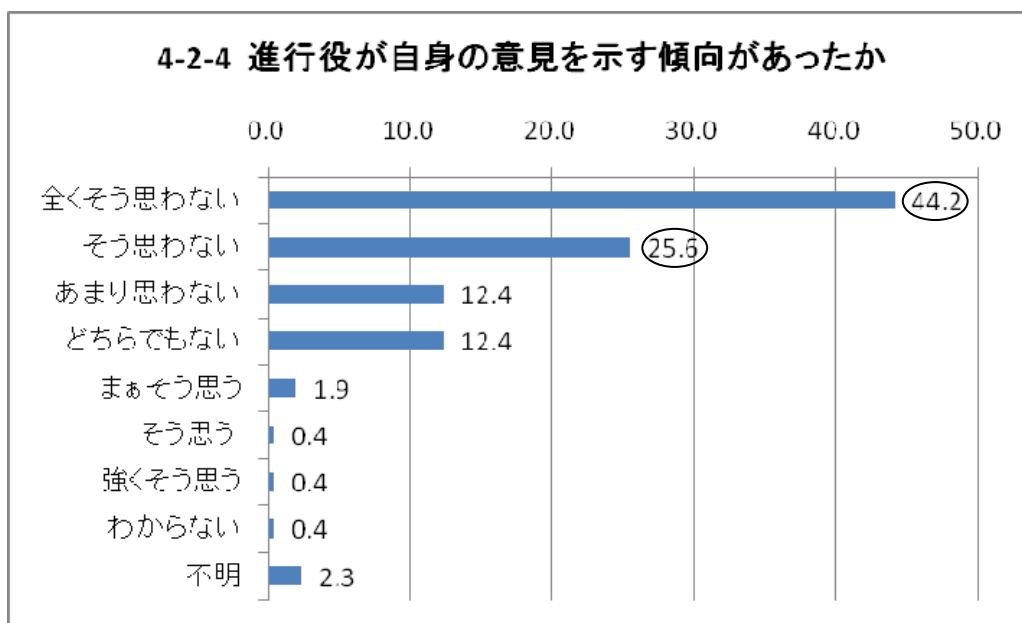
①「グループ討論の進行役（ファシリテーター）は、全員が討論に参加できるような機会を適切に作っていたか」ですが、図4-2-1のとおり、68.6%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は11.6%、「そう思わない」は17.4%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「そう思う」の31.0%、「まあそう思う」の27.1%でした。

②「話し合うべきことを話し合えたか」という質問に対しては、図4-2-2のとおり、69.0%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は11.2%、「そう思わない」は16.3%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「まあそう思う」の37.6%、「そう思う」の24.0%でした。

③「他の参加者の意見が参考になったか」に対しては、図4-2-3のとおり、89.1%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は5.0%、「そう思わない」は3.5%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「そう思う」の41.5%、「まあそう思う」の27.1%でした。

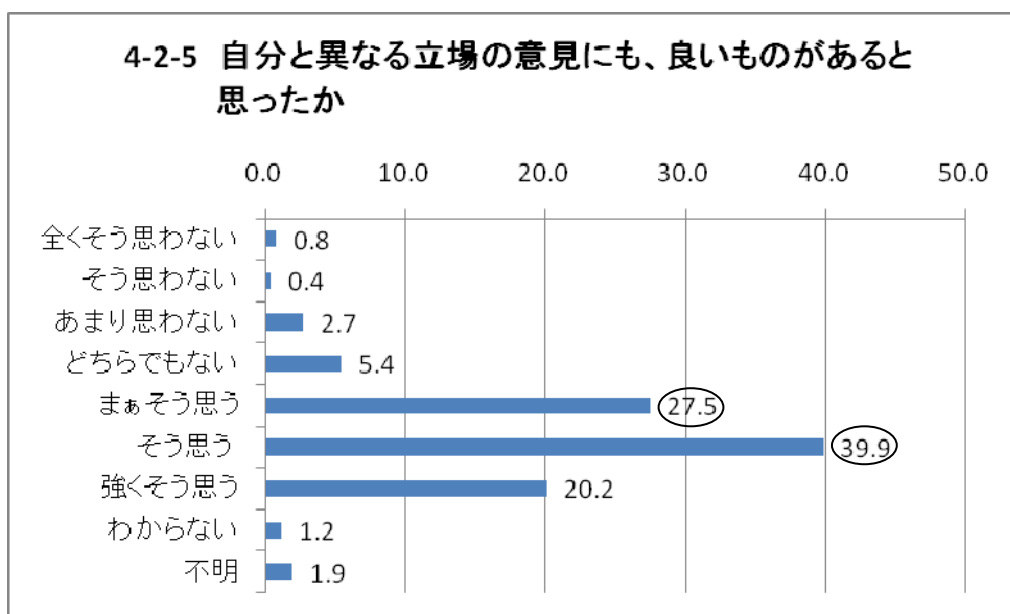
④ 進行役が自身の意見を示す傾向があったか

- そう思う : 2.7%
- どちらでもない : 12.4%
- そう思わない : 82.2%



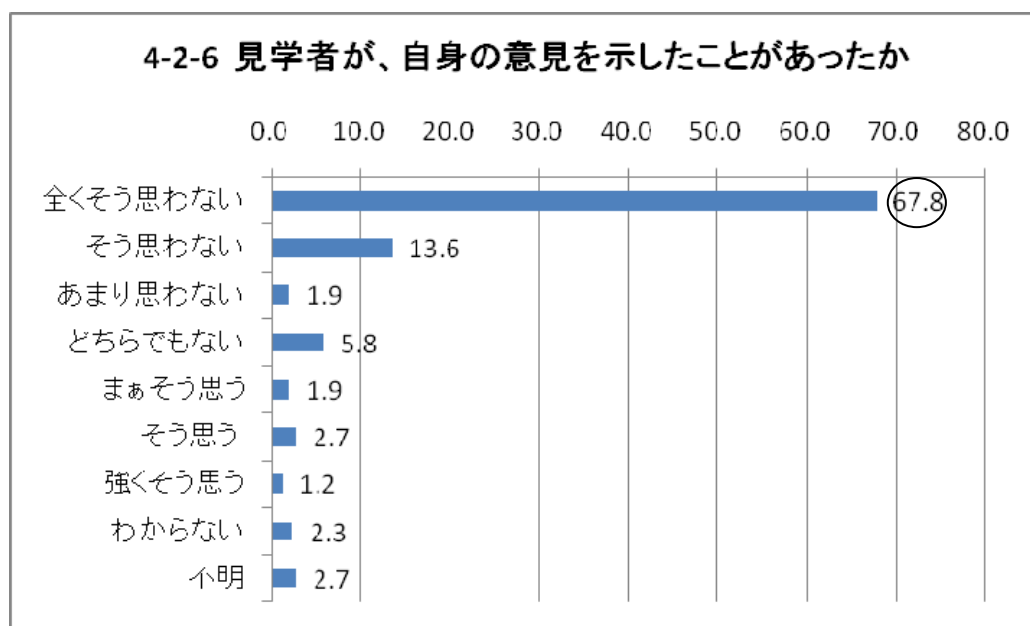
⑤ 自分と異なる立場の意見にも、良いものがあると思ったか

- そう思う : 87.6%
- どちらでもない : 5.4%
- そう思わない : 3.9%



⑥ 見学者が、自身の意見を示したことがあったか

- そう思う : 5.8%
- どちらでもない : 5.8%
- そう思わない : 83.3%



④「進行役が自身の意見を示す傾向があったか」という質問に対しては、図4-2-4のとおり、82.2%の参加者が「そう思わない」と回答し、「どちらでもない」は12.4%、「そう思う」は2.7%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「全くそう思わない」の44.2%、「そう思わない」の25.6%でした。

⑤「自分と異なる立場の意見にも、良いものがあると思ったか」という質問に対しては、図4-2-5のとおり、87.6%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は5.4%、「そう思わない」は3.9%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「そう思う」の39.9%、「まあそう思う」の27.5%でした。

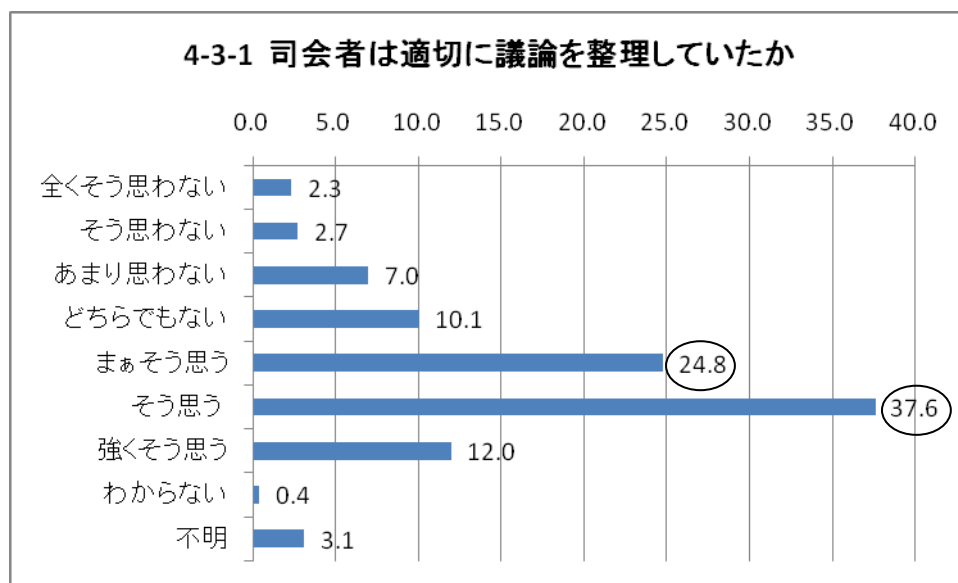
⑥「見学者が、自身の意見を示したことがあったか」という質問に対しては、図4-2-6のとおり、83.3%の参加者が「そう思わない」と回答し、「どちらでもない」は5.8%、「そう思う」は5.8%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「全くそう思わない」の67.8%、次いで「そう思わない」の13.6%でした。

4-3 全体討論について

問 全体討論の内容や進行について、あなたはどのように感じましたか。

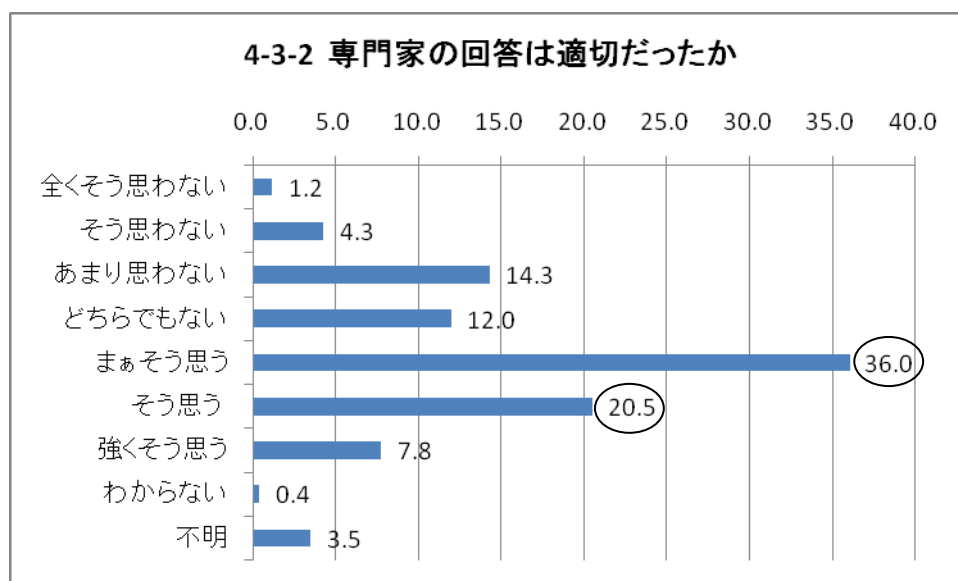
① 司会者は適切に議論を整理していたか

- そう思う : 74.4%
- どちらでもない : 10.1%
- そう思わない : 12.0%



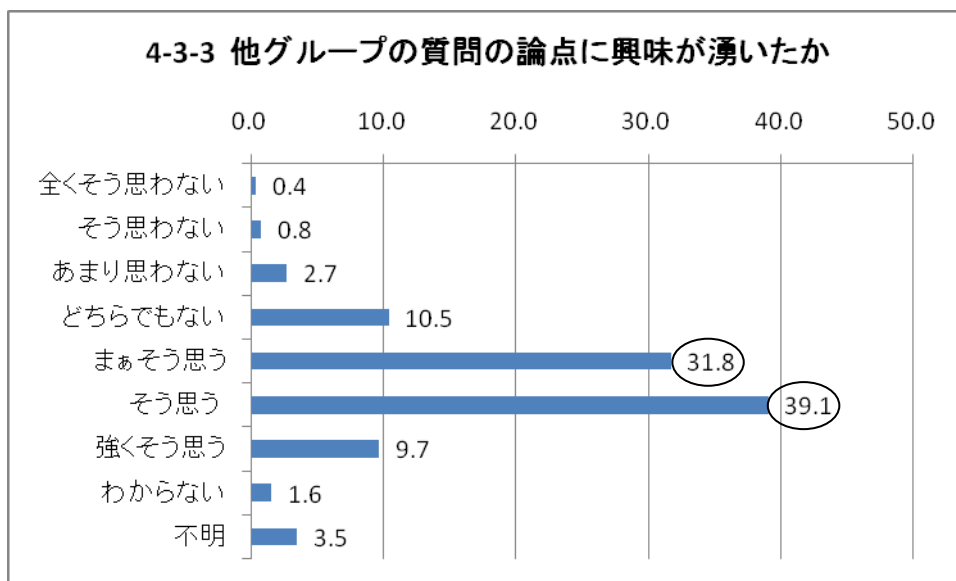
② 専門家の回答は適切だったか

- そう思う : 64.3%
- どちらでもない : 12.0%
- そう思わない : 19.8%



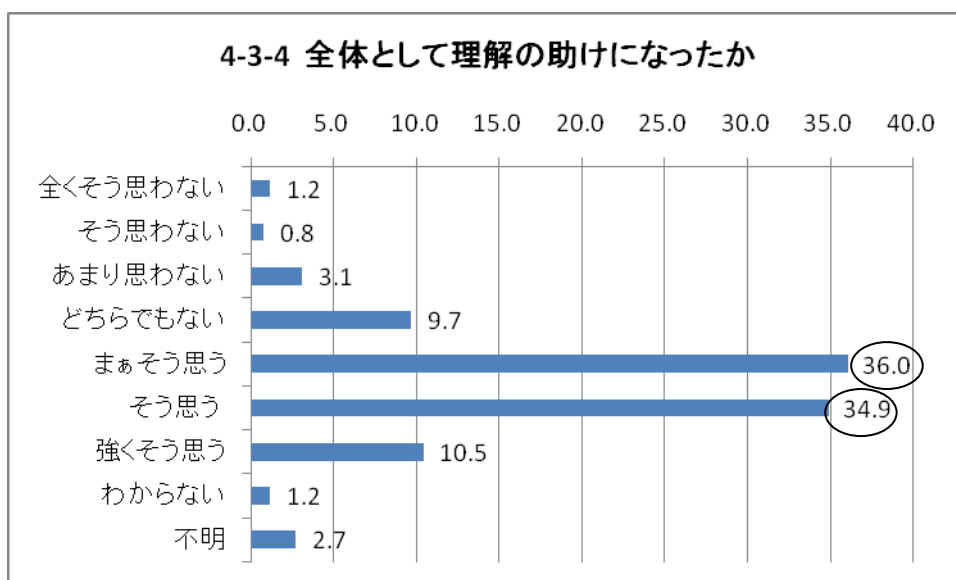
③ 他のグループの質問の論点に興味があったか

- そう思う : 80.6%
- どちらでもない : 10.5%
- そう思わない : 3.9%



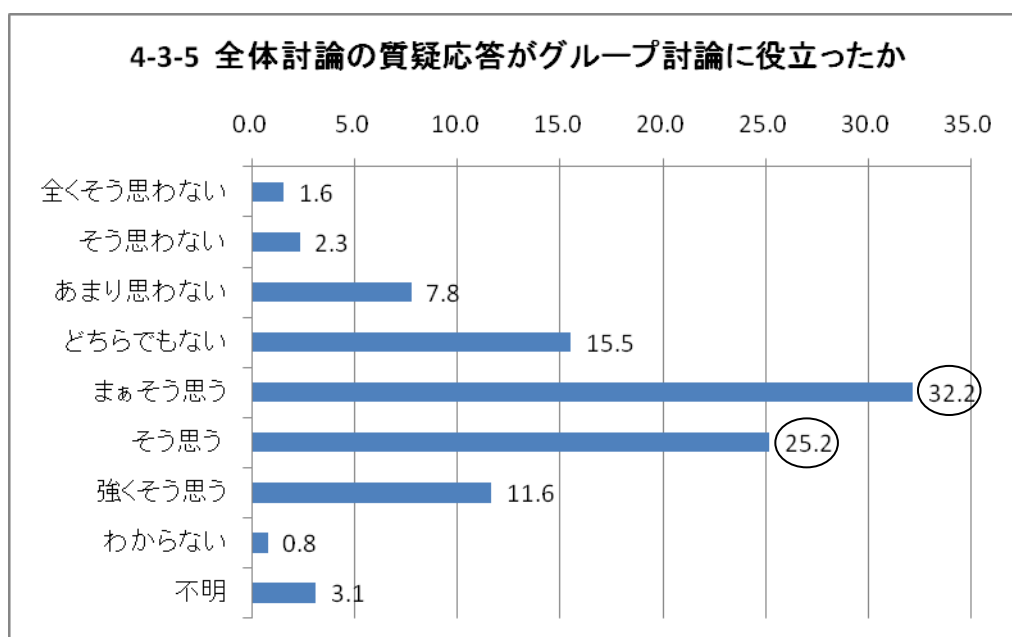
④ 全体として理解の助けになったか

- そう思う : 81.4%
- どちらでもない : 9.7%
- そう思わない : 5.1%



⑤ 全体討論の質疑応答がグループ討論に役立ったか

- そう思う : 69.0%
- どちらでもない : 15.5%
- そう思わない : 11.7%



全体討論の内容や進行について、5つの質問をしました。

①「司会者は適切に議論を整理していたか」という質問に対しては、図4-3-1のとおり、74.4%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は10.1%、「そう思わない」は12.0%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「そう思う」の37.6%、「まあそう思う」の24.8%でした。

②「専門家の回答は適切だったか」という質問に対しては、図4-3-2のとおり、64.3%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は12.0%、「そう思わない」は19.8%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「まあそう思う」の36.0%、「そう思う」の20.5%でした。

③「他のグループの質問の論点に興味を湧いたか」に対しては、図4-3-3のとおり、80.6%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は10.5%、「そう思わない」は3.9%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「そう思う」の39.1%、「まあそう思う」の31.8%でした。

④「全体として理解の助けになったか」という質問に対しては、図4-3-4のとおり、81.4%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は9.7%、「そう思わない」は5.1%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「まあそう思う」の36.0%、「そう思う」の34.9%でした。

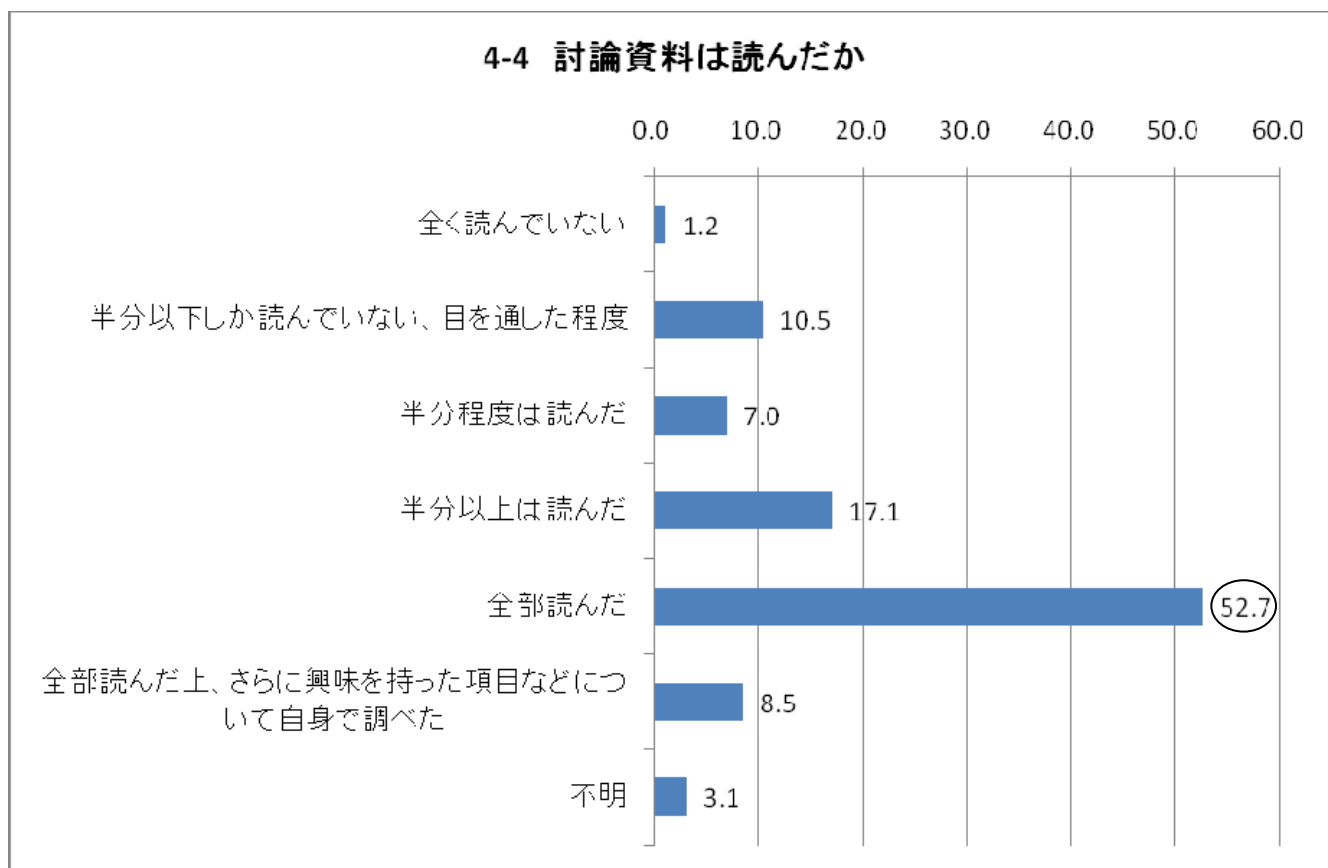
⑤「全体討論の質疑応答がグループ討論に役立ったか」という質問に対しては、69.0%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は15.5%、「そう思わない」は11.7%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「まあそう思う」の32.2%、「まあそう思う」の25.2%でした。

4-4 討論資料を読んだか

問 本日の討論に参加するまでに、郵送で受け取った資料をご覧になりましたか。

- 全部読んだ：61.2%
- 全く読んでいない：1.2%

事前に送付した討論用資料を読んだかどうか聞きました。図4-4のとおり、61.2%の参加者が、事前に送付された討論資料を「全部読んだ」と回答し、そのうち「全部読んだ上、さらに興味を持った項目などについて自身で調べた」という回答が8.5%ありました。「半分以上は読んだ」が17.1%、「半分程度は読んだ」が7.0%、「半分以下しか読んでいない、目を通した程度」は10.5%、「全く読んでいない」は1.2%でした。



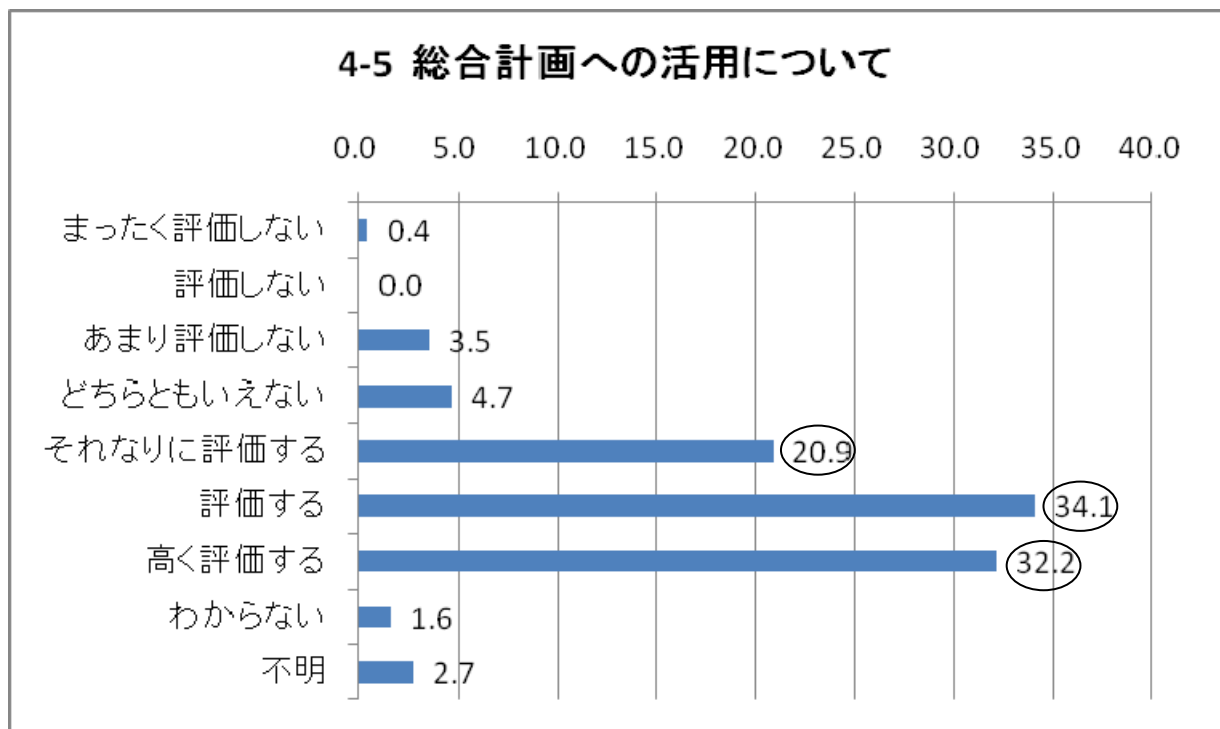
4-5 討論の結果が総合計画策定に活用されることについて

問 本日の討論で出てきた意見が、藤沢市の総合計画策定に際して、活用されるとしたら、どのように思いますか。

- 評価する：87.2%
- どちらともいえない：4.7%
- 評価しない：3.9%

「藤沢のこれから、1日討論」の結果が、総合計画策定に活用される可能性があることについてどう思うか聞きました。図4-5のとおり、87.2%の参加者が、討論で出てきた意見が、藤沢市の総合計画策定に活用された場合は「評価する」と回答しました。「どちらともいえない」は4.7%、「評価しない」は3.9%でした。

各選択肢別で見ると、最も回答が多かったのは「評価する」の34.1%、続いて「高く評価する」の32.2%、「それなりに評価する」の20.9%となっています。

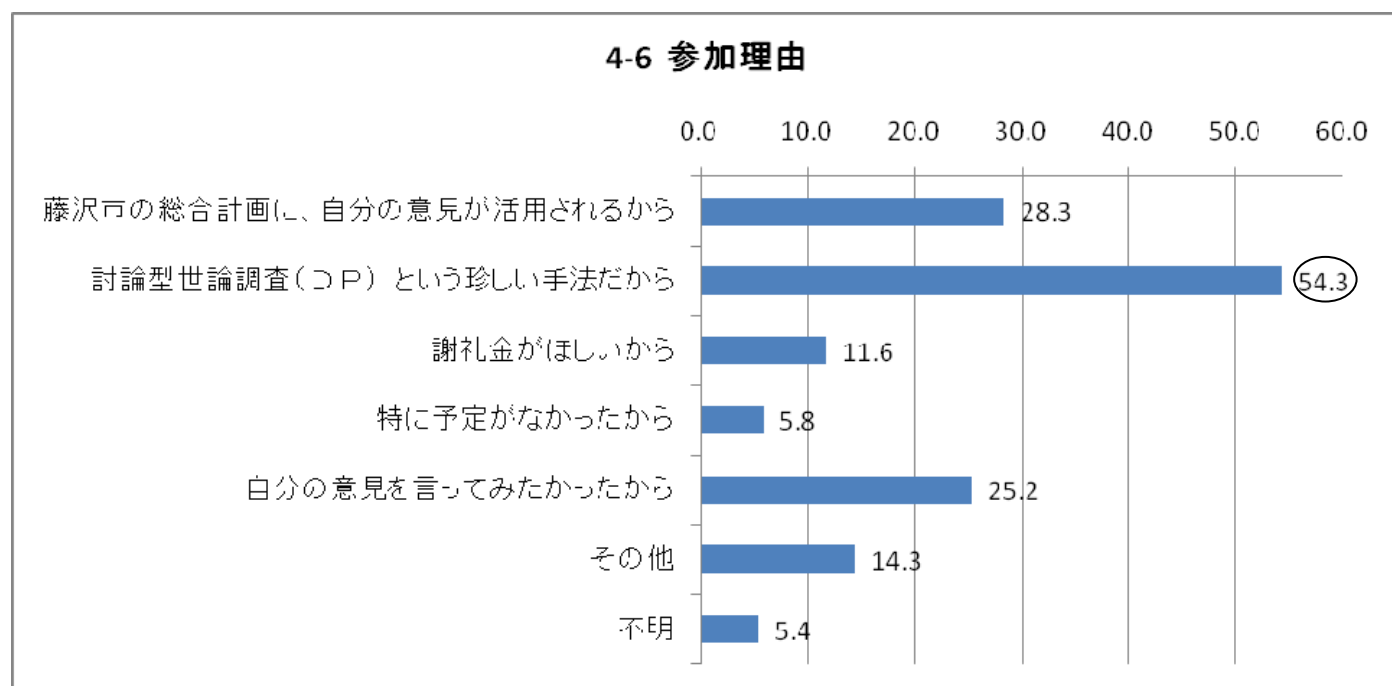


4-6 「藤沢のこれから、1日討論」への参加理由

問 「藤沢のこれから、1日討論」への参加を決めた理由は次のうちどれですか
(複数回答可)

- 討論型世論調査(DP)という珍しい手法だから : 54.3%
- 藤沢市の総合計画に自分の意見が活用されるから : 28.3%
- 自分の意見を言ってみたかったから : 25.2%

「藤沢のこれから、1日討論」に参加した理由を複数回答で聞きました。図4-6のとおり、最も多かった回答は、「討論型世論調査(DP)という珍しい手法だから」で54.3%でした。それに続いて「藤沢市の総合計画に自分の意見が活用されるから」が28.3%、「自分の意見を言ってみたかったから」が25.2%と続きました。

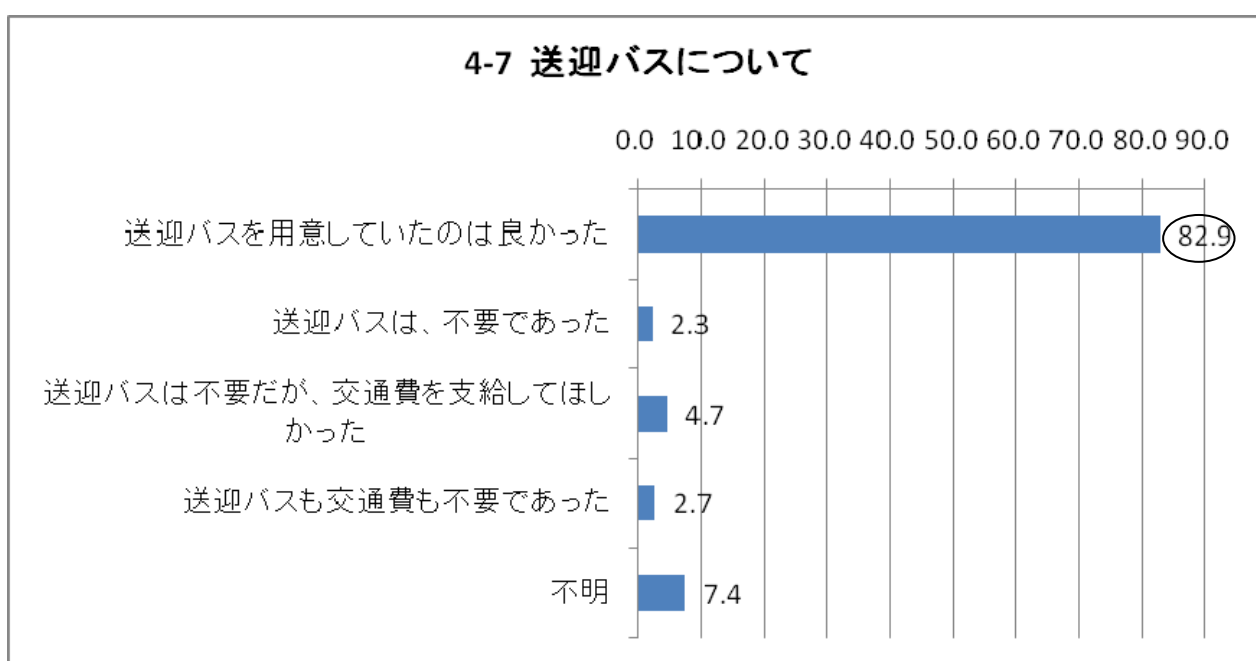


4-7 送迎バスについて

問 本日の交通手段についてどう思いますか。

●送迎バスを用意していたのは良かった：82.9%

「藤沢のこれから、1日討論」実施にあたり、会場である慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスと市内三カ所（藤沢市役所前、湘南台駅前、辻堂駅）をつなぐ参加者用送迎バスを用意しました。この対応について聞いたところ、図4-7のとおり、82.9%の参加者が「送迎バスを用意していたのは良かった」と回答しました。

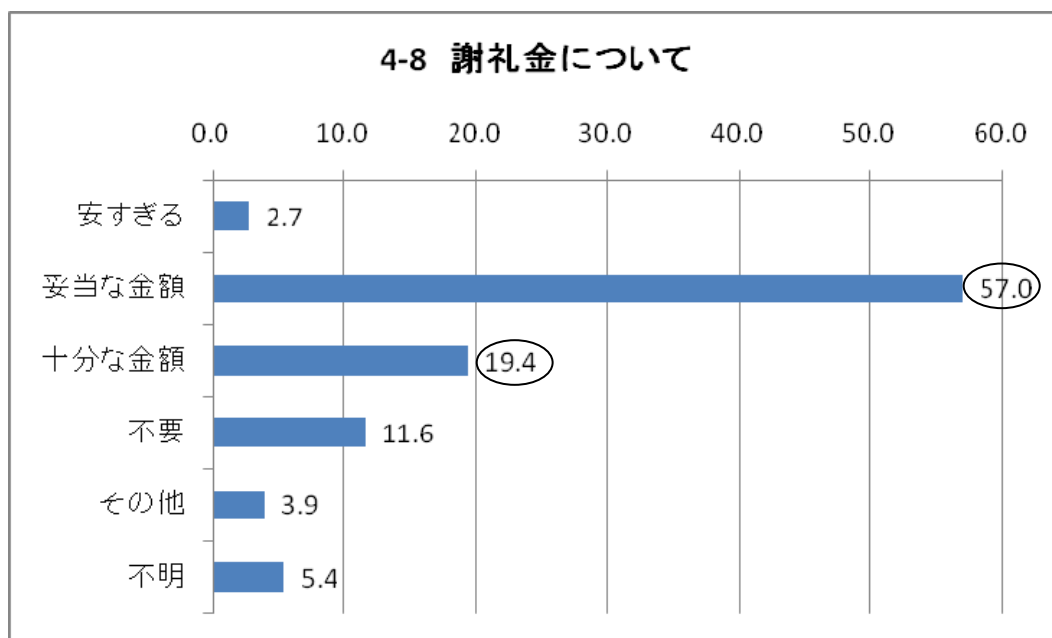


4-8 謝金について

問 謝礼金についてどのように思いましたか。

- 妥当な金額 : 57.0%
- 十分な金額 : 19.4%

「藤沢のこれから、1日討論」の参加者に対して、世論調査への協力の謝礼金として5000円をお渡ししました。この謝礼金の金額の大きさについて聞いたところ、図4-8のとおり、76.4%の参加者が「妥当な金額」、「十分な金額」と回答しました。「安すぎる」という回答は2.7%で、「不要」という回答も11.6%ありました。



おわりに

—調査結果の講評

調査結果の講評

慶應義塾大学DP研究会 曾根泰教

このDPの結果は、十分な情報を獲得し討論を通じてさまざまな意見を聞く機会をもつと、DPフォーラム参加者の意見は変化をすることが、改めて確認された。問題は、どちらの方向に変化するかどうかであるが、分権の方向、将来か現在か、手厚い行政サービスかそこそこの行政サービスか、ハードインフラかソフトインフラかなど、難問であるが、現代の政治で選択を迫られる課題に対して、市民がどのように反応し意見が変わるのかがもっとも興味のある調査項目であった。

その結果、変化には一定の方向性があることを読み取ることが出来る。

第1に分権の問題では、当初、一律的な基準を優先していた意見が、地域内の分権に傾いたということは、特筆すべきことである。今行われている地方分権の議論は、中央対地方の対立概念で分権が叫ばれているが、地方分権をしたその先、あるいは、市民から出発した政治・行政の仕組みを考える時に、この回答は大いに参考になる。

<一律か分権か>

- 一律の基準で決めるべき:47.6%⇒ 30.6%(17ポイント↓)
- 地域ごとの基準で決めるべき:24.5%⇒ 45.7%(21.2ポイント↑)

第2に政治・行政の対象は、現在の世代か、将来の世代かという問は、今後、有権者層の高齢化が進む実態を考える時に、将来世代が忘れ去られはしないかという疑念は絶えず出される疑問である。しかし、単純に現役世代にのみとられた反応ではないということは、高齢化社会においても、柔軟な政策余地があることを示している。この点の分析は、さらに必要となるが、民主主義理論の一つの転換点ともなりうる「発見」でもある。

<将来世代か現役世代か>

- 将来の世代を重視すべき:36.4% ⇒ 47.4%(11.0ポイント↑)
- 現役世代を重視すべき:30.1% ⇒ 24.1%(6.0ポイント↓)

第3の特徴は、行政サービスの程度についてであるが、従来は、サービスは多ければ多いほどいいという方向に進んできたが、財政制約や人口構成など、さまざまな制約要因を考慮すると、単純に「手厚いサービス」が選択されるとはいえないということは、むしろ、日本の地方自治が、財政制約などが多いにもかかわらず、過重に仕事を負っていることの反省にもつながる重要な発見である。

<手厚いサービス対ほどほどのサービス>

- 「手厚いサービスを行うべき」:29.4% ⇒ 24.5%(4.9ポイント↓)
- 「ほどほどのサービスでよい」:37.9% ⇒ 46.5%(8.6ポイント↑)

第4は、ハードインフラに対する投資か、ソフトインフラに対する投資かを聞いているが、この

点でも、一般的な「コンクリートから人へ」というような単純な反応ではなく、詳細な検討を必要とする項目ではあるが、公共投資は単純にハードインフラという選択だけではないことは確かであり、その意味では、未来志向と合わせて考えると、教育や社会保障などの未来のソフトインフラを重視していると読み解くべきであろう。

<ハードインフラかソフトインフラか>

- ハードインフラに投資すべき:9.1%⇒ 13.2%(4.1ポイント↑)
- ソフトインフラに投資すべき:66.6%⇒ 67.1%(0.5ポイント↑)

最後に、藤沢市が今後目指すべき都市像について聞いているが、いくつかの従来からあるキャッチフレーズ的な反応とはいうものの、「ネットワーク都市」が討論後アンケートでは増加し、その一方で、「スローライフ都市」が討論後に減少したことは興味がある結果である。ここでいう、「ネットワーク重視」とは、都市をネットワークで結ぶという意味ではなく、市の中を緊密な提携をはかるネットワークの構築を意味するものと思われ、市民社会の厚みを増す仕組み作りを考えていると解してもいいだろう。となると、単純なキャッチフレーズ型の都市像よりも、今後はもっと着実な基盤を持つ都市像として作り上げられる必要があるだろう。

<今後の都市像>

- ネットワーク都市:24.9%⇒ 41.9%(17.0ポイント↑)
- スローライフ都市:39.6%⇒ 27.9%(11.7ポイント↓)

このように、ここに出てきた回答は、さらに分析を必要とするが、大変興味があり、かつ重要な選択がなされていることだけは確かである。DPを行うことではじめて分かったことが多いということが大きな収穫である。